

“暮らしつづける”想いが叶うまち かわにし



令和3年度

事業報告書

社会福祉法人 川西市社会福祉協議会

目 次

令和3年度 事業報告

令和3年度事業の総括報告	1
令和3年度重点事業方針の内容と実績	2
A 法人運営事業	3
B 地域福祉事業	
B1 地域福祉活動推進事業	7
B2 ボランティア活動センター事業	15
B3 日常生活自立支援事業	22
B4 成年後見支援センター事業	24
B5 民生委員児童委員協議会連合会事業	29
B6 共同募金配分金事業	31
B7 基金事業	34
B8 資金貸付事業	36
B9 善意銀行事業	38
B10 包括的支援体制整備事業	39
C すこやかサービスセンター事業	42
D 障がい者相談支援事業	47
E 障がい者施設	
E1 小戸作業所	52
E2 川西作業所	56
E3 ひまわり荘	59
F 障がい児施設	
F1 川西さくら園	61
F2 さくらんぼ	68
G 養護老人ホーム 満寿荘	72
H 老人福祉センター	
H1 一の鳥居老人福祉センター	78
H2 緑台老人福祉センター	81
H3 久代老人福祉センター	84
I 子育て支援	
I1 久代児童センター	87
I2 ファミリーサポートセンター	89

令和3年度事業の総括報告

令和3年度は、前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症が、猛威を振るい、我々の生活に大きな影響を及ぼしました。本会でも利用者や職員に陽性者や濃厚接触者が出て、事業運営にも少なからず影響が生じました。地域活動も制限を受け、人と人との「つながり」の大切さを、さらに感じる1年でありました。

川西市社会福祉協議会（以下「本会」という）では、「ウイズコロナ～コロナ禍でもできること～」は何かを考え、各地区に応じた地域福祉活動の推進に取り組みました。本年度より、フードドライブ活動にご協力頂いている「コープこうべ」様をはじめ、「ダイエー」様「光洋」様などご協力いただける事業所が増え、フードパントリー・こども食堂を運営される団体への食材提供を実施するとともに、訪問型の助けあい活動も地域に広がりを見せた1年でした。

また、新型コロナウイルス感染症に起因して、生活困窮や社会的孤立、ひきこもり、児童虐待やDV、高齢者や障がい者への虐待等複合化・複雑化した生活課題が増加しました。

本会では、新型コロナウイルス感染症による生活困窮に対しては、社協窓口にて、生活福祉資金の緊急小口資金および総合支援資金の特例貸付を継続し対応いたしました。また、複合化・複雑化した生活課題に対しては、昨年度より配置した相談支援包括化推進員を中心に社協の本部や事業所、行政や関係機関等との連携のもと、支援を実施しました。

施設支援におきましては、感染症対応マニュアルに基づき、感染症対策をしつかり実施した上で利用者への支援の充実に努めました。また、万一感染症が発生した場合も、その影響を最小限に抑えられるようグループ分け・ゾーン分けを実施するなど工夫しました。

新しい生活様式の確立が求められる中、ICTの活用が、定着してきた1年でもありました。本会でも、オンラインを活用し、会議や面談、新型コロナウイルス感染症に起因する理由でお休みされている施設利用者への在宅支援、関係機関や市民に向けての研修会等を実施いたしました。

相談支援においては、コロナ渦においても、これまでどおり成年後見センター「かけはし」・障がい者基幹相談支援センター・川西さくら園相談支援において、地域の中核的な相談機関としての役割を担い、事業を推進いたしました。

以下、令和3年度に本会が実施いたしました事業につきましてご報告いたします。

令和3年度 重点事業方針の内容と実績

	方針項目	取組み内容と実績
1	地域共生社会の実現に向けた総合的・重層的な相談支援体制の検討	地域住民の複合化・複雑化した地域生活課題や支援ニーズに対応する包括的な支援体制の構築をめざし、相談支援包括化推進員を1名配置し、支援を実施しました。年齢や属性を問わない相談支援、参加支援及び地域づくり支援が一体的に実施できるよう、行政と検討チーム会議を継続実施するとともに、令和4年3月からは、相談支援実務者会議に参画し、支援担当者間の連携を深めるとともに、ケース検討を通して連携のあり方を検討しています。
2	成年後見制度利用促進に向けた中核機関としての取組み	令和3年度に中核機関を受任し、後見人の候補者となる専門職（弁護士、司法書士、社会福祉士）の登録を進め、受任調整会議を実施しました。また、行政および関係機関等で構成する支援検討会議を随時実施し、本人に寄り添った支援ができる後見人等の選任をめざし、申し立て支援を実施しました。引き続き、市民後見人養成講座を実施し、市民後見人養成に努めるとともに、市民後見受任者への後方支援を実施いたしました。
3	生活支援体制の市内全区域の整備に向けた取組み	日々の地域支援や相談支援等を通して把握した地域生活課題や支援ニーズの共有、解決に向けたネットワークづくりおよび、連携と協働による地域づくりの支援を行いました。また、第一層協議体に参画し、地域課題の解決に向けた提言を行いました。
4	地域福祉人材の確保と育成	地域福祉活動の担い手不足及び高齢化は、長年の課題であり、ボランティアコーディネーターと生活支援コーディネーターが連携し、訪問型支え合い活動の立ち上げ及び運営支援を行いました。また、研修会・講習会を実施し、活動や参加のきっかけづくりを行うとともに、福祉ネットワークで講話を実施するなど、地域福祉人材確保・人材育成に努めました。
5	第5次川西市地域福祉推進計画の策定開始	新型コロナウイルス感染症への対応のため、市の地域福祉計画の計画期間が1年延長されたことに伴い、次期計画の策定を延期しました。
6	福祉施設の指定管理者の指定更新に向けた取組み	市から指定管理を受託している9箇所の福祉施設について、小戸作業所・川西作業所・川西さくら園・ひまわり荘・満寿荘については令和4年より5年間、久代児童センター、久代老人福祉センター、緑台老人福祉センター、一の鳥居老人福祉センターについては3年間の指定を受けることとなりました。

A	法人運営事業	決算科目	法人運営事業
---	--------	------	--------

主な事業内容・成果
第4次川西市地域福祉推進計画に基づき、感染症拡大の中でも、「ほっときません！あきらめません！」の活動を進めました。 内部監査を実施し法令遵守を徹底すると共に、その結果を共有し取組の向上に努めました。 法人運営の収支改善に取り組んだ結果、積立金の取崩しはありませんでした。 新たに理事・評議員を選任し、新しい体制をスタートさせました。川西市から講師を招き、施策についての研修会を開催しました。 第5次地域福祉推進計画の策定準備については、市の計画作成が1年延期されたことに伴い、計画の整合性を保つため本会の計画作成も1年延期しました。

今後の課題
① 引き続き、理事会・評議員会において、本会事業の理解促進と機能強化を行うための取組を行う必要があります。 ② 年度計画等の進捗状況を適切に管理し、次期地域福祉推進計画の策定に向け、課題の整理を行う必要があります。 ③ コロナ禍で再認識された本会のもつ機能が、住民の安心安全につながるように、関係団体等との連携を深める取組みを継続する必要があります。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	121,173,809	120,703,926	△ 469,883
会費収入	8,219,910	7,581,068	△ 638,842
経常経費補助金収入	83,335,015	65,223,050	△ 18,111,965
投資有価証券売却収入	0	0	0
その他	29,618,884	47,899,808	18,280,924
(支 出)	121,133,245	120,855,201	△ 278,044
人件費	105,145,712	80,846,485	△ 24,299,227
事業費	1,211,952	898,006	△ 313,946
事務費	6,173,465	4,753,019	△ 1,420,446
積立資産支出	130,193	20,100,096	19,969,903
拠点区分間繰入金支出	6,977,682	12,986,640	6,008,958
その他	1,494,241	1,270,955	△ 223,286

当期資金収支差額	40,564	△ 151,275	△ 191,839
前期末資金収支残高	1,121,328	1,161,892	40,564
当期末支払資金残高	1,161,892	1,010,617	△ 151,275

主な増減理由
① 経常経費補助金収入は、人事異動及び退職給付費の減に伴う人件費の減 ② その他収入は、善意銀行をとおしての寄付による増 ③ 人件費は、人事異動に伴う減及び退職給付費支出の減 ④ 積立資産支出は、定期預金への預入による増

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2-1
(1)	理事、評議員、地区福祉委員研修の充実	取組項目	⑤
・ 理事会における業務執行や評議員会における議決には本会事業の理解を深めていただくことが重要です。役員を対象とした研修会などを実施することにより、社協の組織や事業、理事、評議員の役割について理解を深め、組織運営の基盤強化につなげます。 【実績と成果】 ・ 「地域共生社会と地域福祉の推進」をテーマに、社協を取り巻く現状と課題、役割について、理事・評議員委員とともに理解を深めました。			

2	福祉情報の受発信	活動項目	2-2
(1)	福祉情報の受発信に対する取組みの強化	取組項目	①

・コミュニティーワークやケースワークを通じて住民ニーズを把握し、住民が求める福祉情報の発信や社協活動の本質に焦点を当てた広報活動に努めます。	
【実績と成果】 ・地域の活動にスポットを当てた広報紙面の作成やコロナ禍の善意銀行の取組を紹介することで支援者の輪が広がりました。	
(2)	社協職員一人ひとりの情報発進力向上のための取組み 取組項目 ②
・内部情報伝達の仕組みなどを整理し、所属が異なっても常に同じ情報を職員が共有できるようネットワークを構築します。また、日々の業務において法人理解が深まるようなOJTの仕組みづくりを進めます。	
【実績と成果】 ・引き続き、所属長会やパソコンの内部ネットワークを通じた情報発信を各部署で共有する取組みを行いました。OJTは一部で取組が始まりました。	
(3)	ホームページや広報紙、情報紙等の充実 取組項目 ③
・広報誌やホームページに加え、新たに開設したLINE公式アカウントなどにより、必要なところに必要な情報が届くよう、適切な媒体を選択して発信を行います。	
【実績と成果】 ・広報紙の紙面を再構成するとともに、ホームページの更新にも努めました。LINEの友達登録も徐々に増えています。(397人)	

3	地域福祉に係る財源の確保	活動項目	2-4												
(1)	各種自主財源のあり方検討	取組項目	①												
・ 社協会費や共同募金の依頼方法などの課題に対して、今後の方針を定めるための内部協議を行うとともに、住民団体や関係団体と協議を進めます。 ・ 「税額控除制度」の適用を受けることのできる社会福祉法人として、個人による小口の寄付を促進できるようPRを行います。															
【実績と成果】															
・ 社協会費の収入減に歯止めがかかりません。対策の検討も十分ではありません。新しい寄付方法の採用など取組を進める必要があります。															
① 会員会費実績															
・ 地区福祉委員会別会員会費集計表 (単位:円)															
地区名	金額	地区名	金額	地区名	金額										
久代小	320,112	明峰小	875,761	けやき坂小	94,327										
加茂小	606,824	多田	321,855	東谷	450,800										
川西小	494,450	多田東	446,830	大和	552,220										
桜小	230,300	グリーンハイツ	1,749,446	北陵	295,705										
北小	245,500	清和台	776,938	その他	120,000										
			合計		7,581,068										
・ 年度別会員会費の推移 (単位:円)															
<table><thead><tr><th>年度</th><th>金額</th></tr></thead><tbody><tr><td>平成29年度</td><td>9,542,841</td></tr><tr><td>平成30年度</td><td>9,552,982</td></tr><tr><td>平成31年度</td><td>9,284,769</td></tr><tr><td>令和2年度</td><td>8,219,910</td></tr><tr><td>令和3年度</td><td>7,581,068</td></tr></tbody></table>				年度	金額	平成29年度	9,542,841	平成30年度	9,552,982	平成31年度	9,284,769	令和2年度	8,219,910	令和3年度	7,581,068
年度	金額														
平成29年度	9,542,841														
平成30年度	9,552,982														
平成31年度	9,284,769														
令和2年度	8,219,910														
令和3年度	7,581,068														

②川西市共同募金委員会への協力

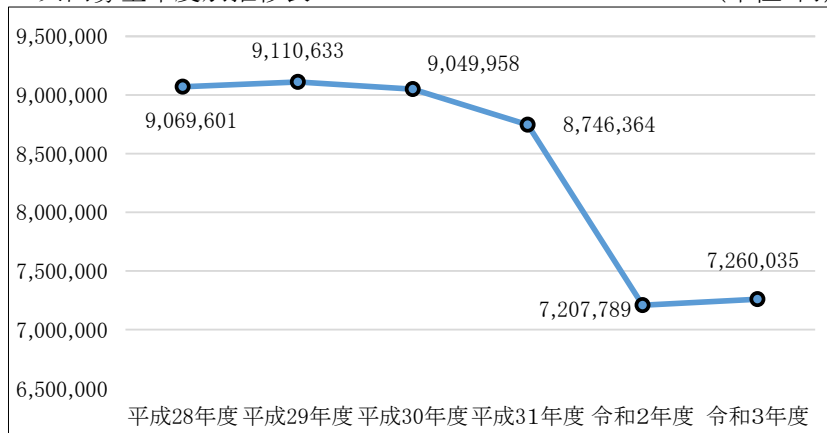
・共同募金実績

(単位:円)

広域目標額(円)	地域目標額(円)	目標額計(円)	実績額(円)	達成率(%)	集計完了日
2,618,000	5,882,000	8,500,000	7,260,035	85.4%	令和3年12月31日

・共同募金年度別推移表

(単位:円)

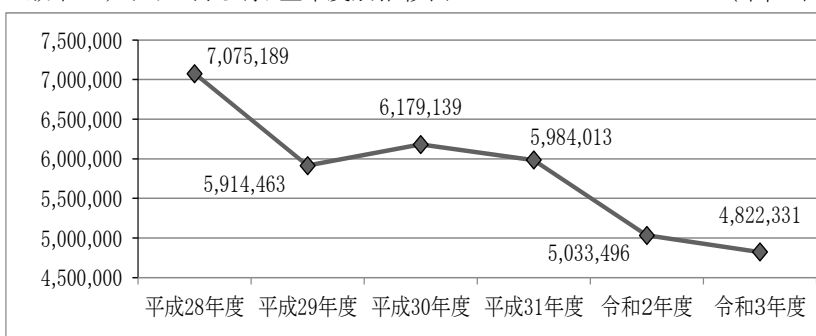


・歳末たすけあい運動持ち寄り金実績

目標額(円)	実績額(円)	達成率(%)	集計完了年月日
5,800,000	4,822,331	83.1%	令和3年12月31日

・歳末たすけあい運動持ち寄り金年度別推移表

(単位:円)



(2) 新たな収益事業の検討

取組項目 ②

- ・既存事業の整理による収支の改善に努め、新たな事業については、クラウドファンディングなどの実施も視野に入れて検討を進めます。

【実績と成果】

- ・収入増に向けては、次年度の社協広報紙への広告掲載が決定しました。その他の取組については検討を続けます。

4 ほっとかない、あきらめない支援の強化

活動項目 3-2

(1) 職員の資質向上

取組項目 ②

- ・法人として一貫性のある職員研修を行うため、研修委員会の実施方法などの見直しを行うとともに、充実した研修が実施できるよう議論を深め、職員の資質向上に努めます。

【実績と成果】

- ・施設では年間計画に基づき研修を実施しました。法人においては会計研修、社協の役割についての研修を実施しました。

5	専門機関・団体との連携、ネットワークの強化	活動項目	3-3
(1)	市内の社会福祉法人との連携	取組項目	③
・ 川西市社会福祉法人連絡協議会(ほっとかへんネットかわにし)の事務局を担い、地域共生社会における社会福祉法人の地域貢献を促進し、法人間連携の取組についても提案します。 【実績と成果】 ・ 新型コロナウイルス感染症感染拡大の懸念により、具体的な活動を進めることができませんでした。 ・ 役員を対象とし、新型コロナウイルス感染症対策、包括的支援体制構築に向けた社会福祉法人の果たすべき役割について研修会を開催しました。			

その他

事業項目	①第4次川西市地域福祉推進計画の進行管理
・ 第4次地域福祉推進計画の中間評価をもとにした事業展開を行います。また、各計画がより連携のとれたものとなるように地域福祉計画や地区福祉計画の策定が始まる前に第5次地域福祉推進計画の策定を開始し、活動方針を明確に提示するための準備を始めます。 【実績と成果】 ・ 第4次地域福祉推進計画をもとにした年度計画にしたがい事業を展開しました。第5次地域福祉推進計画の策定準備については、市の計画策定が1年延期されることとなり、計画の整合性を保つため本会の計画策定も1年延期することとなりました。延期となった1年間は、第4次の推進計画に基づき事業を実施します。	
事業項目	②法令遵守体制の確立
・ コンプライアンスの徹底やリスクマネジメントを日々の業務の中に定着させるため、会議や研修などを通じて職員に定期的に働きかけます。 【実績と成果】 ・ 会計に関することは、事務担当及び会計責任者を対象に研修会を開催しました。また、事業運営等については事業及び施設ごとの監査を継続実施し、法令遵守の徹底を図りました。	
事業項目	③福祉避難所開設・運営マニュアルに基づく訓練の検討
・ 養護老人ホーム「満寿荘」及び障がい者デイサービスセンター「ひまわり荘」にて作成した福祉避難所開設・運営マニュアルに基づき、川西市と協議をしながら福祉避難所開設・運営に係る訓練を検討します。 【実績と成果】 ・ 新型コロナウイルス感染症の蔓延による感染拡大の懸念により、訓練実施に向けた検討が進みませんでした。	

B1	地域福祉事業	決算科目	地域福祉活動推進事業
----	--------	------	------------

主な事業内容・成果
コミュニティワーカー（地区担当職員）兼生活支援コーディネーターが地域活動へ積極的に参画することにより地域課題を把握し、住民と共に課題解決に向けて取り組みました。 新型コロナ禍にあつて従前の活動の継続は困難でしたが、今だからできることを地域とともに追求し、各地区に応じた地域福祉活動の推進に取り組みました。

今後の課題
地域福祉の担い手の高齢化は、自治会や子ども会、PTAなど、これまで地域福祉活動への参加のきっかけとなっていた組織の急激な弱体化も相まって深刻さを増しています。 地域共生社会の基盤である地域づくりにおいて、多様な主体との協働、連携が一層、求められており、生活支援コーディネーター・コミュニティワーカーによるソーシャルワークの質の向上と体制強化が必要です。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	54,972,595	45,574,945	△ 9,397,650
経常経費補助金収入	28,378,829	24,962,933	△ 3,415,896
受託金収入	8,056,987	12,483,388	4,426,401
その他	18,536,779	8,128,624	△ 10,408,155
(支 出)	54,873,327	44,303,500	△ 10,569,827
人件費	35,326,022	36,227,117	901,095
事業費	9,892,083	2,014,308	△ 7,877,775
事務費	634,030	640,622	6,592
助成金支出	4,941,066	4,736,640	△ 204,426
その他	4,080,126	684,813	△ 3,395,313
予備費	0	0	0

当期資金収支差額	99,268	1,271,445	1,172,177
前期末資金収支残高	1,789,831	1,889,099	99,268
当期末支払資金残高	1,889,099	3,160,544	1,271,445

主な増減理由
① その他収入、事業費支出は大和サロンの大規模修繕完了による減 ② その他支出は、ひだまり基金の預金間(普通・定期)の振り替えがなかったことによる減

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	福祉デザインひろばづくりの推進	活動項目	1－1
(1)	住民主体の「福祉デザインひろば」づくりの推進	取組項目	①
・ コミュニティワーカーのソーシャルワーク能力の向上・体制強化を図り、地区福祉委員会へのサポート体制を強化し、より丁寧に地域と関わることで小学校区ごとの「福祉デザインひろばづくり」を支援します。			
【実績と成果】			
・ コミュニティワーカーの地域支援活動状況			
活動内容		件数	内容の詳細
会議・行事等への参加		539 件	定例会等での助言・提案、ふれあいサロンや行事等各種活動への支援、各部会活動への支援等
会議の主催、講話の実施等		94 件	地域活動支援に資する会議の主催や研修会での講話等
相談対応		348 件	活動及び個別支援に関する相談対応
連絡調整		433 件	活動に関する連絡調整
その他		34 件	上記以外の活動

・「福祉デザインひろばづくり」実施状況(図①)

活動内容		実施地区数	延活動回数	延参加者数
1・協議の場(①+②+③+④)			409 回	4,757 人
①福祉ネットワーク会議等第2層圏域における協議の場の開催		14 地区	36 回	490 人
②座談会・懇談会などの開催		4 地区	12 回	132 人
③理事会、役員会等の開催		14 地区	358 回	4,101 人
④個別支援に関する話し合いの場の開催、参加		1 地区	3 回	34 人
2・広報・啓発		実施地区数	延開催回数	延参加者数
⑤啓発活動(福祉講座や研修会など)(⑥+⑦+⑧+⑨)			54 回	1,763 人
⑤ 内 訳	⑥福祉委員対象(部会研修含む)	13 地区	21 回	521 人
	⑦地域住民対象(車いす体験学習、公民館共催講座含)	4 地区	8 回	300 人
	⑧認知症サポーター養成講座(主催・共催)	6 地区	11 回	498 人
	⑨上記以外の啓発活動(SOS訓練など)	5 地区	14 回	444 人
⑩広報紙(地区ニュース)の発行		単独	11 地区	発行回数
		合同	5 地区	55 回
		両方	2 地区	
				部数/1回 243,679 人
3・居場所・通いの場(月1回以上の開催)		開催箇所数	延開催回数	延参加者数
⑪誰もが参加可能な居場所の開催(⑫+⑬+⑭)		73 箇所	790 回	9,941 人
⑪ 内 訳	⑫ふれあいサロン	53 箇所	524 回	5,319 人
	⑬コミュニティカフェ	16 箇所	255 回	4,322 人
	⑭コミュニティレストラン	4 箇所	11 回	300 人
⑮認知症の方やその家族を主たる対象としたカフェなどの開催		9 箇所	35 回	575 人
⑯障がい者やその家族を主たる対象としたカフェなどの開催		8 箇所	42 回	532 人
⑰高齢者対象のサロンやカフェの開催		6 箇所	51 回	766 人
⑱介護予防に関する通いの場の開催・開催支援(各種体操、まちの保健室、認知症予防事業など)		8 箇所	143 回	1,953 人
⑲子育てサロンの開催・支援		15 箇所	12 回	120 人
⑳子ども食堂の開催		1 箇所	12 回	1463 人
㉑上記以外の居場所・通いの場の開催		6 箇所	205 回	773 人
4・住民交流(月1回未満の開催)		開催箇所数	延開催回数	延参加者数
㉒高齢者のつどいなどの開催(ひとり暮らし高齢者対象含)		43 箇所	32 回	1,019 人
㉓ひとり暮らし高齢者の会の育成・支援		9 箇所	7 回	760 人
㉔介護予防に関する事業(認知症予防含)の開催・支援		7 箇所	17 回	303 人
㉕三世代交流を目的とした行事(バザー含)の開催		44 箇所	104 回	6,220 人
㉖障がい者との交流を目的とした行事の開催		9 箇所	8 回	233 人
㉗防災に係る活動の開催・参加・協力		14 箇所	10 回	405 人
㉘上記以外の住民交流を目的とした行事の開催		15 箇所	15 回	518 人
5・相談		開催箇所数	延開催日数	延相談件数
㉙地区相談窓口(単独設置・サロン等併設型問わず)		40 箇所	579 日	285 件

6・見守り訪問	実施地区数	対象者延人数	活動者延人数
⑩訪問活動(手紙等、間接的な訪問も含む)	7 地区	4,525 日	2,964 件
⑪住民主体の見守り会議等	2 地区	47 日	318 件
その他の活動	実施地区数	延開催回数	延参加者数
敬老のお祝い等	6 地区	202 回	1,755 件

訪問型助けあい活動実施地区数	ボランティア登録者数	延活動回数	延活動者数
14 地区	627 人	3,809 回	4,112 人

(2)	地域のニーズに合わせたふれあい交流事業の推進～ふれあい～	取組項目	②
-----	------------------------------	------	---

- ・地区福祉委員会とともに、どのような状況下でもつながることができる、各地域のニーズに合わせたふれあい交流づくりを進め、住民同士の顔の見える関係づくりを広めます。

【実績と成果】

- ・コロナ禍で居場所などを通じたふれあいの活動を休止せざるを得ない状況の中、ふれあい活動を訪問活動に切り替えて見守りを行うなど、活動を工夫することでつながりを持続けることを意識した活動が広がりました。また、地区によってはICT(スマホやLINE、ZOOMなど)を学びあう居場所を開催し、会議や研修などをZOOMを用いて実施しました。
- ・フードドライブ、フードパントリー、子ども食堂など、食を通じた地域活動への参加を幅広く働きかけ、住民同士の顔の見える関係づくりが広まるよう取り組みました。

＜地域福祉活動器材の貸し出し状況＞

福祉活動器材	貸出団体・グループ数(延べ)
テント、疑似体験セット、サンタ衣装、餅つきセット、拍子木セット、プロジェクター、スクリーン、カプラ、ソフトブロックほか	29団体・グループ

(3)	地区相談窓口の実施支援～支えあい～	取組項目	③
-----	-------------------	------	---

- ・地域における相談窓口の意義やあり方の場や地区相談窓口研修の実施を通して、地区相談窓口の機能充実を支援します。

【実績と成果】

※地区相談窓口事業の実施状況は、図①の活動内容「5. 相談」を参照。

- ・相談員研修を適宜行い、相談員の学びを支援しました。また、重層的支援体制整備事業を見据え、地域の多様な場が相談の入り口となるよう、地域福祉活動の意義について積極的に啓発しました。

(4)	小学校区単位でのネットワークづくり～つながりあい～	取組項目	④
-----	---------------------------	------	---

- ・福祉ネットワーク会議において、多様な関係団体に対し参加依頼を呼びかけ、地域住民との連携を深め、地域課題を共有し、解決に向けた協議による、具体的な取り組みが進むように、協議体機能の向上を図ります。

【実績と成果】

- ・議題の設定や出席者の調整など、福祉ネットワーク会議が効果的な協議の場となるように努めました。また、実際の協議の場においては議題となる取り組みの必要性の講話や他の専門職との地域課題の、その後の活動に結びつくような働きかけを適宜行いました。

(5)	子育て支援の推進	取組項目	⑤
-----	----------	------	---

- ・子育てサロンや子ども食堂などの運営支援を通して、ふれあいや支えあいによる地域の子育て環境の向上を図ります。

【実績と成果】

- ・フードドライブを本会だけでなく企業や地域との連携で進め、集まった食品を子ども食堂やフードパントリーの実施団体へ寄付することにより、子育て支援を推進しました。
- ・活動遊具の貸し出しを通して、まちの子育てひろばや子ども会などの活動を支援しました。

活動遊具の貸し出し状況 2 件

(6)	地区福祉委員会事業へのより幅広い住民の参画推進	取組項目	⑥
幅広い住民が参画できる仕組みづくりのため、関係団体との様々な協議の場で、各地域の実情を把握することに努めます。			
【実績と成果】			
第2層圏域における協議の場などあらゆる場面において住民の意見の把握に努めました。また、若い世代の参画のきっかけとなるよう、住民同士でスマホを学びあう場づくりに取り組みました。			

2	普段も災害時も助け合えるつながりづくり	活動項目	1-3
(1)	関係団体との定期的な協議・検討	取組項目	①
川西市やボランティア活動センター及び関係団体等と連携し、災害時における対応について、定期的な協議・検討を行います。			
【実績と成果】			
定期的な協議・検討には至りませんでした。平時だけでなく災害時におけるスマホの有用性を地域に啓発し、「つながりサポート」事業(スマホの学びあいから地域福祉活動への活用を目指す)を推進すると共に、地域拠点におけるWi-Fi環境の整備を市に提案しました。			

3	地域資源の開発(生活支援体制整備事業の推進)	活動項目	1ー4												
(1)	ニーズに応じた地域福祉資源の開発	取組項目	①												
・ 1名あたりの担当地区数を減らすことで、より丁寧な地域支援を通じた協議の場などの地域福祉活動の活性化を進め、住民とともに「地域に見える化」を図りながらニーズを把握、顕在化し、必要に応じて新たな資源を開発します。															
【実績と成果】															
・ 1名増員により1名あたりの担当地区数を減らし地域へアウトリーチする頻度を高め、訪問型助けあい活動を担うグループの組織化など、新たな地域資源の開発に住民とともに取り組みました。 ・ 3月から運用された「かわナビ」に地区福祉委員会活動の情報を把握・提供し、地域資源の見える化を進めました。															
(2)	身近なエリアでの見守り・支えあい活動の推進	取組項目	②												
・ 1名あたりの担当地区数を減らすことで地域ケア個別会議などへ参加できるようにし、個別ニーズを把握し、より小さなエリアでの見守りや支えあい活動が広がるよう地域へアプローチします。															
【実績と成果】															
・ 定例会や部会にて他地区や他市の事例を紹介するなど、コロナ禍でも見守りや支えあい活動が推進されるようアプローチしました。また、訪問型助けあい活動の定例会や自治会単位での見守り会議へ積極的に参加し、活動がより推進されるよう適宜、助言しました。															
(3)	地域におけるコーディネーター機能の強化	取組項目	③												
・ 引き続き、コミュニティワーカー・生活支援コーディネーターの増員を働きかけるとともに、研修への参加などを通して職員のソーシャルワーク技術の向上を図り、地域におけるコーディネート機能を強化します。															
【実績と成果】															
・ 生活支援コーディネーター兼コミュニティワーカーを4名体制へと強化し、積極的に地域へ出向くとともに、ゼミ形式の勉強会や研修会への参加などを通して、ワーカー個々のソーシャルワーク技術の向上を図りました。															
<table><tr><td>年度</td><td>生活支援コーディネーター</td><td>コミュニティワーカー</td></tr><tr><td>平成31年度</td><td>第2層 1名</td><td>2名(兼務)、1名管理職</td></tr><tr><td>令和 2年度</td><td>第2層 1名</td><td>1名(専任)、1名(兼務)、1名管理職</td></tr><tr><td>令和 3年度</td><td colspan="2">生活支援コーディネーター(第2層)兼コミュニティワーカー 4名</td></tr></table>				年度	生活支援コーディネーター	コミュニティワーカー	平成31年度	第2層 1名	2名(兼務)、1名管理職	令和 2年度	第2層 1名	1名(専任)、1名(兼務)、1名管理職	令和 3年度	生活支援コーディネーター(第2層)兼コミュニティワーカー 4名	
年度	生活支援コーディネーター	コミュニティワーカー													
平成31年度	第2層 1名	2名(兼務)、1名管理職													
令和 2年度	第2層 1名	1名(専任)、1名(兼務)、1名管理職													
令和 3年度	生活支援コーディネーター(第2層)兼コミュニティワーカー 4名														

(4)	協議の場の充実	取組項目	④
- 個別支援を担う機関との協議を進め、住民主体の会議と専門職が主導する会議と連携し、協議の場の充実を図ります。 【実績と成果】 - 小学校圏域(第2層)における協議の場の運営を支援し、場の充実を図りました。5カ所の地域包括支援センターと協議の場を持ち、今後の連携に向けて話し合いました。			

4	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2-1
(1)	人材確保に向けた検討の場づくり	取組項目	①
地域のニーズに合った人材確保に向けて、福祉ネットワーク会議などの協議の場を活用し、多様な関係団体が参画する検討の場をつくります。 市全域での人材確保に向けた協議が進むよう取り組みます。			
【実績と成果】			
生活支援体制整備部会(第1層協議体)にて、第2層圏域共通の課題として人材確保を挙げ、人材確保に向けた市全域の取り組みが進むよう働きかけました。			
(2)	理事、評議員、地区福祉委員研修の充実	取組項目	⑤
- 地区福祉委員が自ら講師を担うなど、地域福祉活動の意義・理解が深まるような研修を企画します。 - 地域住民を対象に、地域福祉活動の中核となるコーディネーター研修を開催し、新たな人材の育成を図ります。			
【実績と成果】			
＜地区福祉委員研修・会議での講話の開催状況＞			
内 容		開催地区数	参加者数
福祉委員新任研修		5 地区	106 人
地区相談窓口委員研修		2 地区	44 人
訪問型助けあい活動に関する研修		2 地区	59 人
地域福祉研修(基礎:社協活動とは?)		4 地区	164 人
地域福祉研修(地域共生社会)		3 地区	88 人
地域福祉研修(重層的支援体制整備事業)		7 地区	20 人
地域福祉研修(子ども食堂)		1 地区	28 人
地域福祉研修(協議の場の意義)		1 地区	37 人

5	福祉情報の受発信	活動項目	2-2
(1)	地区福祉委員会などと連動した福祉情報の発信	取組項目	④
- 市社協及び地区福祉委員会等関係団体の情報の受発信機能を活かし、相互に効果のある情報共有ができる仕組みを作ることで、幅広く住民に様々な情報が提供できるように取り組みます。 【実績と成果】 - 地区福祉委員会主催の居場所、訪問型助けあい活動、市内の子ども食堂等実施団体の一覧を作成し、市社協ホームページで啓発しました。 - コミュニティ協議会、自治会に対してホームページの相互リンクを依頼し、地域と連動した情報発信に取り組みました。市社協ホームページ内で7つのコミュニティ協議会、2つの自治会ホームページのリンクを掲載し、地域の福祉活動の啓発を進めました。			

6	福祉教育の推進並びに学習機会の提供	活動項目	2-3
(1)	地区福祉委員会と連携した研修会などの開催	取組項目	③
・ 地域福祉活動がより小さなエリアでも広がりをもてるよう、地区福祉委員会と連携し、小地域単位での講座や研修会を開催します。 【実績と成果】 ・ 訪問型助けあい活動に関するフォーラムの開催と研修会を予定していましたが、コロナ禍のため実施できませんでした。			

7	地域福祉に係る財源の確保	活動項目	2-4
(1)	地域関係団体などと連携・協働した広報活動	取組項目	③
・ 地区福祉委員会やコミュニティ組織、関係団体などの各広報媒体に、本会や地域福祉活動への理解が深まるような記事を掲載できるよう働きかけます。 【実績と成果】 ・ 地区福祉委員会やコミュニティの広報紙で社協会員会費やフードドライブの記事掲載を働きかけ、多くの地域住民への周知を図りました。			
(2)	各種助成金の情報発信と支援	取組項目	④
・ 各種助成金の活用について、コミュニティワーカーとボランティアコーディネーターが連携し、地区福祉委員会や関係団体に必要な情報を必要な団体にタイムリーに発信するとともに、申請に係る支援を行います。 【実績と成果】 ・ コミュニティワーカーとボランティアコーディネーターが連携し、地区福祉委員会やボランティアグループ、NPO法人に対し、各種助成金の申請条件の確認や、推薦書の作成等の申請支援を行いました。			

8	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談窓口機能の整備	活動項目	3-1
(1)	地域福祉活動の推進を通じたニーズ把握	取組項目	①
・ 地区相談窓口やカフェ、サロンなど様々な地域福祉活動を通して把握した課題を福祉ネットワーク等に提示し、地域課題としての社会化に取り組みます。 【実績と成果】 ・ サロン活動・訪問型助けあい活動・見守り活動などが住民の困りごとを発見する機能を併せ持つことを適宜啓発するとともに、活動に丁寧に関わることで、相談を受け止めるための関係づくりに努めました。 ・ 若年性認知症の方が「受け手」としてではなく、「支え手」としてサロンに参加できるよう、地域と協議し、「支え手」として参加できるようコーディネートするなど、地域との協働による社協らしい支援を進めました。			

(2)	“我が事”と捉える意識と受援力の醸成	取組項目	②
研修や講座の中で身近な地域課題を取り上げ、我が事と捉える意識の醸成や支援を求める受援力を高めていく土壌づくりを進めます。また、地域の相談窓口やカフェ、サロン等の場で、相談者や参加者にとって困りごとを相談しやすい雰囲気づくりに配慮するなど、当事者の受援力の高まりにつながるよう働きかけます。			
【実績と成果】			
＜コミュニティワーカー 活動方法別活動件数＞			
会議・行事等参加		539 件	(令和2年度 354 件)
会議の主催、講義の実施等		67 件	(令和2年度 107 件)
相談対応		348 件	(令和2年度 312 件)
連絡調整		433 件	(令和2年度 202 件)
その他		34 件	(令和2年度 18 件)
(3)	多様な担い手との連携・協働による切れ目のない支援体制づくり	取組項目	③
複合化した課題解決に向け、スムーズに関係機関・団体等との連携・協働体制が取れるように、平素から地域の社会資源を把握し、担い手相互につながりを持つことで、ネットワークの拡充、強化につなげ、切れ目のない包括的な支援体制づくりを進めます。			
【実績と成果】			
個別の相談に対してはニーズに合わせた地域福祉活動や地域人材をマッチングし、個別性を意識したネットワークづくりを行いました。令和3年度は特にスクールソーシャルワーカーとの関係性が深まり、不登校児の支援を地域住民を交えたチームで行うことができました。			

9	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2
(1)	総合相談支援体制の強化	取組項目	①
- 総合相談窓口にて受理した相談や地域からの相談に対し、権利擁護担当職員と地域担当職員が常に情報を共有し、カンファレンスの必要なケースには、両担当者が参画し、課題解決に向けて関わっていく体制を確立します。また、必要に応じて関係機関・団体等と連携し、支援ができるよう総合相談支援体制の強化をめざします。 【実績と成果】 - 具体的なケースを通して総合相談支援体制の仕組みを構築するための議論を重ねました。個別支援において、どの職種がどのように関わるのか、引き続き協議を重ねる中で、法人としての推進体制を固めていく必要があります。			

10	専門機関・団体との連携、ネットワークの強化	活動項目	3-3
(1)	顔の見えるつながりづくりの推進	取組項目	①
- 川西市見守り協力事業者ネットワーク事業への登録事業者とのつながりを持つなど、福祉分野以外の企業や団体等との連携・協働を積極的に働きかけ、支援の輪が広がるよう取り組みます。 【実績と成果】 - 子ども食堂・フードドライブの推進において、福祉分野以外の事業所、企業とのネットワークを構築し、連携、協働による支援の輪が広がるよう取り組みました。			

(2)	自治会やコミュニティ組織への支援	取組項目	②
- 川西市の各所管の地域担当との定期的な情報交換を通し、把握した自治会やコミュニティ組織が抱える地域課題の把握や共有化、役割分担を図るなかで、解決に向けた支援を本会のネットワークを活かし取り組みます。 【実績と成果】 - 川西市地域福祉課やこども支援課などの各関係機関と連携し、子どもの居場所の運営支援や立ち上げ支援等、コミュニティ組織の活動を支援しました。			
(3)	包括的・総合相談支援体制における連携	取組項目	⑤
- 複合化した課題の解決に向け、関係機関・団体等との連携・協働のもとに、それぞれの機能を発揮しながら包括的な支援に取り組みます。 【実績と成果】 - 圏域ごとに地域包括支援センターやスクールソーシャルワーカーとの連携を深め、個別ケースにおいてコミュニティソーシャルワーク機能を発揮した包括的な支援に取り組みました。			

その他	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	地域の福祉拠点としての取組み	取組項目	②
・ 車いすを無料又は定額で貸し出すことで、在宅生活を支援します。			
【実績と成果】			
・ 車いす保有、貸し出し台数			
保有台数 37 台			
貸出人数(延べ) 137 人			
貸出台数(延べ) 225 台			
貸出期間(延べ) 11,613 日			

B2	地域福祉事業	決算科目	ボランティア活動センター事業
----	--------	------	----------------

主な事業内容・成果
コミュニティワーカー（地域担当職員）と連携し、地区の訪問型助けあい活動や登録ボランティアグループに対し、財源支援など、包括的な運営支援を行うことでボランティア活動におけるコーディネート機能の強化を図りました。 また、ボランティアグループの助成金では、コロナ禍の中、活動回数などの要件を緩和し、財源支援するとともに、新たな活動の提案を個人やグループに行うことで、活動の推進に取り組みました。

今後の課題
社協が持つ地域での学校や事業所、ボランティアグループなど多様な関係団体のネットワークを活かした講座や研修会の開催に加え、活動が生きがいややりがい、介護予防につながることを深く地域に浸透させることで、世代を超えた地域福祉活動の担い手の確保・育成を行う必要があります。 さらに、災害時に災害ボランティアセンターとして、迅速に対応できる体制づくりを図る必要があります。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	7,984,132	7,428,366	△ 555,766
経常経費補助金収入	7,453,157	7,200,588	△ 252,569
寄付金収入	82,298	45,070	△ 37,228
その他	448,677	182,708	△ 265,969
(支 出)	7,984,594	7,428,366	△ 556,228
人件費	5,846,550	5,847,749	1,199
事業費	1,515,360	1,110,854	△ 404,506
事務費	274,139	343,881	69,742
助成金支出	27,000	27,000	0
その他	321,545	98,882	△ 222,663
予備費	0	0	0

当期資金収支差額	△ 462	0	462
前期末資金収支残高	438,845	438,383	△ 462
当期末支払資金残高	438,383	438,383	0

主な増減理由
① コロナ禍に伴う事業未実施による事業費の減

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	ボランティア活動・市民活動・当事者活動の推進と支援	活動項目	1ー2
(1)	ボランティア活動センターの機能強化	取組項目	①
依頼者と活動者の双方が継続した関係を築けるよう、必要に応じて検討会議等を開催します。また、複合化するニーズに対しては、ボランティア活動だけに留まらず、市や関係団体と連携して課題解決を図るとともに担当職員の資質向上に取り組みます。			
【実績と成果】			
・ 相談内容件数 (単位:件数)			
活動希望	情報提供	ニーズ	
40	27	132	
共済	器材	悩み	
203	3	7	
連絡・報告	講座	提案	
1,315	89	2	
苦情	その他	合計	
9	38	1,865	

(件数)

ボランティア相談件数の推移

年度	件数
平成31年度	3,953
令和2年度	2,436
令和3年度	1,865

・ ボランティア相談者別件数内訳 (単位:件数)				
市民	施設・団体	行政	企業	合計
233	1,370	220	42	1,865

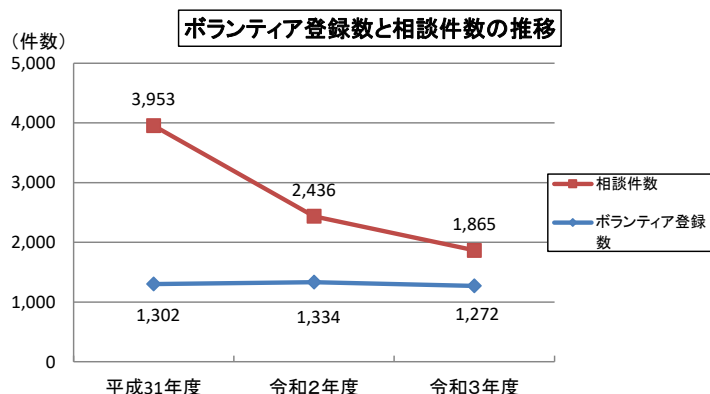
・ 種別ボランティア活動状況

(単位:人)

保育等	点訳	音訳	傾聴	筆談	調理	家事援助	行事手伝	CH指導等
228	30	126	34	4	3	0	34	5
外出支援	施設手伝	特技活動	手話	講座等	居場所	その他		
2	1	141	83	62	193	645		
合計		延べ活動人数						
1,591		4,587						

・ ボランティア活動センター登録状況(令和3年度末現在登録者)

種別	人数	内 訳	15歳未満	15歳～64歳	65歳以上
個人登録	273 名		0 名	167 名	106 名
グループ登録(55G)	999 名		21 名	321 名	657 名
合計	1,272 名		21 名	488 名	763 名

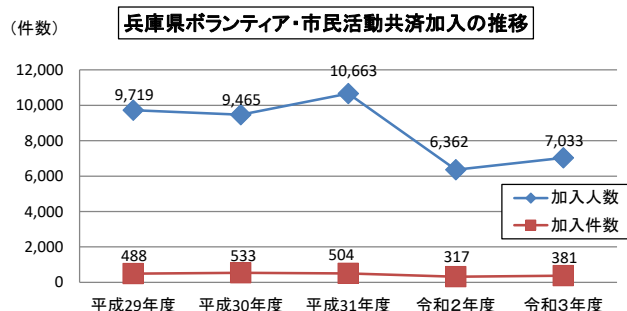


・ ボランティア活動センター運営委員会の開催

開催日	場 所	内 容
11月8日(月)	キセラ川西プラザ	令和3年度活動状況の報告について ボランティア登録グループ活動助成金 重点活動助成の選考について
3月10日(木)	キセラ川西プラザ	令和3年度事業実施状況の報告について 令和4年度事業計画(案)について 令和4年度ボランティア活動センター登 録グループ活動助成金について

・ ボランティア・市民活動災害共済(保険)の取り扱い

	市民活動		天災型		行事用保険		移送	
加入件数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
人数	301 件	4,641 名	2 件	31 名	78 件	2,361 名	0 件	0 名
事故件数	11		0		0		0	



福祉器材の貸し出し状況

器材名	カニタイプ 及び点字板	高齢者疑似 体験セット	車イス	合計
回数	3	0	10	13

ボランティア活動拠点の活用

各ボランティアグループに対して、コロナ禍による貸館の利用制限など、情報提供を随時行い、ボランティア活動拠点として有効活用されるよう支援しました。

(2)

ボランティアグループなどへの支援

取組項目

②

どのような状況下でもボランティアグループなどの活動が共有化され、新たな取り組みや創意工夫を通して、自主的な活動が推進されるよう支援します。

【実績と成果】

V連会議・活動などへの参画

開催日	場所	内容
4月16日(金)	キセラ川西プラザ	V連定期総会(事業計画・予算など)
4月16日(金)ほか12回	キセラ川西プラザ	V連代表者会議 (V連の役割や活動についてなど)
11月24日(水)	キセラ川西プラザ	V連防災研修

(3)

地区ボランティア部会への支援

取組項目

③

コミュニティワーカー等と連携し、定例会などへの参画を通して、グループの組織化や運営支援に努め、地区におけるつながり、支え合いを推進します。また、どのような状況下でも自主的に活動への創意工夫が進むよう支援します。

【実績と成果】

地区ボランティア部会の定例会などへの参画を通して、立ち上げや運営支援を行いました。また、コミュニティワーカーと情報を共有することで、役割分担や整理を行い、部会間交流の企画や、会則策定の支援など幅広く取り組みました。

2	普段も災害時も助け合えるつながりづくり	活動項目	1-3
(1)	関係団体との定期的な協議・検討	取組項目	①
川西市や川西青年会議所など関係団体と災害時における定期的な検討や協議を行い、情報共有体制の整備・充実や役割の明確化を図り、包括的な支援に取り組むとともに、川西市地域防災計画における提言を定期的に行います。			
【実績と成果】			
川西市ボランティア連絡協議会代表者会議に参画し、災害時における防災訓練の一環として、災害時対応研修の企画、開催を支援しました。			
(2)	災害支援におけるネットワークづくり	取組項目	②
地区福祉委員会をはじめ関係団体とのネットワークを深めていくなかで、新たな災害時相互協力協定の締結につながるよう取り組みます。			
【実績と成果】			
新たな災害時相互協力協定の締結に向けては、センター内での協議に留まりました。			
(3)	防災意識向上のための学びの場の開催	取組項目	③
災害時の対応に関する学びの場については、ICTの活用での周知を通して、どのような状況下でも参加できるよう、関係団体等と連携し、新たな手法による防災意識向上を目指します。			
【実績と成果】			
かわにし防災士の会と連携し、避難所運営ゲームHUG(感染症対策編)を開催し、コロナ禍における防災についての学びの場を開催しました。			

(4)	災害ボランティアセンターの設置と運営	取組項目	④
災害ボランティアセンターマニュアル改訂を行うことで、状況に応じた被災世帯の支援を柔軟に行える体制を整備するとともに、災害ボランティアセンター設置訓練を実施し、発災後、迅速に対応できるような体制づくりに取り組みます。			
【実績と成果】			
災害時における市社協職員やボランティアによる支援体制整備を図るため、災害ボランティアセンターマニュアルの改訂が必要ですが、改訂項目の確認、スケジュール、事務局体制、手順の協議などの準備段階の取り組みに留まりました。			
(5)	市内外の被災世帯への支援	取組項目	⑤
市災害対策本部や関係団体と連携し、物資の仕分けや募金活動等を行うとともに、本会の自主財源や各種助成金を活用した災害ボランティアバスの運行等、迅速な支援を行います。			
【実績と成果】			
災害義援金実績			
令和3年7月大雨災害静岡県義援金		10, 342円	
熊本県南豪雨災害義援金		1,485円	
令和3年大雨災害義援金(中央共募)		532円	
令和3年8月大雨災害義援金(長野県)		1,480円	

3	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2－1				
(1)	人材確保に向けた検討の場づくり	取組項目	①				
福祉ネットワーク会議など、コミュニティ協議会、福祉委員会、川西市等、多様な関係団体が参画する会議において、人材確保に資する提案を行うとともに、必要に応じて、具体的解決に向けた検討の場を開催します。							
【実績と成果】							
地域での人材確保に向け、随時コミュニティワーカーと連携し検討しました。 また、福祉ネットワーク会議(第2層協議体)などにおいて、人材確保に係る情報の共有や具体的課題の解決方法について、検討しました。							
(2)	ボランティア講座の開催	取組項目	②				
どのような状況下でも、各種ボランティア講座や体験教室、地域における出前講座を柔軟に開催します。福祉委員会やボランティアグループ等からのニーズ把握に努め、新メニューの開発など充実を図ることで、ボランティア・地域福祉活動の担い手づくりに取り組むとともに、関係団体と連携して活動できる場づくりを行います。							
【実績と成果】							
ボランティア講座開催一覧							
	講 座 名	開 催 期 間	回数	受講人数	延べ人数	対象	共催団体・協働団体など
1	親子手話教室（前期）	7/24～10/17	6	15	69	一般・当事者	川西ろうあ協会 手話サークル クローバ
2	聞こえを学ぶ 筆談ボランティア講座	10/8～11/5	5	6	24	一般	川西サマリー
3	手づくり布遊び ボランティア入門講座	10/14、10/21	2	8	15	一般	ボランティアいずみ
4	お出かけ介助ボランティア講座	10/28～11/11	3	4	9	一般	車イス介助を学ぶ会
5	笑いからはじまる コミュニケーション講座	10/30	1	8	8	一般	ほっとほほえみ

6	点訳ボランティア入門講座	11/2～1/25	10	10	58	一般	点訳グループりんどう
7	親子手話教室（後期）	11/6～12/18	7	6	32	一般・当事者	川西ろうあ協会 手話サークル クローバ
8	傾聴ボランティア入門講座	11/17、11/24	2	28	50	一般 福祉委員	吹田傾聴ほほえみ
9	災害ボランティア研修会 （避難所運営HUG 感染症対策）	12/1	1	7	7	一般	かわにし防災士の会
10	ボランティア1日体験教室（筆談）	7/17	1	4	4	一般	川西サマリー
11	ボランティア1日体験教室（ネイル）	10/16	1	7	7	一般	個人ボランティア 藤川恵子
12	ボランティア1日体験教室（点字）	10/23	1	7	7	一般	点字グループりんどう
13	ボランティア1日体験教室（車イス）	11/20	1	5	5	一般	車イス介助を学ぶ会
14	ボランティア1日体験教室（手話）	11/27	1	11	11	一般	手話サークル パピヨン
15	出前ボランティア講座（車イス）	6/30	1	19	19	ボランティア	車イス介助を学ぶ会
合 計			43	145	325		
(3) 幅広い世代が活動できる場づくり							取組項目 ③
・ 地域共生社会を目指し、幅広い世代が参加しやすいサロンや世代間交流イベントを、地区福祉委員会やボランティアグループなどとともに検討、企画します。また、コミュニティワーカー等と連携し、必要に応じ運営支援に取り組みます。 【実績と成果】 ・ 地域のサロンやイベントにおいて、幅広い世代がボランティア活動に関心を持っていただけるような企画提案を地区福祉委員会や老人会、自治会などで行い、コーディネートしました。							
(4) 理事、評議員、地区福祉委員研修の充実							取組項目 ⑤
・ 本会事業や地域福祉活動の理解がより深まるように研修内容の充実を図ります。地区福祉委員研修については、福祉委員が講師を担うなど、住民同士が共に高め合う研修を企画します。 【実績と成果】 ・ 地域の福祉委員を対象に、ボランティア活動の「楽しさ」や「やりがい」、「難しさ」などを取り入れた研修会を企画・提案しました。							

4	福祉情報の受発信	活動項目	2-2
(1)	地区福祉委員会などと連動した福祉情報の発信	取組項目	④
・ 川西市ボランティア連絡協議会と共催発行の「ボランティア情報にじ」について、ボランティアによる編集という強みを活かし、幅広く活動者視点でのボランティアに役立つ情報の掲載を通して、人材確保につながる情報発信に取り組みます。			
【実績と成果】			
・ ボランティア情報にじの発行(V連との共催)			
発行回数	年3回		
編集回数	年15回		
発行部数	1号あたり 2,400部(A4版フルカラー2ページ)		

配布先	ボランティアグループ、個人ボランティア、他市社協、市役所、公民館など関係機関窓口、小・中・高校、共同募金協力法人（事業所・商店など）、アステ川西、各スーパー等
-----	---

- ・市社協ホームページや登録ボランティアグループ一覧表の発行による情報発信に随時取り組みました。

5	福祉教育の推進並びに学習機会の提供				活動項目	2-3			
(1)	福祉教育の充実				取組項目	①			
・ 体験学習を通じて、児童・生徒だけではなく、誰もが地域福祉や高齢者・障がい者などへの理解が深まるよう、新たなメニューの開発など、内容の充実に取り組みます。									
【実績と成果】									
・ 小学校・中学校の福祉学習への支援									
種別		内容	学校数	参加者	種別		内容	学校数	参加者
小学校		車イス	3	214	中学校		車イス	0	0
		手話	0	0			手話	0	0
		点字	2	150			点字	0	0
合計			5	364	合計			0	0
(2)	若い世代への機会の提供と継続的な支援				取組項目	②			
・ オープン・カフェッジ等、若い世代の居場所については、ホームページなど各種媒体による周知を図るとともに、新たな手法による開催を通し、参加者の増や活動を始めるきっかけづくりとなるよう取り組みます。									
【実績と成果】									
・ オープン・カフェッジにおいて、新たにテーマを設定し開催を検討していましたが、新型コロナウイルス感染拡大において開催拠点の飲食禁止の制限を受け、開催することができませんでした。									
(3)	地区福祉委員会と連携した研修会などの開催				取組項目	③			
・ 地域福祉活動が広がりを見せるよう、コミュニティワーカー等と連携して、組織の運営方法や人材確保などの課題解決に向けた研修会などを開催します。									
【実績と成果】									
・ コロナ禍において、感染対策を行いながら、全てのボランティア活動の基本となる傾聴ボランティア入門講座を開催し、地域福祉活動が停滞しないよう取り組みました。									
講座名		開催期間		受講	内容				
				延べ人数					
傾聴ボランティア入門講座		11/17・11/24		50名	傾聴、コミュニケーションの基本など				

6	地域福祉に係る財源の確保	活動項目	2-4
(1)	各種助成金の情報発信と支援	取組項目	④
・各種助成金について、本会ホームページ等の活用や、コミュニティワーカー等との連携による告知を通し、タイムリーな情報発信に努めます。また、コミュニティ協議会や地区福祉委員会など関係団体に対して申請に係る支援を行います。			

【実績と成果】

- 登録ボランティアグループ活動助成

助成先	助成金額	助成上限額
川西市ボランティア連絡協議会	300,000円	300,000円
V連加入ボランティアグループ(6グループ)	330,000円	55,000円
サポーター登録ボランティアグループ(28グループ)	820,000円	30,000円
一般登録ボランティアグループ(5グループ)	75,000円	15,000円
重点活動助成ボランティアグループ(1グループ)	46,000円	
合計助成金額	1,571,000円	

※サポーター登録グループ(4グループ)及び一般登録(2グループ)は活動未実施のため、返金。

- 登録ボランティアグループ中級研修会(フォローアップ)助成

助成先	助成金額
音訳、手話、点訳の3グループ(各50,000円)	150,000円

- ひょうごボランタリー基金県民ボランタリー助成金(※1グループにつき30,000円)

令和3年度		令和2年度	
助成グループ数	助成金総額	助成グループ数	助成金総額
41グループ	1,230,000円	51グループ	1,428,000円

- 民間財団助成金の申請支援

申請団体名	申請額(助成額)	内容	助成団体
川西サマリー	221,000円	パソコン、アダプタ	(公財)車両競技公益資金記念財団

- 市社協ホームページなどの媒体を活用するとともに、コミュニティワーカーと連携し、地区福祉委員会役員会等において助成金情報の発信に取り組みました。また、申請団体へは、申請書類に係る作成アドバイス、推薦など幅広く財源面の支援を行いました。

7	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談窓口機能の整備	活動項目	3-1
(1)	連携強化型相談窓口機能の整備	取組項目	④
本会で受け止めた複合化した課題に対し、地区ボランティア部会やボランティア活動相談などにおいて、当事者や地域のニーズを捉えて必要なコーディネートを行います。さらに地域における関係機関や窓口と連携することで、包括的な連携強化型相談窓口機能を整備します。			
【実績と成果】			
- 市社協内で連携し個別支援に係る検討を行うとともに、課題解決に向けたコーディネートを地区ボランティア部会やボランティアグループ、民生委員・児童委員などで行いました。 - ボランティア活動相談の開催 毎月第3土曜日 10時～12時 キセラ川西プラザ福祉棟にて開催 ※4、5、6、8、9、1月は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため中止			
延べ相談員数	活動相談者数	主な相談内容	
6名	3名	特技を生かした活動相談、ボランティア保険の加入など	

B3	地域福祉事業	決算科目	日常生活自立支援事業
----	--------	------	------------

主な事業内容・成果
判断能力に不安がある、認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者が、住みなれた地域で安心して暮らすために、福祉サービスの利用援助や日常的な金銭管理などの支援を行いました。川西市やその他関係機関と連携を図り、利用者の意思決定に基づいた自立支援や課題解決に努めました。成年後見支援センターと一体的な相談支援を行うことで、権利擁護の必要な方に適切な支援がつながるよう取り組みました。また、兵庫県社会福祉協議会の研修会・会議等に積極的に参加し、権利擁護支援の質の向上に努めました。

今後の課題
判断能力が低下した利用者の成年後見制度への円滑な移行や、新規相談者を早期に適切な支援へつなぐために、成年後見支援センターやその他関係機関と情報を共有し検討する、支援検討会議などの体制を充実させることが必要です。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	2,875,200	2,973,800	98,600
受託金収入	2,430,000	2,750,000	320,000
その他	445,200	223,800	△ 221,400
(支 出)	3,079,875	2,962,938	△ 116,937
人件費	2,589,849	2,340,919	△ 248,930
事業費	308,118	607,133	299,015
事務費	172,031	14,886	△ 157,145
その他	9,877	0	△ 9,877

当期資金収支差額	△ 204,675	10,862	215,537
前期末資金収支残高	230,420	25,745	△ 204,675
当期末支払資金残高	25,745	36,607	10,862

主な増減理由
①契約件数増による受託金収入の増

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2
(1)	職員の資質向上	取組項目	②
- 生活支援員連絡会を年2回開催、生活支援員の交流を図り、事例報告会や研修会などを実施し、支援の質の向上をめざします。 - 権利擁護に関する各種研修会へ積極的に参加します。 - 利用者一人一人のニーズを受け止め、早期に問題を発見できるよう、支援体制の充実を図ります。			
【実績と成果】			
県社協で開催された研修・会議に参加し、個別支援における技術向上に努めました。			
開催日	県社協研修・会議等	参加	
令和3年5月21日	新任専門員Web研修会	1人	
令和3年6月22日	専門員Web意見交換会	1人	
令和3年7月9日	専門員Web検討会	1人	
令和3年9月9日	専門員Web会議	1人	
令和4年2月10日	専門員Web会議「前向きな解約」に向けたポイント	1人	
令和4年3月18日	生活支援員Web研修会「生活支援員にとっての記録とは」～対人援助における記録の意義と書き方～	5人	

- 生活支援員連絡会を開催し、個別支援における技術向上に努めました。

開催日	川西市社協連絡会・研修会等	講師など	参加
令和3年10月29日	事務作業をする上での注意事項 日常生活自立支援事業をとりまく情勢 生活支援員より現況報告・意見交換	社協職員	16人

(2)	権利擁護の推進	取組項目	③
-----	---------	------	---

- 利用者が地域で安心して自分らしく暮らせるよう、川西市や地域包括支援センター、介護事業所、民生委員・児童委員などの関係機関と連携を図り、権利擁護を推進します。
- 利用者の意思決定を尊重し、自立した生活が送れるよう、権利擁護支援を図ります。
- 地域住民や民生委員・児童委員、福祉委員、関係機関などへの広報、周知に取り組み、事業の理解と拡大を図ります。
- 判断能力がより低下した利用者の方へ、成年後見支援センターと連携を図り、スムーズに成年後見制度へつなげられるよう、権利擁護支援を進めます。

【実績と成果】

- 川西市やその他関係機関との連携、成年後見支援センターなど他部署担当職員と協働して、利用者が地域で安心して暮らせるよう支援に取り組み、権利擁護の推進に努めました。

相談援助件数(問い合わせ・相談援助件数)

内 容 対 象 者 事 項	本事業の利用に関するもの				その他	合 計
	認知症高齢者等	知的障害者等	精神障害者等	不 明・ その他		
a. 問合せ件数 (制度、事業について)	5	0	1	3	0	9
b. 初回相談件数 (初回相談受付)	13	3	5	0		21
c. 相談援助件数 (ab以外)	788	137	325	95		1,345
合計	806	140	331	98	0	1,375

- 年度末利用者数 26件
(内訳:認知症高齢者 12件 知的障がい者 8件 精神障がい者 5件 その他 1件)
新規契約 7件
解約 5件 (内訳:他市施設入所 2件 本人死亡 2件 その他 1件)
生活支援員訪問回数 671回(前年度 609回) 総活動時間数 1,071時間(前年度 991時間)
- 社協内部にて契約前検討会を 8回開催し、契約の是非及び適切な支援内容について検討しました。
- 川西市やその他関係機関と支援検討会議を 1回開催、利用者の成年後見制度移行について検討し、成年後見支援センターへつなげました。
- 地域包括支援センターや地域における関係機関とケース検討会・担当者連絡会議を9回開催し、連携を図りながら支援を行いました。
- 心配ごと相談員研修会において相談員15名に事業について講座を行い、事業の理解と拡大に努めました。
- 利用者の意思決定を尊重しながら、状況に応じた支援内容の見直しを行いました。
- 社協広報紙へ事業紹介文を掲載しPRを行いました。

B4	地域福祉事業	決算科目	成年後見支援センター事業
----	--------	------	--------------

主な事業内容・成果
権利擁護支援の必要な方が、地域で安心して暮らせるよう、関係機関や法律職との連携により、成年後見制度や必要な支援につなげました。 中核機関を受託し、地域連携ネットワークの体制づくりを進めました。専門職登録を実施し、相談から受任調整まで、関係機関と連携し、伴走型支援を行うことで、本人や家族がメリットを実感できるような制度利用等の権利擁護支援を行いました。また、市民後見人の養成研修を開催、受任を進め、社協は監督人として適正な監督業務やバックアップを行いました。

今後の課題
① 権利擁護支援の地域連携つながりネットワークの体制づくりを進め、早期に権利擁護支援につながるしくみや権利擁護支援チームのバックアップ体制を構築する必要があります。 ② 市民後見人登録者の拡充と研修修了者による新たな活動の場の検討など、人材育成と活躍支援の充実が必要です。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	22,386,054	26,765,369	4,379,315
経常経費補助金収入	207,622	154,380	△ 53,242
受託金収入	22,023,432	26,526,989	4,503,557
総合相談事業	155,000	84,000	△ 71,000
(支 出)	22,275,523	26,725,490	4,449,967
人件費	19,399,496	22,998,613	3,599,117
事業費	575,080	803,881	228,801
事務費	2,281,200	2,841,172	559,972
その他	19,747	81,824	62,077

当期資金収支差額	110,531	39,879	△ 70,652
前期末資金収支残高	0	110,531	110,531
当期末支払資金残高	110,531	150,410	39,879

主な増減理由
① 人件費は職員増による給与等の増 ② 事業費は研修等の実施による増 ③ 事務費は消費税の増

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2-1
(1)	市民後見人の養成と活動支援	取組項目	④
・ コロナ感染予防対策として、オンライン等による「市民後見人養成研修」の開催方法を工夫し、多くの方に参加してもらい、地域の権利擁護活動の担い手の裾野を広げます。 ・ 社協法人内や関係機関と連携し、市民後見人受任のマッチングを積極的に推進します。 ・ 市民後見人が適切な後見業務を行えるよう、後見監督人として専門職等と連携し、活動のサポートを行うなど、バックアップ体制を充実します。 ・ 人材バンク登録者に対し、フォローアップ研修や交流会を開催するとともに成年後見カフェや、出前講座などのセンター事業の補助など、活動の支援を行います。			
【実績と成果】 ・ コロナ感染防止に配慮し、市民後見人養成研修を開催(11名受講)、人材バンク登録を進めました。 ・ 今年度、新たに市民後見人2名の受任を進め、現在までに合わせて6名の市民後見人が選任されました。社協は監督人として、適切なサポートと監督業務を行いました。 ・ 人材バンク登録者に対し、成年後見相談会の相談員としての活動をサポートするなど地域における権利擁護活動の育成と支援を行いました。また、市民後見人向けフォローアップ研修及び交流会を開催しました。			

○市民後見人養成研修

実施日	開催	内容	参加者	場 所
6/15 6/18	事前説明会	・研修概要説明 ・市民後見人活動者報告	12人	キセラ川西プラザ 福祉棟2階 共用会議室
7/9～ 8/27	基礎研修	関係法律、対象者の理解、後見人の役割と業務など	11人	
9/10～ 11/12	応用研修	対人援助技術、後見人の実務、市民後見人の実際など	11人	
11月 ～1月	実習	高齢者施設、障がい者施設、日常生活自立支援事業	10人	満寿荘、小戸作業所、日常生活自立支援事業利用者宅

○市民後見人フォローアップ研修・交流会

実施日	テーマ	講師	参加者	場 所
12/16	医療同意と死後事務、意思決定支援について	認定社会福祉士 木高 壽子 さん	5人	キセラ川西プラザ 福祉棟2階 共用会議室

○市民後見人養成研修修了者人材バンク登録

登録実人数 36人 延べ人数 65人（令和4年3月31日現在）

内 容	新規登録	登録者数
市民後見人候補者登録者数	1 人	5 人
相談員登録者数	4 人	21 人
日常生活自立支援事業生活支援員登録者数	2 人	7 人
事業の手伝い等の登録者数	10 人	32 人
合 計	17 人	65 人

2	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談窓口機能の整備	活動項目	3-1
(1)	地域福祉活動の推進を通じたニーズ把握	取組項目	①
- 総合相談窓口の周知を図り、住民の気づきが早期に支援につながるよう取り組みます。 - 成年後見制度を身近な場所で知ってもらい、気軽に相談が受けられるよう市民後見人養成研修修了者による成年後見カフェを老人福祉センター等3か所で実施します。 - 地区相談窓口や心配ごと相談所等の相談窓口に加え、カフェやサロンなどの様々な地域福祉活動と連携することで、権利擁護の課題が早期につながる取り組みを進めます。 - 市民の生活上の社会資源（銀行、スーパー、病院等）と窓口がつながることで地域連携を強化します。 【実績と成果】 - 職員により、電話や来所、必要な場合は訪問し、制度の説明や申立て手続きなどの相談に対応し、関係機関と連携した支援を行い、制度利用につなげました。（申立て支援44件、後見人等選任24件） - 毎月第3水曜日に司法書士2名による専門相談会を開催しました。センター職員も同席し、福祉的ニーズへのフォローを行いました。（法定後見8件、任意後見2件） - 老人福祉センター2か所で成年後見相談会を開催し、市民後見人養成研修修了者が、センター職員と共に、地域の身近な相談窓口として相談に応じました。（法定後見2件、任意後見1件、その他1件） - 総合相談、包括化推進員との連携により、権利擁護支援の必要な方へアウトリーチを行うなど、連携した支援を行いました。 - 銀行や病院へのセンターや制度の周知を図り、窓口がつながることで、連携支援が進みました。			

○相談件数 (単位:件)	
法定後見の相談・支援	796
任意後見の相談	41
研修・講座等について	94
その他	26
合 計	957

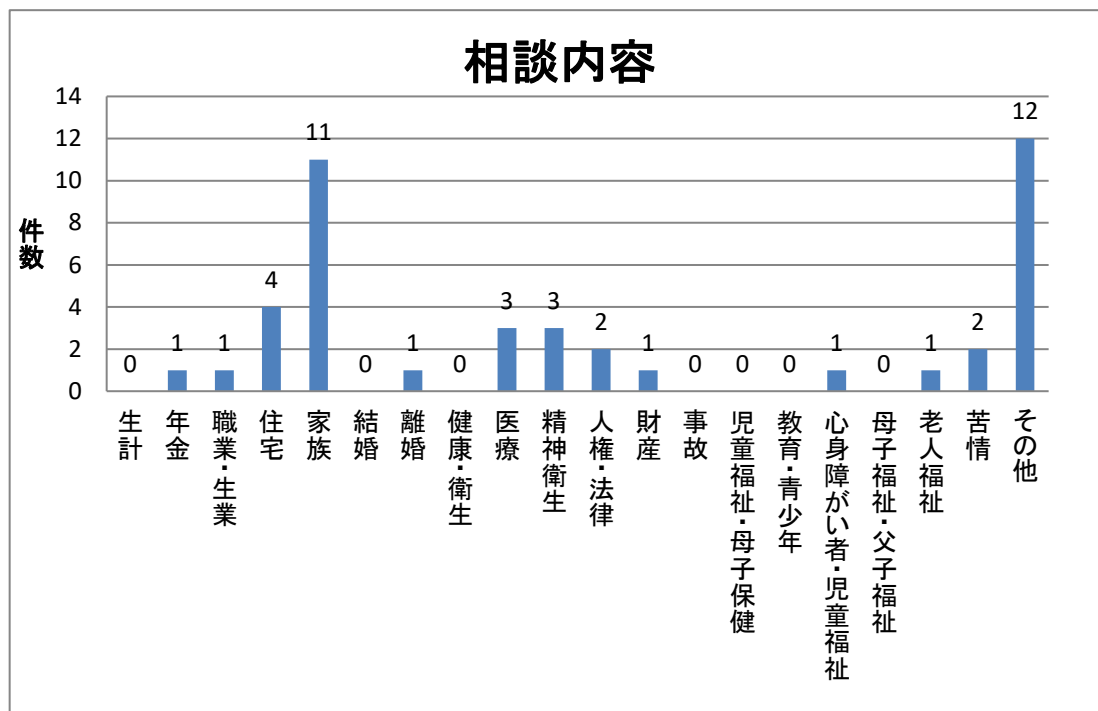
※その他…専門相談申込みなど

○相談経路 (単位:件)	
本 人	112
親 族	153
関係機関	669
その他・不明	23
合 計	957

<心配ごと相談所実施の状況>

- ・相談日 毎週月曜日、木曜日(年末年始、祝日は休み) 67回
午後1時30分～4時
新型コロナウイルスによる緊急事態宣言中は社協職員対応(4月中旬～6月、8月中旬～9月)
- ・相談場所 月曜日、木曜日…キセラ川西プラザ福祉棟1階相談室
- ・相談員 15名(民生委員児童委員)
- ・相談件数 33件
来所…14件 電話…19件
月曜日…17件 木曜日…16件
- ・相談内容(1件の相談に複数の相談内容を含む)

(単位:件)



- ・連携、つなぎ先
 - ・市役所(生活相談課、生活支援課、人権推進課、介護保険課、医療助成・年金課)
 - ・地域包括支援センター
 - ・その他の機関(ハローワーク等)
- ・研修
令和3年12月1日(水) 心配ごと相談員研修会 参加者 15 名
講師:川西市社会福祉協議会 総合相談・権利擁護支援チーム 山下慎恵美氏・大西和美氏
内容:「生活福祉資金貸付事業について」、「日常生活自立支援事業と成年後見制度について」

【実績と成果】

- ・専門的な相談や他機関を紹介する必要がある場合は、市役所の法律相談や地域包括支援センター等と連携し、対応しました。
- ・コロナ禍においても感染予防を図り、相談所の開設継続に努め市民からの相談に応じました。

(2)	「我が事」と捉える意識と受援力の醸成	取組項目	②																																											
・ 成年後見制度や権利擁護の取り組みについて、住民や地域の福祉関係者等に理解してもらうことで、我が事としての意識やSOSが出しやすい環境を整備します。 ・ NPO法人「成年後見センター・川西」との協働により、より分かりやすい内容の出前講座の実施や、権利擁護フォーラムを実施し、住民の「我が事」と捉える意識や受援力の醸成を図ります。 ・ 市民後見人養成を通じて地域福祉の担い手を増やすと共に、住民の権利擁護の意識醸成を促します。 【実績と成果】 ・ 住民の一次的相談窓口である地域包括支援センターや障害者相談支援事業所へ中核機関やネットワークでの権利擁護の取り組みを周知するなど、権利擁護ニーズが早期につながる体制整備を進めました。 ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、出前講座や権利擁護フォーラム等、対面での広報・啓発が十分にできませんでした。ケアマネジャー機関紙への掲載、ホームページや広報紙、銀行へのパンフレット配布等を通して、広く市民の方に権利擁護支援の周知を行いました。 ・ 市民後見人の養成・活動支援を通じて、住民の権利擁護の意識醸成を図りました。																																														
(3)	多様な担い手との連携・協働による切れ目のない支援体制づくり	取組項目	③																																											
・ 利用者の判断能力や状態の変化に応じて、日常生活自立支援事業から成年後見制度が必要になった方へ円滑な移行支援を行います。 ・ 専門職バンク登録を進め、三士会(弁護士・司法書士・社会福祉士)や家庭裁判所等との連携により、本人がメリットを実感できるような支援内容や後見人候補者の検討を行う受任調整会議を開催します。 【実績と成果】 ・ センターが日常生活自立支援事業と一体的に相談を受けることで、より本人に適した制度利用や、日常生活自立支援事業から円滑に成年後見制度につなぐなど、切れ目のない支援を行いました。 ・ 受任調整を行うため、専門職バンク登録を進め、制度利用者がメリットを感じられるような申立支援や債務整理などの法的支援につなぐなど、三士会との連携した支援を行いました。 ・ 受任調整会議を開催し、マッチングの検討を行うなど、適切な後見人等の受任を進めました。また、支援検討会議を開催し、権利擁護支援についての検討、支援方針について協議を行いました。 (計7回開催、参加:ケアマネジャー、地域包括支援センター、医療機関、相談支援事業所等) ○専門職登録と連携支援 <table><tr><th>職種</th><th>登録人数</th><th>申立代行</th><th>申立代行＋候補者</th><th>候補者のみ</th><th>その他</th><th>合計</th></tr><tr><td>弁護士</td><td>5</td><td>0</td><td>1</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td></tr><tr><td>司法書士</td><td>12</td><td>8</td><td>9</td><td>1</td><td>2</td><td>20</td></tr><tr><td>社会福祉士</td><td>6</td><td></td><td></td><td>1</td><td>0</td><td>1</td></tr></table> *その他…債務整理、自己破産 ○受任調整会議 <table><tr><th>実施日</th><th>ケース</th><th>内容</th><th>参加者</th><th>場 所</th></tr><tr><td>5/10</td><td>マッチング体制構築に向けた検討会議</td><td>・受任調整会議にかける案件 ・事前面談にかかる交通費等</td><td>11人</td><td>キセラ川西プラザ 福祉棟2階 共用会議室</td></tr><tr><td>10/28</td><td>・認知症高齢者 ・知的障がい者</td><td>・金銭的虐待について ・借金、金銭管理について</td><td>10人</td><td>オンライン会議</td></tr></table>				職種	登録人数	申立代行	申立代行＋候補者	候補者のみ	その他	合計	弁護士	5	0	1	1	0	2	司法書士	12	8	9	1	2	20	社会福祉士	6			1	0	1	実施日	ケース	内容	参加者	場 所	5/10	マッチング体制構築に向けた検討会議	・受任調整会議にかける案件 ・事前面談にかかる交通費等	11人	キセラ川西プラザ 福祉棟2階 共用会議室	10/28	・認知症高齢者 ・知的障がい者	・金銭的虐待について ・借金、金銭管理について	10人	オンライン会議
職種	登録人数	申立代行	申立代行＋候補者	候補者のみ	その他	合計																																								
弁護士	5	0	1	1	0	2																																								
司法書士	12	8	9	1	2	20																																								
社会福祉士	6			1	0	1																																								
実施日	ケース	内容	参加者	場 所																																										
5/10	マッチング体制構築に向けた検討会議	・受任調整会議にかける案件 ・事前面談にかかる交通費等	11人	キセラ川西プラザ 福祉棟2階 共用会議室																																										
10/28	・認知症高齢者 ・知的障がい者	・金銭的虐待について ・借金、金銭管理について	10人	オンライン会議																																										
3	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2																																											
(1)	総合相談支援体制の強化	取組項目	①																																											
・ 既存の制度では対応できない相談に対して、担当や制度の枠を超えた「断らない」相談支援の体制を強化し、伴走型支援に取り組みます。 ・ 複合化、多様化したニーズに対応するため、権利擁護支援担当者がコミュニティワーカーや地域住民と連携し、重層的支援体制の取り組みを進めます。																																														

【実績と成果】			
- 包括化推進員や関係機関と連携し、アウトリーチを行い、すぐに制度利用につながらないケースも継続して関わるなど、本人が安心して暮らせるよう権利擁護支援に取り組みました。 - 複合化、多様化したニーズに対応するため、権利擁護支援担当者が包括化推進員と連携支援を行い、重層的支援体制整備事業を見据えた多機関協働による継続した伴走型支援を行いました。			
(2)	権利擁護の推進	取組項目	③
- 判断能力に不安がある方に対し、日常生活自立支援事業と成年後見制度が一体的に相談に対応することで、より本人にふさわしい権利擁護支援に取り組みます。 - 権利擁護のニーズを早期に発見し、支援につなげるため医療機関や金融機関等の身近な窓口へパンフレットを配布し、周知・啓発を実施します。 - 制度の利用が必要な方に対し、アウトリーチによる相談対応により、申立て及び後見人等の選任まで、関係機関と連携を図りながら、ご本人に寄り添った伴走型の支援を行います。 - 本人の意思決定支援が正しく理解され、あらゆる場面で適正に支援できるよう、周知・啓発を行います。			
【実績と成果】			
- 日常生活自立支援事業と連携し、一体的に相談に対応し、ケース会議に参加し支援内容を一緒に検討することで、より本人にふさわしい権利擁護支援に取り組みました。 - 気づき、相談がつながるよう、医療機関や金融機関等の住民の身近な窓口へパンフレットを配布し、周知・啓発を行いました。 - 相談から申立て及び後見人等の選任まで、本人に寄り添った伴奏型の申立て支援を行いました。 - 市民後見人に対して、本人意思の尊重や意思決定支援について研修を行い、権利擁護支援の質の向上を図りました。			

4	専門機関・団体との連携、ネットワークの強化	活動項目	3-3	
(1)	顔の見えるつながりづくり	取組項目	①	
・ 中核機関を受託し、三士会や医療・福祉関係機関、家庭裁判所等と連携することで、顔の見える関係を築き、地域連携ネットワークの構築を図ります。 ・ 中核機関が地域連携ネットワークの事務局として、協議会を開催し、地域のさまざまな関係機関や団体との顔の見えるつながりづくりを進め、権利擁護を推進します。				
【実績と成果】				
・ 中核機関として、三士会や医療・福祉関係機関、家庭裁判所とさらに連携を深め、包括的な権利擁護の相談支援が行える地域連携ネットワークの構築を図りました。 ・ 地域のさまざまな関係機関との新たなつながりづくりを進め、権利擁護支援ネットワークの体制整備を図り、協議会の設置を進めました。 ・ 運営委員会を年2回開催し、委員からの意見や助言を受け、センター事業の充実を図りました。また、家庭裁判所にもオブザーバーとして参加してもらうなど、連携を図りました。				
○運営委員会				
	開催日時	内容	参加者	場 所
第1回	令和3年10月19日(火) 14:00～15:30	・事業実施状況 ・地域連携ネットワーク協議会 について	14人	キセラ川西プラザ 文化棟2階 大会議室
第2回	令和4年3月23日(水) 14:00～15:30	・事業実施状況 ・地域連携ネットワーク協議会 について ・令和4年度事業計画(案)	14人	キセラ川西プラザ 文化棟2階 大会議室

B5	地域福祉事業	決算科目	民生委員児童委員協議会連合会事業
----	--------	------	------------------

主な事業内容・成果
事務局として、民生委員・児童委員協議会定例会への出席を通して、地域課題の共有や民生委員児童委員の活動の確認・調整を行いました。 コロナ禍により昨年同様、訪問や集合形式による研修などが中止となりましたが、県のICT補助金を活用しネット環境を整え、オンラインによる会議や研修会の開催などの取組みを進めました。地区定例会での動画の活用による研修会の実施など、新たな取組みも実施しました。

今後の課題
民生委員・児童委員が抱える課題に対し、本会の包括的支援体制構築事業や関係機関などとさらなる連携を図っていく必要があります。 コロナ禍により積極的な訪問活動が制限されるなか、対象者にも委員にも安心安全な活動方法について検討する必要があります。ICTを活用した、情報発信などの取組が必要となります。 また来年度は一斉改選に当たるため、市地域福祉課と連携し、欠員の解消に取り組みながら円滑な改選事務を進める必要があります。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	9,993,018	9,633,725	△ 359,293
受託金収入	9,993,018	9,633,725	△ 359,293
(支 出)	9,993,018	9,633,725	△ 359,293
人件費	8,787,043	8,391,343	△ 395,700
事業費	5,031	7,002	1,971
事務費	1,191,067	1,211,864	20,797
その他	9,877	23,516	13,639

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	0	0	0
当期末支払資金残高	0	0	0

主な増減理由
① 人件費は給与等の減

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2
(1)	社会的孤立などの課題の対応	取組項目	④
- 従来の制度では支援につながりにくく、社会的孤立や生活困窮などの状態にある人や世帯に対しての支援に取り組むために、研修会や各地区定例会で情報提供などを行い、民生委員・児童委員の役割を確認しながら支援を推進します。 - 民生委員・児童委員活動の実態把握に努めるとともに、民生委員・児童委員が円滑に活動出来るよう市内5つの民児協と協働し支援を実施します。			
【実績と成果】 - コロナ禍により見守り活動等において訪問自粛対応を行う一方、手紙や電話による相談などを実施し、コロナ禍の影響を最小限にとどめるよう、民生委員児童委員と緊密に連携を図りました。 - 昨年より自粛期間が短縮されましたが、コロナ禍により集団活動が制限されたため、集合形式の研修会は制限されました。新たにネット環境の整備に取り組み、オンラインによる会議や研修会にも積極的に参加し有益な情報を得られるよう、事務局として側面から支援を実施しました。			

- ・ 民生委員・児童委員が業務を円滑に行えるよう、正副会長会議、役員会、各定例会への出席及び研修会の企画実施などを行い、地域課題の情報共有を行いました。また、個別支援体制を強化するために地域包括支援センター等の関係機関と連携を深めました。

正副会長会議・・・年10回

役員会・・・年7回

主任児童委員部会・・・8回

各地区定例会・・・45回(5民児協)

専門部会研修・・・中止

新年合同会議・・・1回

B6	地域福祉事業	決算科目	共同募金配分金事業
----	--------	------	-----------

主な事業内容・成果
前年度に実施された赤い羽根共同募金運動の配分金を活用し、子育て支援グループへの助成やボランティア活動の振興等、地域福祉事業が推進されるよう取り組みました。コロナ禍が続くなか、川西市共同募金委員会と連携を図り、振込みに加え、訪問による法人募金の依頼に取り組むなど募金を通じた地域でのつながり、支え合いづくりに努めました。歳末たすけあい配分金事業は、持ち寄り金や前年度繰越金を原資に、要援護世帯や、福祉施設や団体、小地域ネットワーク事業等に幅広く配分し、支援を行いました。

今後の課題
年々減少している募金額の確保を図るため、地域住民や企業に対して、共同募金の意義や役割の周知・啓発を進め、募金活動や取り組みの充実に努める必要があります。また、福祉のまちづくりが推進されるよう、配分先の見直しや地域のニーズに応じた新たな配分先を検討する等努め、地域福祉の推進に取り組めます。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	16,496,151	16,737,121	240,970
経常経費補助金収入	16,496,151	16,737,121	240,970
(支 出)	16,496,151	16,737,121	240,970
事業費	11,296,091	11,557,963	261,872
事務費	26,082	37,228	11,146
助成金支出	5,173,978	5,141,930	△ 32,048

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	0	0	0
当期末支払資金残高	0	0	0

主な増減理由
①前年度剰余金の増に伴う収入増 ②各事業の回復に伴う事業費支出の増

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	福祉デザインひろばづくりの推進	活動項目	1-1
(1)	小学校区単位でのネットワークづくり～つながりあい～	取組項目	④
・ 共同募金配分金と歳末たすけあい募金配分金を活用し、地域住民や関係機関・団体、事業所等が連携を深め、福祉のまちづくりが推進されるよう支援します。 【実績と成果】 ・ 14地区福祉委員会へ助成を行い、住民交流等、福祉のまちづくりが推進されるよう支援しました。昨年度に引き続き、コロナ禍で地域の事業が縮小される中、地域でのニーズが高まっていた車いすを購入し、希望する地区へ助成するなど、地域ごとの特性に合わせた福祉事業に役立てられるよう支援しました。			
(2)	子育て支援の推進	取組項目	⑤
・ 共同募金配分金を活用し、まちの子育てひろばや子育てサークルの運営及び事業推進を支援します。 【実績と成果】 ・ 市内の24のまちの子育てひろば・サークルが実施する事業へ助成を行いました。コロナ禍の状況の下、密を避け、感染防止対策を行うなどそれぞれ工夫しながら開催したクリスマス会やお別れ会等の活動に役立てられました。			

2	ボランティア活動・市民活動・当事者活動の推進と支援	活動項目	1-2
(1)	ボランティア活動センターの機能強化	取組項目	①
- 共同募金配分金を活用し、ボランティア活動センターのコーディネート機能がさらに強化するよう支援します。 【実績と成果】 - 毎月第3土曜日にボランティア活動の相談日を設け、学生や勤労者が、自分らしいボランティア活動に参加できるようコーディネート機能を発揮しました。			
(2)	ボランティアグループなどへの支援	取組項目	②
- ボランティア活動センター登録グループやボランティア連絡協議会の活動がさらに広がりを見せるよう、共同募金配分金を活用し支援します。 【実績と成果】 - ボランティア活動のすそ野が広がるよう助成金を配分した33グループでは、研修会費用など各グループの特性に合わせた取り組みに役立てられました。また、コロナ禍でも感染防止対策を行い、創意工夫のもと活動を行っているボランティアグループに対して、助成金の要件を緩和し、コロナ禍でも継続してボランティア活動が行われるよう支援しました。			
(3)	当事者活動への支援	取組項目	④
- 高齢者や障がい児者、児童・青少年、母子等の当事者組織の主体的な組織運営や事業推進を、共同募金や歳末たすけあい募金の配分金を活用し支援します。 【実績と成果】 - 共同募金配分金事業では、児童・青少年、母子・父子福祉事業において、団体の相互交流だけでなく、子どもたちや地域住民とのつながりを深める貴重な財源として役立てられました。歳末たすけあい配分金事業では、市内の要援護世帯、寝たきり高齢者世帯へ給付金をお渡ししました。また障がい者施設や民間福祉団体に配分し、様々な福祉事業に役立てられました。			

3	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2-1
(1)	ボランティア講座の開催	取組項目	②
- 共同募金配分金を活用し、各種ボランティア講座を開催し、地域福祉活動の担い手作りに取り組みます。 【実績と成果】 - 筆談、手話、点訳などの講座を開催するとともに、地域福祉活動の担い手となるようフォローアップ研修を開催し、人材発掘と育成に取り組みました。			

4	福祉情報の受発信	活動項目	2-2
(1)	ホームページや広報紙、情報紙などの充実	取組項目	③
- 本会やボランティア活動をより多くの方に知ってもらい、理解者や協力者、参加者が増えるように、共同募金配分金と歳末たすけあい募金配分金を活用し、「社協かわにし」や「ボランティア情報にじ」等の発行を支援します。 【実績と成果】 - 本会の活動をより多くの方に知ってもらえるよう「社協かわにし」の発行に共同募金配分金と歳末たすけあい配分金を活用しました。高校生徒会等募金協力者の写真を掲載するなど紙面を工夫し、参加者、理解者が増えるよう取り組みました。また、新たな福祉人材の確保と育成のため、「ボランティア情報にじ」の発行に共同募金配分金を活用しました。			

5	地域福祉に係る財源の確保	活動項目	2-4
(1)	地域関係団体などと連携・協働した広報活動	取組項目	③
- 共同募金や歳末たすけあい運動の配分金を受けている組織や団体に、地域住民の共同募金運動への理解が深まるような記事掲載への協力について働きかけを行います。 【実績と成果】 「社協かわにし」に、配分先の組織や団体の「ありがとうメッセージ」を掲載し、どのように配分金が使われているか地域住民に理解していただけるよう、広報の充実を図りました。また、「ボランティア情報にじ」においても広報し、啓発活動に取り組みました。			

B7	地域福祉事業	決算科目	基金事業
----	--------	------	------

主な事業内容・成果
基金の利息をもって、ボランティア活動センター事業の推進や交通遺児への入学祝い等の給付事業に取り組みました。 また、地区福祉委員会と連携した施設整備等に取り組み、地域福祉活動拠点としての機能強化を図りました。

今後の課題
有価証券が満期を迎えるため、利息を活用した事業運営について変更が必要か見極め、有効に活用できる方法を決定する必要があります。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	28,934,782	94,218,078	65,283,296
受取利息配当金収入	667,743	666,628	△ 1,115
積立資産取崩収入	28,267,039	93,551,450	65,284,411
有価証券売却収入	0	0	0
その他	0	0	0
(支 出)	8,933,947	21,472,118	12,538,171
事業費	553,261	767,459	214,198
有価証券取得支出	0	0	0
積立資産支出	27,706	20,026,768	19,999,062
区分間繰入金支出	8,352,980	677,891	△ 7,675,089
その他	0		0

当期資金収支差額	20,000,835	72,745,960	52,745,125
前期末資金収支残高	5,795,260	25,796,095	20,000,835
当期末支払資金残高	25,796,095	98,542,055	72,745,960

主な増減理由
① 令和4年度に有価証券が満期になるための資金移動による収入の増
② 令和3年度有価証券満期に伴う支出の増

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域福祉に係る財源の確保	活動項目	2-4
(1)	基金、積立金の見直しと有効活用	取組項目	⑤
・ 本会の保有する基金、積立金について、活用の現状をもとに今後の活用について検討協議し、より有効な活用に努めます。 【実績と成果】 ・ 基金の利息等をそれぞれの事業費に充当し、ボランティア活動、交通遺児の支援、サロンの修繕に役立てました。令和4年度に有価証券の満期を迎えます。これまでのような利息額を見込むことができないため、原資の取崩も含め基金が有効に活用できる方法を決定します。			

その他

事業項目	①田中福祉基金事業の推進		
・ ボランティア活動センター事業に充当し、ボランティア育成などに活用します。			
【実績と成果】			
・ 故人の寄付金により基金を設置し、その利息をボランティア活動の推進に充当しました。			
事業経理区分		充当額	事業内容
ボランティア活動センター事業		141,768円	ボランティア講座の開催等

事業項目	②谷口交通遺児基金事業の推進
・小・中・高等学校並びに大学等へ入学する交通遺児に入学祝金を給付します。 ・小・中学校に在籍する交通遺児に就学給付金を支給します。 【実績と成果】 ・川西市の交通政策課と連携し交通遺児に対し入学祝金の給付と修学給付金を支給しました。 (入学祝金 665,000円 修学給付金 100,000円) 大学等進学時への支援も漏れなくできるよう、情報提供に取り組めます。	
取組項目	③一井基金事業の推進
・地区福祉委員会と連携した事業推進及び運営などへの支援を行います。 ・老朽化が激しい大和サロンの修繕が終了しました。 【実績と成果】 ・故人の遺志に基づき、川西市における地域福祉の向上をめざし、一井サロン等の民家を中心とした地域福祉活動拠点について、バリアフリー仕様への改造などの施設整備等に充てることを目的として設置しています。 明峰小地区の一井サロンでは、運営委員会を再開し、協議を通してサロンたんぽぽをはじめ福祉委員会の活動拠点としての機能強化を図りました。 また、大和地区の大和サロンにおいても、改修をきっかけとして新たな居場所づくりが検討されました。	

B8	地域福祉事業	決算科目	資金貸付事業
----	--------	------	--------

主な事業内容・成果
新型コロナウイルス感染拡大による影響に伴い、新型コロナウイルス特例貸付が継続する中、失業や減収による家計の収支均衡が取れない生活困窮者が多く、一時的な貸付では解決できない世帯に対し、生活困窮者自立支援事業等につなぐ等、他機関と連携を図りながら支援を行いました。また教育支援資金に関しては償還完了に至るまで、継続的な支援を行う必要があり、行方不明や連絡が取れない等、償還指導が困難な世帯に対しても、民生委員・児童委員と連携し、見守りや支援を行いました。

今後の課題
新型コロナウイルスの感染拡大による影響で、減収や離職を余儀なくされた世帯が急増したことにより、新型コロナウイルス特例貸付が実施されたが、満額の借入れをされている世帯でも困窮状態が続いている場合があります。今後は償還が始まるため、さらなる困窮状態になることが想定されます。そのため関係機関と連携を図り、相談支援を行う必要があります。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	8,553,076	9,335,338	782,262
経常経費補助金収入	2,532,682	2,812,637	279,955
助成金収入	2,260,000	2,340,000	80,000
受託金収入	3,760,394	4,182,701	422,307
その他	0	0	0
(支 出)	8,553,427	9,341,871	788,444
人件費	5,532,796	8,157,270	2,624,474
事業費	951,666	484,802	△ 466,864
事務費	209,918	681,511	471,593
その他	1,859,047	18,288	△ 1,840,759
予備費			0

当期資金収支差額	△ 351	△ 6,533	△ 6,182
前期末資金収支残高	99,893	99,542	△ 351
当期末支払資金残高	99,542	93,009	△ 6,533

主な増減理由
① 人件費支出は、特例貸付による人員採用による増 ② その他支出は、拠点区分間繰入金支出減による減

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

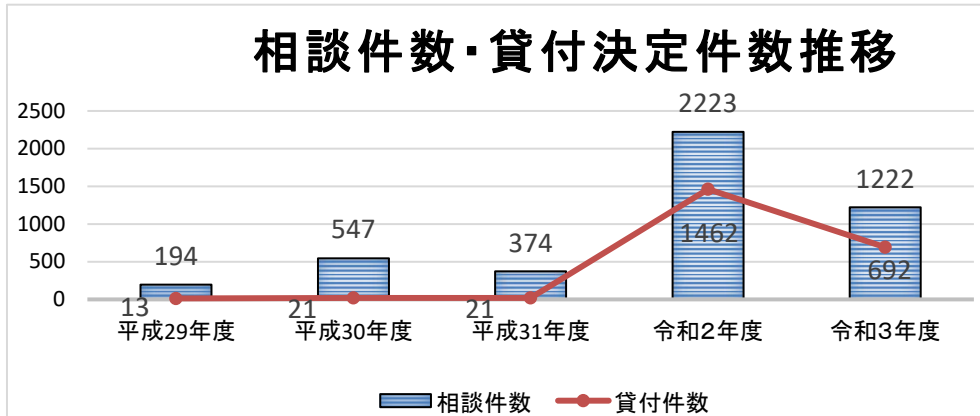
1	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2
(1)	社会的孤立などの課題の対応	取組項目	④
- 何らかの課題を抱える世帯では、生活困窮者の経済的な問題だけでなく、生活・福祉課題の深刻化や孤立化など多くの課題を抱える傾向にあります。SOSを見逃さず、その状態に応じた包括的な支援により、支援効果を高めていくよう取り組みます。 - 生活困窮者が地域で安心して生活できるよう、貸付を通じて構築された関係性を持続させるとともに、民生委員・児童委員、その他の関係機関と連携し、貸付金を交付することで支援が完了するのではなく、償還完了に至るまで様々な支援を組み合わせ、個々人の状況に応じた適切な支援を行います。 - 償還期間が長く設定されるこの制度において、初期滞納状態となっている借受人に対しては、早期にアプローチをとり、具体的な滞納の理由を把握し、生活困窮者支援の一環として総合的な支援体制を整え、長期滞納者に陥る事を防ぐように支援します。			
【実績と成果】			
- 借入相談者の支援ニーズとはどういうものかを考え、貸付にいたらなかった場合においても、社協内の資源や自立相談支援機関、行政等の関係機関への情報提供を適切に行うよう取り組みました。 - 償還に関して、一旦長期滞納となると借受人の償還意欲も大きく低下してしまうので、初期滞納者にできるかぎり早い段階で電話や文書等により償還を促しました。			
研修会・連絡会への参加			
令和3年度 生活福祉資金貸付事業新任担当職員研修会		6月3日	1名
令和3年度 生活福祉資金貸付事業担当者会議		1月12日	3名

その他

事業項目 連携強化型相談窓口機能の整備

- ・ 経済的困窮者の貸付のみならず、世帯の複合化した課題に対し、川西市、民生委員・児童委員、多様な関係機関と連携しながら、支援に取り組むための連携強化型相談窓口機能を活かした権利擁護を図ります。

【実績と成果】



事業項目 生活福祉資金貸付事業

生活福祉資金等相談内訳						
相談・資金の種類	相談件数(件)	相談延べ件数(件)	申請件数(件)	決定件数(件)	貸付額(単位:円)	
					R2年度	R3年度
教育支援資金	158	461	17	18	4,377,800	18,758,400
教育支援費	81	243	8	8	2,896,800	12,347,600
就学支度費	77	218	9	10	1,481,000	6,410,800
福祉資金	579	1,220	345	325	157,255,000	61,820,000
福祉費	28	42	1	1	55,000	60,000
緊急小口資金	551	1,178	344	324	157,200,000	61,760,000
総合支援資金	436	938	324	349	288,100,000	187,340,000
生活支援費	436	938	324	349	288,100,000	187,340,000
住宅入居費	0	0	0	0	0	0
一時生活再建費	0	0	0	0	0	0
不動産担保型生活福祉資金	0	0	0	0	0	0
臨時特例つなぎ資金	0	0	0	0	0	0
その他の相談(生活費・債務費等)	49	56	0	0	0	0
合 計	1,222	2,675	686	692	449,732,800	267,918,400

- ・ 貸付の相談に来られた方の中には、コロナの影響だけでなく慢性的に生活困窮している相談ケースが増えており、一時的な金銭の借入では解決できない場合があるため、川西市を始め他関係機関と当事者支援を行うため連携を図りました。
- ・ 教育支援資金に関しては、高校と大学進学との重複した借入や他機関からも借入している場合が多く、卒業後は一斉に償還が始まることから、在学中の現況確認だけでなく、卒業時にも面談を行うことで、卒業後の継続的な見守りや支援につながるよう取り組みました。
- ・ 心配ごと相談員研修会において、相談員15名に生活福祉資金を活用した住民支援について事業内容等の説明を行いました。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により生活に困窮し、貸付を限度額まで利用した世帯に対し、市からの委託事業として生活困窮者自立支援金の受付を実施しました。

B9	地域福祉事業	決算科目	善意銀行事業
----	--------	------	--------

主な事業内容・成果
要援助世帯の児童生徒に対し、修学旅行・小中学校の学校生活にかかる費用の支援をするとともに、各学校の福祉学習にかかる費用への支援や生活困窮世帯への緊急払出等を行いました。また、当事者団体の運営経費助成や子ども食堂・学習支援を行う団体に対しての助成金払出も実施しました。 その他、物品の払出を積極的に行い、払出報告を広報に記載して新たな物品寄付につなげました。また、ガーゼマスクを産着にして払出実績のない施設へ払い出すことができました。

今後の課題
引き続き安定した事業運営が行えるよう、善意銀行の理解者や協力者増に向けた取り組みを行うとともに、寄付が促進できるよう広報紙等でPRを行います。また、現状分析を進め寄付者の善意が活かされる事業の推進に努めるため積立金を活用する必要があります。また、修学支援金、修学旅行補助の申請をする学校に偏りがあるため、改めて周知をする必要があります。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	1,829,450	23,033,983	21,204,533
寄附金収入	1,828,970	23,033,850	21,204,880
積立預金取崩収入	0	0	0
その他	480	133	△ 347
(支 出)	1,940,976	23,257,529	21,316,553
給付金支出	922,436	825,023	△ 97,413
助成金支出	593,460	879,348	285,888
区分間繰入金支出	424,600	21,553,025	21,128,425
積立資産支出	480	133	△ 347

当期資金収支差額	△ 111,526	△ 223,546	△ 112,020
前期末資金収支残高	2,013,783	1,902,257	△ 111,526
当期末支払資金残高	1,902,257	1,678,711	△ 223,546

主な増減理由
① 指定預託の大口寄付による収支の増 ② 助成金支出は、指定払出の増 ③ 給付金支出は、就学支援等の減

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	福祉情報の受発信	活動項目	2-2
(1)	ホームページや広報紙、情報紙などの充実	取組項目	③
・ 広報紙やホームページのほか、開設したLINE公式アカウントなどのSNSを使用し、善意銀行の具体的な活動をPRすることで協力者・理解者を増やすとともに、支援を必要としている方にも情報がいきわたるよう適切な媒体を選択し発信します。 【実績と成果】 ・ ホームページでは、善意銀行の預託及び払出内容や受付方法を、また、広報紙では、毎号善意銀行だよりにご寄付をいただいた方の氏名・金額を掲載しています。広報紙の記載内容をみて、寄付についての問い合わせが増えました。その他、令和2年9月より適用を受けた「税額控除制度」についてもホームページ並びに広報紙にも随時掲載しています。寄付額については一般預託額は減少したものの、指定預託については大口寄付額が増加しました。			

2	地域福祉に係る財源の確保	活動項目	2-4
(1)	基金、積立金の見直しと有効活用	取組項目	⑤
・ 現状分析やニーズ把握をすすめる善意の寄付や積立金が有効に活用できるよう引き続き取り組みます。 ・ 「税額控除制度」の適用を受けたことで、個人による小口の寄付を促進できるようPRを続けます。 【実績と成果】 ・ 善意銀行の取組について広報紙等でPRを行うとともに、市内にある各小・中・養護学校へ複数回情報提供を行いました。引き続き、川西市の担当課とも協力し情報収集・発信に努めます。			

B10	地域福祉事業	決算科目	包括的支援体制構築事業
-----	--------	------	-------------

主な事業内容・成果
川西市や地域包括支援センター、基幹相談支援センターなど多様な機関と連携し多様化・複雑化した生活課題を抱える方の相談に対応しました。 各相談支援機関が抱える困難事例においても、課題を整理し、役割を分担することで多機関協働による支援をコーディネートしました。

今後の課題
・重層的支援体制を進めていく上で、属性や世代を問わない相談も各相談機関が受け止めることとなります。専門外の相談を受けた場合でも、適切な支援機関へつなぐことができるよう、各相談機関間の連携を円滑にすべく取り組んでいく必要があります。 ・「個別支援」と「地域支援」が連携するケースの実践や事例検討会を定期的に開催し、重層的支援体制を構築していく必要があります。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	7,375,736	7,445,636	69,900
受託金収入	7,375,736	7,445,636	69,900
(支 出)	7,375,736	7,445,636	69,900
人件費	7,189,206	7,170,325	△ 18,881
事業費	8,759	37,423	28,664
事務費	167,894	219,600	51,706
その他	9,877	18,288	8,411

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高			0
当期末支払資金残高	0	0	0

主な増減理由

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談窓口機能の整備	活動項目	3-1
(1)	多様な担い手と連携・協働による切れ目のない支援体制づくり	取組項目	③
・介護・障がい・子育て・貧困等複合化した課題に対し、関係機関と連携し、伴走型支援を行っていきます。 【実績と成果】 ・総合相談窓口として、高齢者や障がい者、子育てなどの複合課題に対し、相談支援の関係機関と適切な役割分担や連携を図り、相談支援機関が協働するコーディネートを行いました。			
(2)	連携強化型相談窓口機能の整備	取組項目	④
・地区相談窓口や心配ごと相談などの様々な相談窓口に加え、カフェやサロンなどの様々な地域福祉活動及び福祉ネットワーク会議を通じて、地域や当事者のニーズ、生活課題の把握に取り組みます。 【実績と成果】 ・新型コロナウイルスの影響から、地区相談窓口などへの訪問を通じた地域福祉活動との連携は、昨年に続いて取り組むことができませんでした。一方で、個別の相談に対応する過程で必要に応じて民生児童委員や地区福祉委員等と地域課題の共有を行いました。			

2	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2					
(1)	総合相談支援体制の強化	取組項目	①					
・ 8050問題、引きこもり支援、ゴミ屋敷等の複合的課題や制度の狭間にあるケースについて、行政及び地域資源等の多機関が連携して課題解決に取り組みます。								
【実績と成果】								
・ 多種多様な制度の狭間にあるケースについて関係機関との連携、コーディネートを行い、その抱える課題に応じた支援が提供されるよう必要な調整を行いました。								
新規相談件数(令和3年度71件)								
世帯分類(実件数)		相談経路(実件数)						
単身	17	本人	4	民生委員児童委員	1			
高齢者のみ	10	家族	12	住民・企業	1			
高齢者と独身の子	32	市役所	11	病院	4			
母子・父子	2	地域包括支援センター	30	診療所・医院	0			
3世代同居	4	健康福祉事務所	0	介護支援専門員	2			
2人家族	2	警察	0	相談支援専門員	5			
その他	4	社協	1					
年間相談対応延べ件数(令和3年度875件 複数対応あり)								
内容	病気・けが	障がい	介護	金銭管理	ひきこもり	消費者被害	虐待	家族不仲
件数	39	705	87	800	44	1	44	357
内容	養育困難	不登校	家庭内暴力	依存症	地域孤立	住居問題	近隣トラブル	他
件数	0	0	3	19	7	116	64	52
(2)	社会的孤立などの課題の対応	取組項目	④					
・ 経済的困窮や社会的孤立などの状態にある人や世帯に対し、相談支援包括化推進員を中心として権利擁護支援担当職員とコミュニティワーカーが連携し、積極的にアウトリーチを行います。								
・ 当事者や地域の複合化・複雑化したニーズを的確に捉え、SOSのサインを見逃さず、課題解決に向けた支援に取り組みます。								
【実績と成果】								
・ ゴミ問題やひきこもり、多頭飼育崩壊など、地域で複合的な課題を抱える世帯に対して、地域住民や関係機関と連携し、アウトリーチを行い、必要な支援のコーディネートを行うことで、課題解決に向けて取り組みました。また、ひきこもりなど、社会的孤立の課題に対しては、本人の意思尊重を図りながら、伴走型支援を行いました。								
今後は、重層的支援体制の構築に向け、コミュニティワーカーと連携し地域で見守る体制や、今までになかった地域資源のさらなる検討が必要になってきます。								

3	専門機関・団体との連携、ネットワークの強化	活動項目	3-3
(1)	顔の見えるつながりづくりの推進	取組項目	①
- 地区担当職員と総合相談担当職員が中心となり、各担当部署と連携しながら、地域に出向き、様々な課題を把握し、受け止め、解決に向けた支援を行う包括的な総合相談支援体制を強化します。 【実績と成果】 - 個別支援を通じて、相談支援機関などとネットワークの強化ができました。 今後は重層的支援体制の構築を見据え、地区担当職員とともに、地域の課題を把握しながら地域の様々な団体とつながり、地域づくりに向けた支援も行っていく必要があります。			

(2)	包括的・総合相談支援体制における連携	取組項目	⑤
・ 連携強化型相談窓口機能を活かし、地域へのコミュニティソーシャルワーク機能を発揮するとともに、川西市の行政内の関係所管課が必要な支援を行う「川西市地域連携支援チーム」と連携して複合化した地域課題への包括的な支援に取り組みます。			
【実績と成果】			
・ 令和3年度は複雑化したケースにおいて、市の関係所管課が必要な支援を検討する「川西市地域連携支援チーム」の会議を3回行い、各相談支援機関の対応等を協議することができました。今後も各相談支援機関と連携し、必要に応じ川西市地域連携支援チームの会議開催を働きかけ、包括的な支援に取り組みます。			

C	介護保険事業 総合支援法事業	決算科目	すこやかサービスセンター
---	-------------------	------	--------------

主な事業内容・成果
市内の支援が必要な方々に介護保険、障害者総合支援法に基づき各種サービスを提供しました。 新型コロナウイルス感染症に対し十分な対策（消毒液やマスク、防護服などの携帯）を行い、濃厚接触者・発症者への支援を断らない方針でサービス提供を進めました。 介護保険事業及び障害福祉サービス事業においては利用者増となりましたが、地域生活支援事業は利用者の外出自粛等により利用者減となりました。

今後の課題
新型コロナウイルスの感染拡大により外出支援の減少が長引いているため、訪問系サービスの新規利用者の獲得及び受け入れに必要な登録ヘルパーの確保を進めます。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	32,784,411	32,209,834	△ 574,577
介護保険事業収入	12,306,728	13,110,151	803,423
障害福祉サービス等事業収入	17,980,683	19,094,683	1,114,000
区分間繰入金収入	1,183,000	0	△ 1,183,000
その他	1,314,000	5,000	△ 1,309,000
(支 出)	31,926,022	32,543,838	617,816
人件費	27,646,791	29,806,733	2,159,942
事業費	1,076,960	643,304	△ 433,656
事務費	2,250,937	1,843,524	△ 407,413
その他支出	951,334	250,277	△ 701,057

当期資金収支差額	858,389	△ 334,004	△ 1,192,393
前期末資金収支残高	10,299,107	10,655,578	356,471
当期末支払資金残高	11,157,496	10,321,574	△ 835,922

主な増減理由
① 介護保険事業収入及び障がい福祉サービス等事業収入は、利用者増による収入の増
② 人件費は、週4日勤務ヘルパー1人増等に伴う支出の増

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2
(1)	職員の資質向上	取組項目	②
・ 外部研修で得た知識や技術を職員間で共有するとともに、内部研修を実施し、担当職員全体の資質向上につなげます。また、利用者の状態の変化やその他のニーズを把握できる視点を持ち、その解決に向けての内部の関係部署やケアマネージャー等関係機関と連携し、利用者の自分らしい暮らしを支えられるようにサービスを提供します。 【実績と成果】 ・ 令和3年度の計画に基づき毎月の定例会を開催し、外部講師を招いた研修(虐待防止、感染症対策等)を実施して登録ヘルパーを含む職員間の情報共有及び資質向上に努めました。定例会開催にあたり、新型コロナウイルス感染症による緊急事態宣言発令等により、WEBを導入するなど参加しやすい方法を取り入れました。また、障がいをお持ちの方の地域移行がすすめられ、その生活を支えるためのヘルパー派遣が増加しました。			

その他

事業項目	①安定したセンター経営の取組
・ 収支の改善をめざし、常に収支状況や組織体制を鑑みながら、必要に応じて人員の充実や経費等の見直しを行い、効率的で安定したセンター経営に努めます。	

【実績と成果】

- 新型コロナウイルス感染症の影響が大きい外出支援の利用が少なく、反対に、訪問、居宅支援について収入増となりました。
感染症の影響が、センター全事業へ大きく影響しなかったことが幸いしていますが、ヘルパーの新規採用および、新規利用者の獲得が引き続き必要です。

事業別報告

(1)介護予防訪問介護、訪問介護事業

介護予防訪問介護・訪問介護事業 月別利用・サービス提供実施状況

内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	利用者数	35	36	36	38	39	40	40	40	40	39	41	41	465
	活動時間数	270:35	274:55	297:45	274:50	291:30	300:30	282:45	291:20	268:10	266:25	267:55	303:50	3390:30
	活動回数	299	300	340	315	362	368	335	349	306	315	315	372	3,976

(2)居宅介護事業、重度訪問介護事業、同行援護事業

障害福祉サービス事業 月別利用・サービス提供実施状況

内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	利用者数	19	19	18	18	17	19	19	17	19	18	18	23	224
	活動時間数	357:10	315:20	323:40	294:30	269:15	304:55	368:10	353:05	329:30	296:40	302:40	339:00	3853:55
	活動回数	220	208	211	200	194	213	210	219	208	195	204	226	2,508

(3)地域生活支援事業

①全身性ガイドヘルプサービス 月別提供実施状況

内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	利用者数	5	3	3	4	2	2	3	3	3	2	2	2	34
	活動時間数	77:10	65:45	94:50	93:00	78:15	74:30	78:00	88:30	89:15	83:00	72:45	73:15	968:15
	活動回数	15	11	15	16	12	11	13	14	15	13	13	12	160

(4)介護保険、障害者総合支援法関連事業の経営について

すこやかサービスセンター利用者状況

内容	事業区分		利用者(人)
	介護保険事業関係	訪問介護・総合事業	465
		障害福祉サービス事業	224
	障害者総合支援法関係	地域生活支援事業	34
		合 計	723

(5)収支(経営)状況

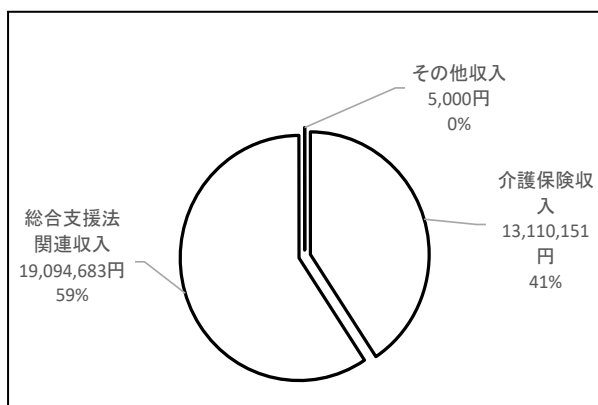
①事業区分別収支状況

事業区分		収入	支出	差引
介護保険 関連事業	訪問介護事業(総合事業含む) (ホームヘルプサービス)	13,110,151	12,435,547	674,604
	小計①	13,110,151	12,435,547	674,604
障害者総 合支援法 関連事業	居宅介護事業 (障害ホームヘルプサービス)	10,666,049	9,598,537	1,067,512
	重度訪問介護事業 (重度障害ホームヘルプサービス)	0	0	0
	同行援護事業 (視覚障害サービス)	6,071,809	7,483,204	△ 1,411,395
	地域生活支援事業(移動支援) (ガイドヘルプサービス)	2,361,825	3,026,550	△ 664,725
	小計②	19,099,683	20,108,291	△ 1,008,608
合計(①+②)		32,209,834	32,543,838	△ 334,004

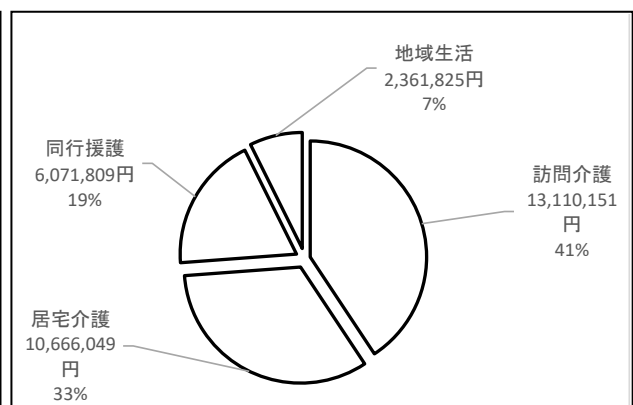
※ サービス区分間繰入金、前期末支払資金残高は含まない収支です。

②収入・支出の内訳

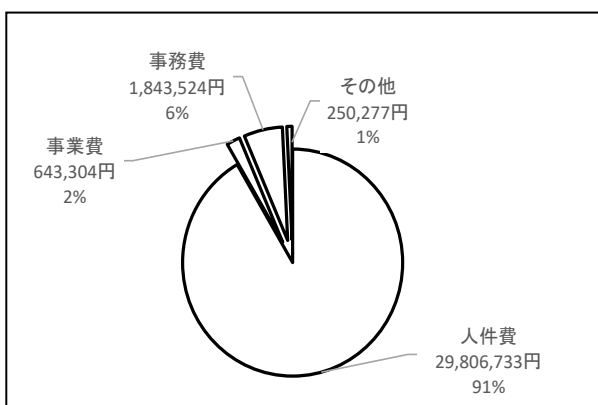
すこやかサービス収入内訳



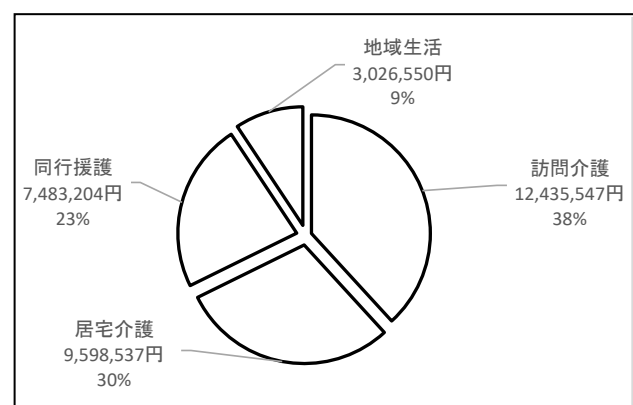
すこやかサービス事業収入内訳



すこやかサービス支出内訳

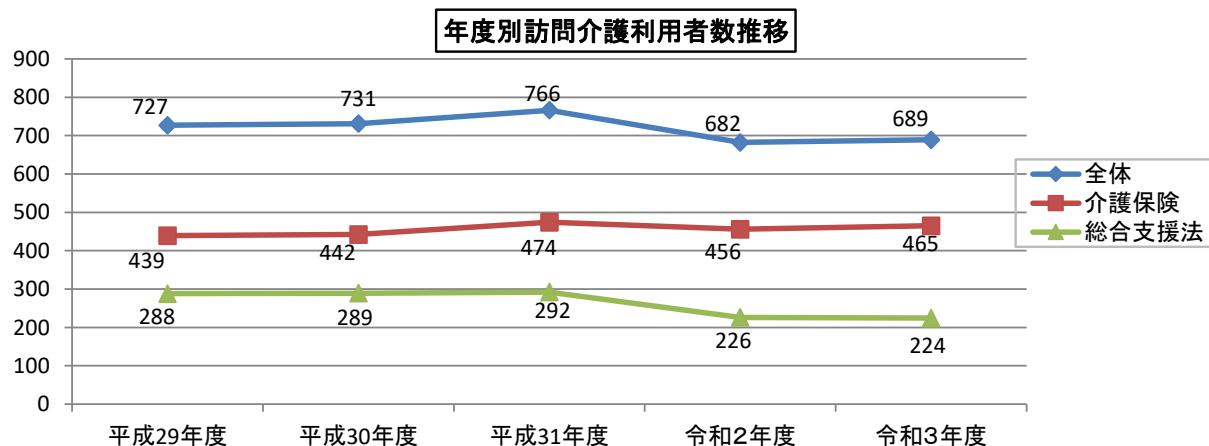


すこやかサービス事業支出内訳

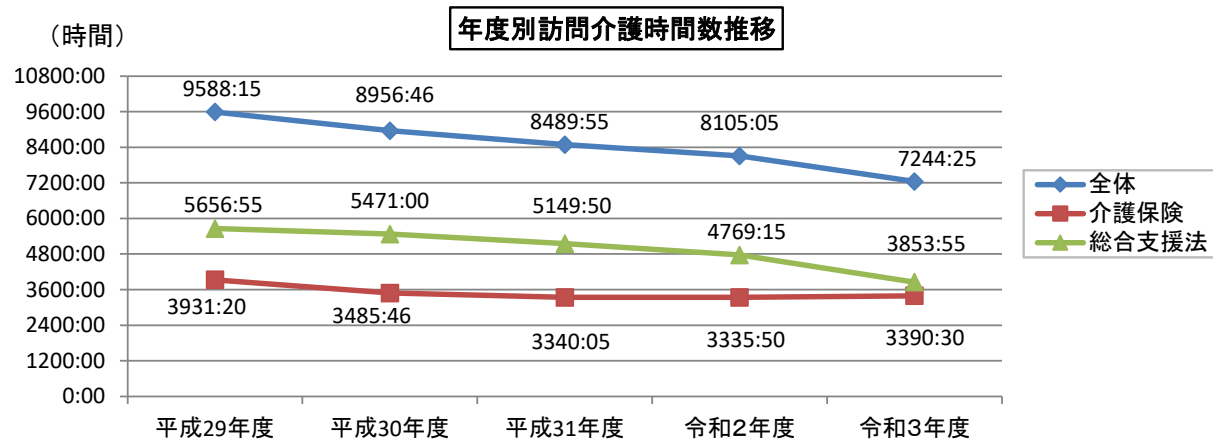


(6) 年度別活動実績の推移

① 訪問介護利用者数の推移



② 訪問介護活動時間数の推移



(7) 専門性及び技術の向上をめざした研修等の充実

① ホームヘルパー関係

毎月開催しているホームヘルパー定例会での研修で感染症対策、心肺蘇生法、虐待防止等に関する研修会等を行いました。

(8)川西市介護保険サービス協会				
内 容	42の法人等123事業所で組織されている川西市介護保険サービス協会において、本会は事務局として運営を支援し、資質の向上及び事業所間の連携等を目的に、次のような研修会等が開催されました。			
	開催日	内 容	場 所	参加者
	令和3年 7月	○研修会 新型コロナウイルス感染症のため開催中止		
	令和3年 11月11日	○研修会 内 容：介護報酬改定から半年を迎えてほか (川西市・猪名川町合同研修) 講 師：兵庫県阪神北県民局宝塚健康福祉事務所 監査指導課 課長 木下 邦彦 氏	キセラ川西 プラザ大会議 室 WEB	171人
	令和4年 2月18日	○介護就職フェア 内 容：就職面接会(完全予約制) 主 催：川西市 ハローワーク伊丹 川西市介護保険サービス協会	アステホール	面接会 参加人数 30人 採用人数 2人

D	障がい者相談支援事業	決算科目	障がい者基幹相談支援センター
---	------------	------	----------------

主な事業内容・成果
市内相談支援体制の三層化(基幹・委託・指定事業所)を構築していく中で、課題の抽出を行いました。①相談支援事業所の絶対数が不足している。②緊急的に利用できる短期入所先の確保が必要。③福祉サービス事業所の質の向上。などが課題として挙がっています。各課題の解決に向け連絡会やワーキングなどで対応が始まっています。また、就労相談支援連絡会で障がい者就労について基幹と委託との役割分担を行い新年度からの体制づくりを行いました。

今後の課題
① 基幹相談支援センター運営について担当課や他相談支援事業所と密に連携を取り合う必要があります。
② 多様化している相談内容に寄り添うために職員の資質の向上や社会資源、関係機関とより広く深く繋がっていく必要があります。
③ 相談支援事業所の誘致活動、緊急短期入所先の整備、福祉サービス事業所の質の向上に向けた取り組み、障がい者就労支援への取り組みを行います。
④ 障がい者虐待の抑止力となるよう周知・啓発に取り組みます。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	48,325,001	42,391,739	△ 5,933,262
受託金収入	36,898,966	36,559,661	△ 339,305
障害福祉サービス等事業収入	11,166,035	3,189,078	△ 7,976,957
基幹相談支援経理区分繰入金収入	260,000	2,643,000	2,383,000
その他			0
(支 出)	48,325,001	42,391,739	△ 5,933,262
人件費	44,741,787	34,883,865	△ 9,857,922
事業費	719,244	687,222	△ 32,022
事務費	2,794,838	2,444,740	△ 350,098
支払利息支出	13,853	21,420	7,567
ファイナンスリース債務の返済支出	55,279	122,404	67,125
固定資産取得支出		198,000	198,000
経理区分間繰入金支出		4,034,088	4,034,088

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	15,614	15,614	0
当期末支払資金残高	15,614	15,614	0

主な増減理由
① 障害福祉サービス等事業集収入は、計画相談プラン作成等を引き継いだことによる減
② 人件費の減、経理区分間繰入金支出の増については、総合職員の配置換えと専門職員の配置に伴う増減
③ 固定資産取得支出はソフトウェア取得支出の増

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	社協らしい、地域福祉との協働による連携強化型相談支援窓口機能の整備	活動項目	3-1
(1)	多様な担い手との連携・協働による切れ目のない支援体制づくり	取組項目	③
- 障がい者やその家族の総合相談・専門窓口として、地域における様々な資源や関係機関と連携しながら、自立支援に取り組みます。 - 基幹相談支援センターとして、市内の他事業所と協働することで障がい者相談支援の強化・充実を目指します。 【実績と成果】 - 様々な相談に対応する中で、社協内の各チームや地域包括支援センターや行政機関などと連携する事例が増えてきました。各機関の立場や役割などの理解を深めたことや、円滑な支援につながるように積極的に研修や会議などに参加をしたことで、所属や立場を理解した対応ができる場面も増えてきています。 今後は、基幹相談支援センターの役割をより明確にし、関係機関に知っていただけるような活動が必要です。また、障がい者支援の専門性についてもより研鑽が必要です。 また、障がい者相談支援の強化・充実については、他事業所からの相談に対してスーパーバイズを行ったり、同行しての実地指導を行うとともに、事例検討なども行いました。結果として、強化・充実とともに、他事業所との連携強化にもつながりました。			

2	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2
(1)	権利擁護の推進	取組項目	③
- 障がい者の虐待防止について、住民への周知・啓発に取り組むとともに、虐待防止、早期発見のため関係機関と連絡調整し、本人の意思に基づく支援が行われるように取り組みます。 - 障がい者差別解消法に基づき、差別のない社会推進に取り組めます。 【実績と成果】 - 施設虐待や養護者虐待などの対応をしました。相談支援事業所向けの虐待対応力向上研修を行いました。相談員として虐待へのアンテナの立て方や対応について継続して研修を行います。また、啓発活動としてリーフレットを作成し、市内の福祉サービス事業所へ啓発活動を行いました。また、虐待対応について担当課と役割や対応手順についての整理を継続して取り組んでいます。			

3	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	地域の福祉拠点としての取り組み	取組項目	②
- 社協職員としてコミュニティワークの視点を持ち、「連携強化型相談支援窓口機能」における相談の入り口としての役割を担い、必要に応じて関係機関との連絡調整を行いながら、地域住民を身近で支えるよう取り組みます。 - 地域での生活を希望される障がい者が地域移行・地域定着支援を利用することで、本人、地域住民が安心して生活できるよう支援をします。 【実績と成果】 - 地域との連携を意識しながら業務を行いました。各機関も連携を意識されている中で、ケースワークや地域課題を通じて、互いの役割を意識しつつ支援に取り組めるようになってきています。しかし各機関の役割や取り組みについて十分、相互理解ができていない現状は、今後の課題であると思われます。地域移行・地域定着支援について準備は進めたものの、コロナウィルス蔓延の影響を受けてしまい実績としてはありませんでした。ただ、この間に病院や他市・市内の関係機関と情報交換を行い、すでに動き始めているケースがあります。			

(1)相談・支援利用者の障害別状況(令和3年4月～9月・上半期)							
(単位:人)							
項	目	身体障がい	精神障がい	知的障がい児	知的障がい者	不明者	合計
①	福祉サービスの利用援助	58	314	6	542	57	977
②	社会資源を活用するための支援	53	195	6	452	43	749
③	社会生活力を高めるための支援	50	228	6	479	45	808
④	ピアカウンセリング	0	0	0	0	0	0
⑤	権利擁護のために必要な支援	4	9	8	14	1	36
⑥	専門機関の紹介と連絡調整	140	694	3	670	86	1,593
⑦	障害程度認定区分による調査	0	1	0	2	0	3
⑧	サービス等利用計画の作成・管理	36	19	0	129	3	187
合 計		341	1,460	29	2,288	235	4,353

⑦障害程度認定区分による調査 0%

⑥専門機関の紹介と連絡調整 37%

⑤権利擁護のために必要な援助 1%

④ピアカウンセリング 0%

⑧サービス利用計画の作成・管理 4%

①福祉サービスの利用援助 22%

②社会資源を活用するための支援 17%

③社会生活力を高めるための支援 19%

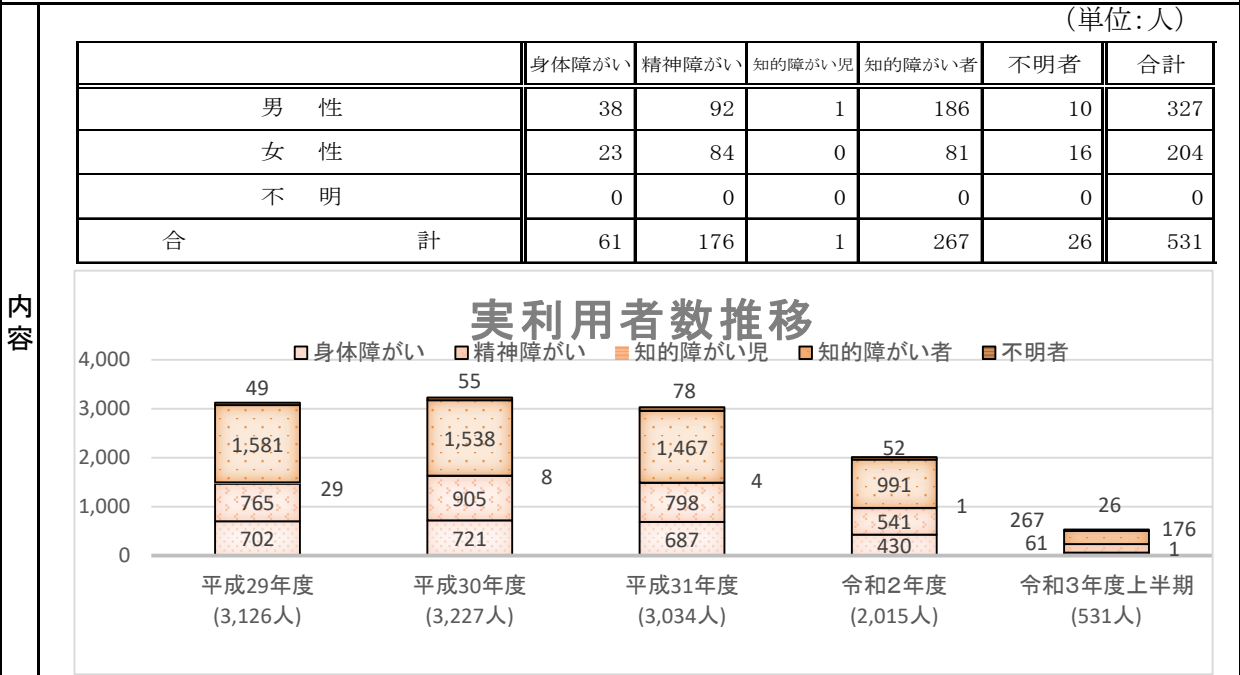
(2) サービス調整会議実施回数

内 容	(単位:人)					
		身体障がい	精神障がい	知的障がい児	知的障がい者	未確認
	サービス調整会議	5	37	0	50	0
合 計		92				

(3) 相談方法

内 容	(単位:人)					
	相 談 方 法	身体障がい	精神障がい	知的障がい児	知的障がい者	不明者
	合 計	2,128	111	933	10	884
内 容	電話相談	1,275	64	495	3	597
	FAX・メール・相談	53	4	20	0	25
	来所相談	126	6	56	0	54
	訪問相談(施設訪問も含む)	666	37	357	7	205
	その他	8	0	5	0	3
	合 計	2,128	111	933	10	884

(4) 実利用者数



(5) 障がい種別・程度別相談状況

内 容	(単位:人)							
		1級	2級	3級	4級	5級	6級	不明者
	合 計	190	3	0	8	24	5	26
身 体 障 が い 者	男 性	99	3	0	8	24	5	26
	女 性	91	0	0	0	0	0	0
	合 計	190	3	0	8	24	5	26
精 神 障 が い 者	1級	370	370	370	370	370	370	370
	2級	370	370	370	370	370	370	370
	3級	370	370	370	370	370	370	370
知 的 障 が い 児 ・ 者	非所持者	884	884	884	884	884	884	884
	不明者	884	884	884	884	884	884	884
	合 計	884	884	884	884	884	884	884

(6)障がい者就労支援事業(通年での報告)

①障がい種別相談者数

(単位:人)

	身体障がい	精神障がい	知的障がい	非所持者	不明者	合計
男 性	0	105	319	0	0	424
女 性	3	45	143	0	0	191
合 計	3	150	462	0	0	615

②就労相談状況

(单位:人)

	指導助言	情報提供	見学 面接同行	実習支援	その他 (生活相談)	職 場 定着支援	合 計
① 登録	18	9	0	0	98	32	157
② 未登録	7	12	0	0	104	9	132
合 計	25	21	0	0	202	41	289

③関係機関との連携状況

(単位:人)

	行政 職 務	政 安 セ ン	各 支 援 セ ン ター	施 設 作 業 所	学 校	企 業	そ の 他 (会議含)	合計
① 訪 問	6	5	2	24	30	10	77	
② 連 絡	22	66	10	18	99	28	243	
③ 来 所	0	1	0	0	2	3	6	
合 計	28	72	12	42	131	41	326	

(7)障がい者虐待防止センター事業(通年での報告)

①相談件数	
-------	--

(单位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
虐待の通報・相談 件数(再来を含む)	3	1	1	0	0	2	0	1	1	2	0	2	13
その内市役所への 通報・相談件数	1	1	1	0	0	2	0	1	1	0	0	0	7
制度や虐待についての 質問・相談件数	1	0	1	0	0	1	2	0	0	2	2	2	11
本人・家族等との面 談・訪問・電話等件数	2	2	15	4	2	10	1	3	25	15	25	6	110
市・専門機関との 調整・会議等件数	14	1	8	2	0	2	2	2	10	3	6	8	58
虐待と認定された件数 (市への通報分も含む)	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
その他	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1

②通報・相談者数

(単位:人)

養護者	本人	知人	関係者	その他	計
6	3	0	2	2	13

内容

③虐待者						
(単位:人)						
養護者	施設	企業	その他	計		
8	2	0	3	13		
④虐待の種類(重複あり)						
(単位:人)						
身体的虐待	心理的虐待	性的虐待	ネグレクト	経済的虐待	その他	計
8	2	0	2	2	0	14

* 障がい者就労支援事業および障がい者虐待防止センター事業につきましては、通年の報告となります。

事業実施状況報告書下半期

(令和3年10月～3月分)

(相談支援を利用している障害者等の人数)

	実人員 (1)	身体障害 (2)	重症心身 障害 (3)	知的障害 (4)	精神障害 (5)	発達障害 (6)	高次脳機 能障害 (7)	その他 (8)
障 害 者	555	224	1	1143	862	293	40	221
障 害 児	3	0	0	18	0	0	0	0
計	558	224	1	1161	862	293	40	221

(支援方法)

	訪問 (1)	来所相談 (2)	同 行 (3)	電話相談 (4)	電子メール (5)	個別支援会議 (6)	関係機関 (7)	その他 (8)	計 (9)
件数	637	176	11	1159	38	56	693	32	2802

(支援内容)

	福祉サービ スの利用等に 関する支援	障害や症状の 理解に関する 支援	健康・医療 に 関 す る 支 援	不安の解消・ 情緒安定に関 する支援	保育・教育に 関する支援 (5)	家族関係・人 間関係に関す る支援	家計・経済に 関する支援 (7)	生活技術に関 する支援 (8)	就労に関する 支援 (9)
件数	1008	219	194	101	7	200	74	118	413

	社会参加・ 余暇活動に 関する支援	権利擁護に関 する支援 (11)	その他 (12)	計 (13)
件数	12	126	990	3462

* 令和3年10月の事業実施状況報告書より様式・報告内容が変更になりました。委託相談支援事業所によって報告事項や記述方法が異なることについて、統一した様式・記入方法での報告を担当課から求められたためです。相談支援部会内で話し合いを行い、上記の様式で実人数で報告することとなりました。そのため、令和3年度の事業報告も上半期と下半期での違う様式での報告となります。

E1	障がい者施設	決算科目	小戸作業所
----	--------	------	-------

主な事業内容・成果
障害者総合支援法に基づき、生活介護・就労継続支援B型事業を実施しました。個別面談や年度末アンケート、給食の嗜好調査などを行い、利用者主体の個別支援計画書の作成及び支援に努めました。新型コロナウイルス感染のために生活介護サービスは休所することがありましたが、在宅支援を実施して利用者数の確保に努めました。生活介護と就労継続支援B型と連携を取り合いながら作業に取り組み、就労継続支援B型の工賃は増加出来ました。トライやる・ウィークや介護等体験実習はコロナ禍により中止となりました。就労継続支援B型では新規利用者を1人契約につなげました。

今後の課題
① 作業量の確保の安定に努めながら、作業種類と工賃収入を増加させる必要があります。 ② 新規利用者確保や地域住民の理解を深めるために、実習生やボランティア、見学等の受け入れは、感染対策を実施しながら積極的に行う必要があります。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	126,646,666	127,475,560	828,894
受託金収入	40,728,660	29,883,599	△ 10,845,061
就労支援事業収入	8,786,066	9,367,307	581,241
障害福祉サービス等事業収入	75,458,927	85,271,993	9,813,066
その他	1,673,013	2,952,661	1,279,648
(支 出)	126,646,666	127,475,560	828,894
人件費	102,893,262	103,050,193	156,931
事業費	10,801,604	11,005,031	203,427
事務費	3,408,437	3,336,921	△ 71,516
就業支援事業支出	8,786,066	9,367,307	581,241
その他	757,297	716,108	△ 41,189
固定資産取得支出	0	0	0

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	4,898,190	4,898,190	0
当期末支払資金残高	4,898,190	4,898,190	0

主な増減理由
① 障害福祉サービス等事業収入は、長期欠席利用者の方の出席及び新規利用者1人増による増 ② 収入のその他は、法人本部よりキャリアアップによる給与差額分受入れに伴う増

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3－4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	事業項目	①

生活介護事業(定員40人)

① 作業量と作業種類を安定的に提供できるように努めます。

【実績と成果】

・ 生産活動については、取引先企業の協力もあり、施設内で連携を取りながら作業に取り組むことができました。ご本人・保護者との面談や担当者会議を行い、希望や思いに基づいた支援計画書を作成し支援に生かしました。日中活動は、感染防止に努めながら画用紙や折り紙を使って季節の事柄や各月のカレンダーを作成するなど創作活動を行いました。利用者忘年会は密を避けるため、少人数のグループごとにビンゴ大会やゲームを楽しんでいただきました。

生活介護				(単位:円)	
	支 払 総 額	最 高 額	最 低 額	1人当たり平均	前 年 度
4月	239,600	16,100	400	6,845	5,293
5月	195,700	12,200	300	5,591	4,603
6月	226,400	13,000	1,400	6,658	3,345
7月	341,800	26,900	200	9,494	7,697
8月	238,300	15,900	400	6,808	6,908
9月	277,900	19,700	400	7,940	8,008
10月	370,800	28,500	1,400	10,905	10,240
11月	236,000	15,200	400	6,742	12,481
12月	420,200	34,500	600	12,005	7,351
1月	277,400	20,200	1,200	8,158	9,138
2月	212,600	15,700	1,000	6,252	9,361
3月	308,777	22,393	313	8,822	8,722
年度	3,345,477	20,024	668	8,018	7,762

- ② 地域の施設を身近に感じていただけるように新しい施設パンフレットを活用し、地域住民への理解に努めます。

【実績と成果】

- 見やすく親しみやすい形のパンフレットができあがり、見学者にお渡ししました。トライやる・ウィーク・介護等体験実習、所内・所外行事(遠足等)においてのボランティアの方々の受け入れは、コロナ禍により中止となりました。少しでも地域住民との関わりを持つため、施設周辺や公園のゴミ拾いを行ないました。

- ③ 新規利用者確保に努めます。

【実績と成果】

- 相談事業所との連携により通所希望の方の受け入れを進めていましたが、残念ながら契約までには至りませんでした。特別支援学校と連絡を密にし感染防止に努めながら積極的に見学者を受け入れました。2月に新型コロナウィルス感染のため、休所することがありましたが、利用日数の減少を最小限に留めるため、毎日2回電話で健康状態、生活状況を聞き取りを行い相談や助言をすることで在宅支援を行いました。

就労継続支援B型事業(定員20人)

- ① 作業量と作業種類を安定的に提供できるように努めます。

【実績と成果】

- 基幹相談支援センターの紹介で、関係事業所と取引を始め、新しい作業に取り組むことが出来ました。川西作業所との連携で、さらにもう1社新規企業と取引を始めることができ、利用者の特性に合わせた作業提供に努めました。生活介護サービスとも連携をとり、少しでも付加価値の高い作業を提供することで工賃を増やすことができました。面談や日頃の会話等で意向を聞き取り、個々の利用目的を明確にし、利用者の状況や思いに沿った計画書を作成しました。高齢化が進む中で、体力や特性に沿った作業提供を行うなど、一人ひとりに合わせた支援を行いました。

就労継続支援B型

(単位:円)

	支 払 総 額	最 高 額	最 低 額	1人当たり平均	前 年 度
4月	392,400	40,300	1,900	20,652	16,675
5月	323,200	37,000	1,000	17,955	15,922
6月	423,700	49,600	2,200	22,300	20,957
7月	453,600	55,500	2,500	23,873	16,747
8月	324,400	39,200	2,100	18,022	17,121
9月	476,600	44,300	1,300	25,084	23,483
10月	406,100	42,500	3,900	21,373	22,300
11月	413,100	43,200	4,200	21,742	24,068
12月	387,200	41,800	1,100	20,378	21,652
1月	477,500	49,000	2,600	23,875	21,794
2月	492,600	55,000	4,600	25,926	22,944
3月	467,891	47,863	1,943	23,394	29,386
年度	5,038,291	45,439	2,445	22,048	21,087

- ② 地域の施設を身近に感じていただけるように新しいパンフレットを活用し、地域住民への理解に努めます。

【実績と成果】

- 見やすく親しみやすい形のパンフレットができあがり、見学者にお渡ししました。特別支援学校やトライやる・ウィーク・介護等体験実習、所内・所外行事(遠足等)においてのボランティアの方々の受け入れは、コロナ禍により中止となりましたが、市民後見人の見学は感染対策をとり、少人数に分けて受け入れることができました。

- ③ 新規利用者確保に努めます。

【実績と成果】

- 相談支援事業所と連絡を密に取り合い、感染防止に努めながら積極的に見学者を受け入れました。利用日数が少ない利用者に対して相談や支援を行い、利用時間及び利用日数を増やせるように働きかけました。また感染予防のため利用を自粛した方に毎日電話にて、健康状態・1日の流れ・目標及び訓練について聞き取りを行い、在宅支援に取り組みました。相談支援事業所との連携により新規利用者1人を契約につなげました。

(1)在籍状況

①月別在籍状況 (定員：生活介護 40人、就労継続支援B型 20人)

(単位：人)

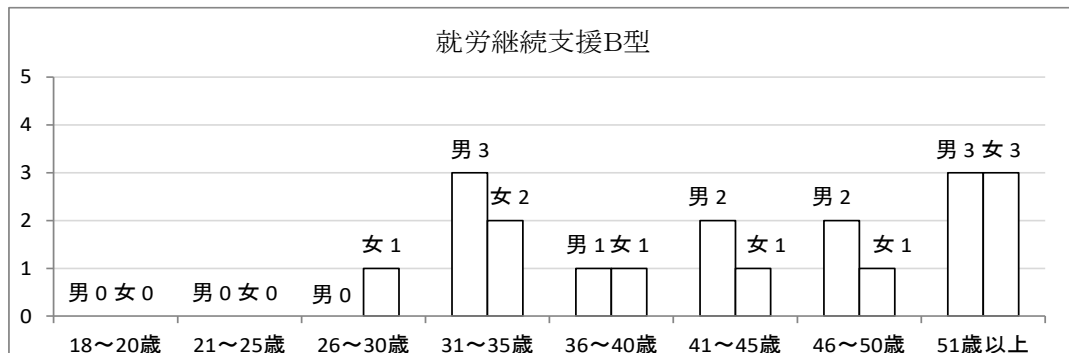
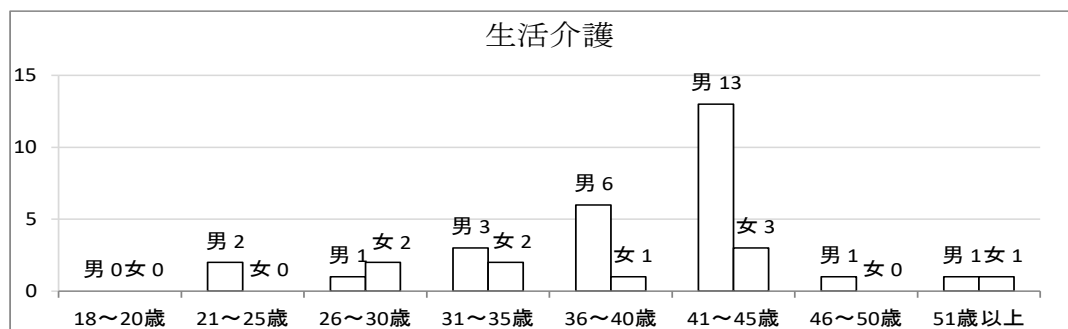
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生活介護	男	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27
	女	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
	小計	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36
就労継続支援B型	男	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
	女	8	8	8	8	8	8	8	8	8	9	9	9
	小計	19	19	19	19	19	19	19	19	19	20	20	20
合計		55	55	55	55	55	55	55	55	55	56	56	56

②年齢別在籍状況(3月31日現在)

(単位：人)

		18～20歳	21～25歳	26～30歳	31～35歳	36～40歳	41～45歳	46～50歳	51歳以上	計
生活介護	男	0	2	1	3	6	13	1	1	27
	女	0	0	2	2	1	3	0	1	9
	小計	0	2	3	5	7	16	1	2	36
就労継続支援B型	男	0	0	0	3	1	2	2	3	11
	女	0	0	1	2	1	1	1	3	9
	小計	0	0	1	5	2	3	3	6	20
合計		0	2	4	10	9	19	4	8	56

(単位：人)



内容

③生活介護利用者の障がい程度別在籍状況(3月31日現在)

(単位：人)

障がい程度区分	1	2	3	4	5	6	計
男	0	0	6	14	4	3	27
女	0	0	1	4	3	1	9
合計	0	0	7	18	7	4	36

(2)出席状況

年間延出席人数は、前年 10,742人に対し、11,612人でした。

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度
生活介護	在籍者数	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36		
	所定作業日数	21	18	22	20	19	20	21	20	20	19	18	240	238
	延出席者数	640	575	725	647	611	645	683	651	641	613	475	7,605	6,877
	出席率%	84.6	88.7	91.5	89.8	89.3	89.5	90.3	90.4	89.0	89.6	73.3	88.2	87.9
就労継続	在籍者数	19	19	19	19	19	19	19	19	19	20	20		
	所定作業日数	21	18	22	20	19	20	21	20	20	19	18	240	238
	延出席者数	350	287	357	327	296	325	359	340	329	330	311	4,007	3,865
	出席率%	87.7	83.9	85.4	86.0	81.9	85.5	89.9	89.4	86.5	86.8	86.3	90.0	86.6

(在籍者数に対する出席率を記載)

(3)関係先企業

作業実習に必要な仕事については、下記の各企業より受注を受けました。利用者に働くことの喜びを味わっていただくため、仕事の確保に努めました。

小杉善(株)	(箕面市)	タオル等のギフトセットや包装
金本徳(株)	(箕面市)	〃
ナイガイ(株)	(箕面市)	タオル一本袋入れ、箱の組立
那須梱包(株)	(西宮市)	自動車部品袋入れ
(株)エサカサービス	(箕面市)	ファンシーグッズの袋入れ、値付け
伊丹加工所	(伊丹市)	住宅関連部品の組立
エムアイケミカル(株)	(伊丹市)	薬杯検品
(株)田中製作所	(川西市)	照明器具部品
(同)ウェストリパークローバー	(川西市)	花束用の延命剤貼り

E2	障がい者施設	決算科目	川西作業所
----	--------	------	-------

主な事業内容・成果
障害者総合支援法に基づき、障害福祉サービス事業(就労継続支援B型)を実施しました。利用者の意向に沿った支援をするため、個別面談やアンケート調査を実施し、より良い個別支援計画の作成に努めました。利用者・保護者の高齢化や障がいの重度化による契約者数の減少に加え、新型コロナウイルス感染流行の影響で利用者数が減少しましたが、在宅支援を実施し利用者数の確保に努めました。トライやるウィークは1校、行事は忘年会(マジックショー)を実施できました。工賃収入は新型コロナの影響もありましたが、順調に増収することができました。

今後の課題
① 利用者の高齢化や重度化に対応するため、現行作業の見直しと新規作業の導入に努めます。 ② 関係機関と連携し障害種別にとらわれず、当所とのマッチングを優先し新規利用者の確保に努めます。 ③ 地域交流を深めるため、介護等体験実習やトライやるウィーク、地域住民の見学を積極的に受け入れます。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	54,892,745	57,005,279	2,112,534
受託金収入	13,879,133	14,339,422	460,289
就労支援事業収入	7,956,000	10,569,765	2,613,765
障害福祉サービス等事業収入	32,464,603	30,286,297	△ 2,178,306
その他	593,009	1,809,795	1,216,786
(支 出)	54,892,745	57,005,279	2,112,534
人件費	38,100,997	37,937,342	△ 163,655
事業費	6,451,833	6,120,493	△ 331,340
事務費	2,337,867	2,275,317	△ 62,550
就業支援事業支出	7,956,000	10,569,765	2,613,765
その他	46,048	102,362	56,314

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	727,933	727,933	0
当期末支払資金残高	727,933	727,933	0

主な増減理由
① 障害福祉サービス等事業収入は、利用者契約数減による減 ② 収入のその他は、法人本部よりキャリアアップによる給与差額分受入れに伴う増

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	事業項目	①
就労継続支援B型事業(定員35人) ① 個々の特性に合わせた作業を提供するために作業種類と作業量の確保に努めます。 【実績と成果】 面談やアンケートで伺った意向を基に個別支援計画書を作成し、個々の目標に沿った支援を行いました。利用者の高齢化(利用者の約半数は50歳以上)と重度化に対応するため、多くの利用者が取り組める作業を新たに導入しました。新型コロナウイルス感染流行の影響もあり減収する企業もありましたが、新規作業の増収や川西市からの 封入・封緘の受注も継続しており、今年度の1人当りの工賃支払い額は平均月額34,850円で、前年度に比べて12,426円増加しました。収益性、作業性の悪い作業を見直し新規作業を導入しました。			
(単位:円)			
	支 払 総 額	最 高 額	最 低 額
4月	706,600	74,100	2,100
5月	482,500	55,100	6,400
6月	756,300	79,400	7,800
7月	919,300	94,100	9,800
8月	859,200	87,900	7,600
9月	830,800	84,200	7,000
10月	793,800	83,000	1,900
11月	851,000	88,600	6,600
12月	824,900	88,600	4,500
1月	796,900	88,700	3,800
2月	885,600	124,500	3,200
3月	849,029	104,291	3,892
年度	9,555,929	87,708	5,383
			1人当たり平均
			28,264
			21,932
			32,883
			38,304
			35,800
			34,617
			33,075
			37,000
			37,495
			36,223
			42,171
			40,430
			34,850
			前 年 度
			23,680
			11,813
			19,330
			27,778
			15,164
			17,517
			20,437
			27,027
			23,066
			24,184
			30,312
			28,785
			22,424

② 見学や実習を積極的に受け入れ、新規利用者の確保に努めます。

【実績と成果】

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大の影響で、見学や体験実習の実現には至りませんでした。高齢化のため身内の下へ転出されたり自宅療養なった方が2名、就労継続支援A型事業所に移られた方が1名いらっしゃいました。相談支援事業所との連携で、他の事業所(就労継続支援A型)での就労継続が困難な利用者を2名受け入れました。(1人は令和4年4月1日付契約)

③ 介護等体験実習生やトライやる・ウィークの他、市内の団体や地域住民の施設見学を受け入れ、地域との関わりを深めます。

【実績と成果】

- ・ 今年度も新型コロナウイルス感染流行拡大やそれによる緊急事態宣言等の発出の影響ため、トライやる・ウィークを中止する学校が相次ぎましたが、1校、直接現場に入らないインタビュー形式で受け入れることができました。感染防止のため所内・所外行事やボランティアの受け入れ・一般の施設見学は実施できませんでしたが、利用者からの要望が多かった忘年会は十分な感染防止対策を施したうえでマジックショーを実施し、要望に応えることができました。

(1) 在籍状況

① 月別在籍者状況 (定員：35人)

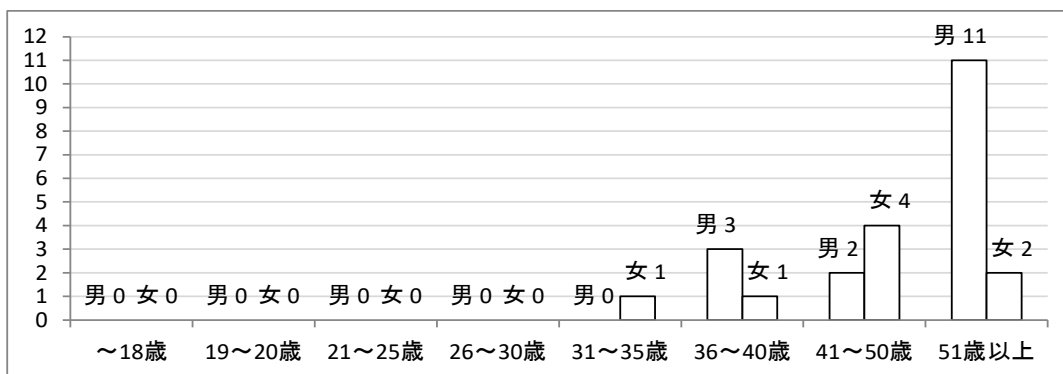
(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	16	15	15	16	16	16	16	16	16	16	16	16
女	10	10	10	10	10	10	9	9	9	9	8	8
計	26	25	25	26	26	26	25	25	25	25	24	24

② 年齢別在籍状況

(単位：人)

	～18歳	19～20歳	21～25歳	26～30歳	31～35歳	36～40歳	41～50歳	51歳以上	計
男	0	0	0	0	0	3	2	11	16
女	0	0	0	0	1	1	4	2	8
小計	0	0	0	0	1	4	6	13	24



③障がい別在籍状況

(単位：人)

手帳等級		1級	2級	3級	4級	5級	6級	小計	計
視覚障がい	男	0	1	0	0	1	0	2	2
	女	0	0	0	0	0	0	0	
聴覚障がい	男	0	2	1	1	0	0	4	4
	女	0	0	0	0	0	0	0	
肢体不自由	男	2	4	0	2	0	1	9	17
	女	1	4	1	1	0	1	8	
内部障がい	男	0	0	0	1	0	0	1	1
	女	0	0	0	0	0	0	0	
計	男	2	7	1	4	1	1	16	24
	女	1	4	1	1	0	1	8	

内容

(2)出席状況

利用者の出席率は、71.5%であり、年間延出席人数は、4,334人でした。

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年度
在籍者数	26	25	25	26	26	26	25	25	25	25	24	24	240	238
所定作業日数	21	18	22	20	19	20	21	20	20	19	18	22	240	238
延出席者数	398	318	418	383	364	387	394	361	350	330	260	371	4,334	4,921
出席率 %	72.8	70.6	76.0	73.6	73.6	74.4	75.0	72.2	70.0	69.4	60.1	70.2	71.5	74.1

内容

(3)関係先企業

収益性の高い作業を導入できるように心がけていますが、作業をする上で利用者の重度化傾向がうかがえ、難易度の低い作業の導入にも努める必要があります。

一昨年度、小戸作業所と連携し導入した作業の受注が大幅に増え、工賃の大幅な増につながりました。また、川西市からの受注も積極的に取り組みました。

作業の整理にも取り組み、今後利用者にとって負担の大きくなっていく作業や収益性の悪い作業を打ち切り、新たに1社と取引する方向で、小戸作業所とも協働し、作業を導入し始めました。

内容

積水マテリアルソリューションズ(株)	(大阪市)		医療用廃棄袋加工
伊丹加工所	(伊丹市)		住宅・建築用資材加工
エムアイケミカル(株)	(伊丹市)		投薬瓶箱詰
林(株)	(川西市)		タオル加工
梶村工業所	(伊丹市)		自動車・機械部品加工
川西市役所	(川西市)		封入・封緘作業
(株)アヌシ	(伊丹市)		生活雑貨加工
那須梱包(株)	(西宮市)		自動車部品袋入れ
(株)田中製作所	(川西市)		照明器具部品加工

(4)他施設等への協力

本年度においては、依頼に応じて、次の施設等へ紹介等を行いました。

内容

ドリーム甲子園	(川西市)
就労継続支援事業所 ワークスペースさつき	(池田市)

E3	障がい者施設	決算科目	ひまわり荘
----	--------	------	-------

主な事業内容・成果
障害者総合支援法に基づき、指定障害福祉サービス事業所として生活介護を実施し、利用者及び家族からの相談に応じ、適切な助言または支援を行いました。個別のプログラムに沿って心身機能の維持向上を図りました。また、看護師による日々の健康状態の確認や嘱託医による内科健診を実施し、利用者の体調管理や健康維持に努めました。理学療法士による専門的な機能訓練を月2回実施し、その指導のもと、関節の可動域保持運動やリハビリ訓練を行いました。川西養護学校の実習を受入れ、交流を深めました。コロナウィルス感染拡大防止のため地元ボランティアの受入れを自粛しました。地域交流、社会参加について、作品展示会などには参加しましたが、行事の多くは中止となりました。

今後の課題
① 利用者やご家族の高齢化が進み在宅生活の継続が難しくなり、施設入所を選択されるケースや介護保険への移行があり、利用者数が減少しています。関係機関と連携して新規利用者を確保することが必要です。 ② 社会資源の開拓や情報交換を関係機関と行うなど交流・連携を図っていく必要があります。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	66,991,380	66,963,631	△ 27,749
受託金収入	33,106,092	37,146,647	4,040,555
障害福祉サービス等事業収入	33,128,288	29,802,984	△ 3,325,304
その他	757,000	14,000	△ 743,000
(支 出)	66,991,380	66,963,631	△ 27,749
人件費	54,963,945	55,137,904	173,959
事業費	8,415,342	8,409,059	△ 6,283
事務費	3,507,483	3,384,652	△ 122,831
その他	104,610	32,016	△ 72,594

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	7,594,126	7,594,126	0
当期末支払資金残高	7,594,126	7,594,126	0

主な増減理由
① 障害福祉サービス等事業収入は、新型コロナウイルスの影響により利用率減少に伴う収入減 ② 人件費は専門職員の昇給分と派遣看護師依頼費増による支出増

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①
生活介護事業(定員20人) ① 利用者のニーズや特性を把握し個別支援計画書作成し、これに基づいた日常生活上の支援を実施します。 【実績と成果】 - コロナウィルス感染拡大防止のため、個別の家族面談や担当者会議の実施を見送るケースが多数生じました。定期的に利用者の希望や要望を伺い、個別支援計画書を作成し、それに沿った日常生活上の支援を実施しました。また、心身の機能向上のため、利用日毎、理学療法士の助言に基づいた機能訓練を実施しました。 ② 利用者、家族が安心して地域生活を送るための相談支援を実施します。また、相談内容に応じ、社協内部や外部の関係諸機関との連絡調整を行います。 【実績と成果】 - 障がい者基幹相談支援センターや相談支援事業所との連携を図り、地域資源等の情報提供や連絡調整を行い、利用者やご家族が安心して地域生活を送ることができるよう相談支援を実施しました。 ③ 特別支援学校等との実習や交流会、トライやる・ウィークの受け入れ、ボランティア受け入れ等を通じ、地域との連携・施設への理解を深めるとともに、相談支援事業所等との連携により、新規利用者の確保に努めます。 【実績と成果】 - 川西養護学校での交流や地域連携を図るためのボランティア受入れを計画していましたが、コロナウィルス感染予防のため、中止または自粛となりました。障がい者基幹相談支援センター・相談支援事業所との連携を図り利用者確保に努めましたが、コロナ禍でもあり新規利用者は1人に留まりました。介護サービスへの移行が2人あり、契約者数は前年度より1人減となりました。ひまわり荘での川西養護学校の実習を6月・10月に受入れ、体験とともに交流を深めました。			

緊急一時保護事業

- 事前登録者を対象として、在宅家庭で、冠婚葬祭その他の理由により介護が困難となった場合、一時的に保護します。なお、一時保護は、午前9時から午後8時までとなっています。

【実績と成果】

- 令和3年度の利用はありませんでした。

(2)

福祉避難所としての役割

取組項目④

- 災害発生時には、川西市の要請により福祉避難所を開設し要配慮者の良好な生活環境を確保できるように円滑な運営に取り組みます。また、地域住民に福祉避難所の周知に努めます。
- 災害発生時に、円滑に運営ができるよう川西市や関係機関と協議・連携し、福祉避難所運営訓練の実施・マニュアルの適宜見直しに取り組みます。

【実績と成果】

- 今年度川西市より福祉避難所としての開設要請はありませんでした。要請があったときは、市と協議し作成した福祉避難所開設・運営マニュアルに沿って、円滑な運営に取り組んでまいります。

(1)障害福祉サービス事業 生活介護事業

①契約人数(3月31日現在) (定員：20人)

内容

	男	女	計
人数	7人	7人	14人

②事業実施日数及びサービス利用状況

内容

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実施日数	22日	19日	23日	21日	21日	21日	22日	21日	21日	20日	19日	23日	253日
日常支援	148人	125人	155人	135人	138人	137人	150人	140人	134人	127人	121人	116人	1,626人
入浴介助	148人	124人	154人	134人	137人	137人	146人	138人	134人	127人	120人	116人	1,615人
送迎	285回	239回	301回	261回	266回	263回	288回	269回	260回	246回	234回	225回	3,137回

年度	日常支援	入浴介助
平成29年度	2,828人	2,317人
平成30年度	2,727人	2,177人
平成31年度	2,398人	2,172人
令和2年度	1,911人	1,853人
令和3年度	1,626人	1,615人

③主な社会参加・啓発事業

内容

実施月	行事名	参加人数	場所・内容 等
4月	野球大会	13人	園内テニスコート・サイコロ野球
6月	オリンピック	21人	ひまわりオリンピック
6・10月	川西養護学校実習	6人	延12日間・日中活動に参加・1日1人の実習
8月	夏まつり	17人	ひまわり荘内・的あて・ゲームいろいろ
10・11・12月	お話広場	13人	ひまわり荘内・お話し・手遊び・体操
11月	サックス演奏	8人	ひまわり荘内・パーテーション設置・演奏
12月	クリスマス会	7人	ひまわり荘内・クイズ・プレゼント抽選など
1月	凧揚げ	8人	園内テニスコート・手作り凧
2月	節分	8人	ひまわり荘内・豆まき

F1	障がい児施設	決算科目	川西さくら園
----	--------	------	--------

主な事業内容・成果
児童発達支援では、園児一人ひとりの発達段階を正しくとらえ、保護者のニーズを確認しながら、保育・リハビリ・看護職員によるチームアプローチを実施し、園児が心身ともに健やかに過ごせるよう支援しました。保護者に対しても、日常的な相談のほか、定期的な面談や研修会の実施などの支援を実施しました。 また、保育所等訪問支援事業や障害児等療育支援事業、相談支援事業を通して、地域の子どもたちの支援にもあたりました。さらに、職員を地域の会議や研修会に派遣することや公開講座の実施を通して、センターの機能を地域に還元するよう努めました。

今後の課題
① 療育内容や重症心身障がい児への支援のさらなる充実を今後も検討していく必要があります。 ② 保育所等訪問支援・障害児等療育支援事業の周知をさらに深め、地域の子どもたちへの支援や地域の職員への助言を充実していく必要があります。 ③ 相談支援事業では、増加する一方の相談者への対応をどのように工夫していくのか、引き続き市役所・他相談支援事業所と協議しながら進めていく必要があります。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	189,023,963	200,022,317	10,998,354
受託金収入	57,227,107	45,421,697	△ 11,805,410
障害福祉サービス等事業収入	131,102,329	150,093,297	18,990,968
その他	694,527	4,507,323	3,812,796
(支 出)	189,023,963	200,022,317	10,998,354
人件費	160,457,483	170,720,069	10,262,586
事業費	15,598,360	18,004,757	2,406,397
事務費	9,436,631	10,243,055	806,424
その他	3,531,489	1,054,436	△ 2,477,053

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	16,876,152	16,876,152	0
当期末支払資金残高	16,876,152	16,876,152	0

主な増減理由
① 受託金収入は、障害福祉サービス等事業収入増による減 ② 障害福祉サービス等事業収入は、出席率の増加や給付費の単価変更に伴う増 ③ その他収入は、さくらんぼの収入増に伴う繰入による増

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①
・ 児童発達支援では実習生・ボランティア・見学者を積極的に受け入れ、地域に開かれた施設をめざします。また、支援をとらえて見いだされた利用者の生活課題については、相談支援事業所をはじめ関係機関とも連携を図り解決します。 【実績と評価】 ・ 児童発達支援では、今年度も保護者のニーズを聞きながら、保育・リハビリ・看護職員によるチームアプローチを実施し、園児の支援にあたりました。また、新型コロナウイルスへの予防対策を徹底させて、安全・安心に通園できるよう努めました。安全に実施できるよう工夫・検討しましたが、実施できなかった行事もありました。新型コロナウイルス感染症を理由に欠席されている園児や体調不良で欠席している園児には、YouTubeの配信や電話相談等在宅支援を実施しました。保護者に対しては、日常的な相談に応じるとともに、個別面談・発達相談・心理相談・保護者研修会を実施し、保護者支援の充実に努めました。医療的ケア児を含む重症心身障がい児に対しては、個別療育とグループ療育を実施し、時間延長での預かり保育を数回試行しました。利用者の生活課題に必要な場合は、関係機関と調整を図り、連携して支援を行いました。新型コロナウイルス感染症予防のため、ボランティアの受け入れは取りやめ、トライやる・ウィークの実施もありませんでしたが、保育の養成課程の学生の実習は、感染予防に留意しながら受け入れをしました。延べ受け入れ人数は、21名となりました。			

(1)入退園・利用状況（定員：50人）

内容

川西さくら園の令和3年度入退園児数は、入園児童21人、退園児童25人であり、3月末日現在では、50人が在籍しています。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
初日在籍者数	54	56	57	61	63	64	66	66	67	68	69	71
月末在籍者数	54	56	56	61	62	64	65	66	67	68	69	50
入園児数	1	2	1	5	2	2	2	1	1	1	1	2
退園児数	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	0	21

(2)出席状況

内容

開園日数は231日、川西さくら園の出席率は定員50名に対し81.4%となりました。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開園日数	19	18	22	20	16	20	22	19	19	18	18	20
延通園人数	704	704	865	800	662	860	906	779	777	740	771	839

延べ通園児数

年度	延べ通園児数
平成29年度	8,688
平成30年度	8,534
平成31年度	7,581
令和2年度	9,418
令和3年度	9,407

(3)日常生活動作別状況(3月1日現在)								
内容	①移動							
	(単位：人)							
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳 計
	ねたきり	0	0	2	1	1	1	1 6
	ねがえり可	0	0	2	1	1	2	0 6
	はいはい	0	0	2	0	1	1	0 4
	つたい歩き	0	0	1	0	0	0	0 1
内容	独 歩	0	0	6	15	18	10	5 54
	計	0	0	13	17	21	14	6 71
内容	②食事							
	(単位：人)							
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳 計
	全 介 助	0	0	9	8	8	5	2 32
	一部介助	0	0	4	9	13	9	4 39
	自 立	0	0	0	0	0	0	0 0
	計	0	0	13	17	21	14	6 71
内容	③着脱衣							
	(単位：人)							
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳 計
	全 介 助	0	0	13	14	8	6	2 43
	一部介助	0	0	0	3	13	8	4 28
	自 立	0	0	0	0	0	0	0 0
	計	0	0	13	17	21	14	6 71
内容	④排泄							
	(単位：人)							
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳 計
	全介助予告無	0	0	13	15	13	8	2 51
	全介助予告有	0	0	0	0	0	0	0 0
	一部介助	0	0	0	1	8	6	4 19
	自 立	0	0	0	1	0	0	0 1
内容	計	0	0	13	17	21	14	6 71
内容	⑤会話							
	(単位：人)							
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳 計
	話せない	0	0	10	11	13	7	4 45
	数語程度	0	0	3	5	6	5	2 21
	わかりにくい	0	0	0	1	2	2	0 5
	会 話 可	0	0	0	0	0	0	0 0
内容	計	0	0	13	17	21	14	6 71
(4)病類別・診断別・性別・障がい度別状況(3月1日現在)								
内容	①年齢別・性別状況							
	(単位：人)							
		0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳 計
	男	0	0	8	12	13	11	5 49
	女	0	0	5	5	8	3	1 22
	計	0	0	13	17	21	14	6 71

②障がい・障がい度別状況

(単位:人)

	自閉症 スペクトラム	ダウン症	発達障がい	脳性まひ	運動発達遅滞	発達遅滞	エフ・スタイン奇形	ウエスト症候群	レット症候群	脳室周囲白質軟化症	知的障がい	群1P36欠失症候	症候群	ブリーダーウイリー	ターナー症候群	コルネリア・デ・ランデ症候群	筋ジストロフィー	てんかん	その他	計
軽度	20	1	13	0	1	5	0	0	0	0	2	1	1	0	0	0	1	0	0	45
中度	4	2	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1	12
重度	0	1	0	2	0	0	1	1	1	2	0	1	0	0	0	0	0	1	4	14
計	24	4	15	2	1	6	1	1	1	2	2	2	1	1	1	1	1	1	5	71

(5) 行事報告

実施日	行事名	場所(園外)・内容
5月 18~21日	さつまいもの苗うえ	園内畑
26・28日	保護者研修会	保育で大切にしていること
6月 13日	療育参観日(2クラス)	
16・22日	保護者研修会	更衣動作について
7月 7日	保護者研修会	こどもとことば
13日	保護者研修会	就学に向けて
15日	療育研修会	歯科講話
18日	療育参観日(2クラス)	
9月 8・14・15・29日	保護者研修会	次のステージに向けて
28日	保護者研修会	ペアレントトレーニング1
10月 4日	芝すべり	鳴尾ゴルフ倶楽部
6・19日	保護者研修会	食事動作について
12日	保護者研修会	ペアレントトレーニング2
29日	いもほり	こどもの偏食について
30日	療育参観日(2クラス)	
11月 10日	保護者研修会	ペアレントトレーニング3
12・25日	保護者研修会	摂食について
13日	療育参観日(2クラス)	
16・24日	保護者研修会	偏食について
12月 4・16・17日	おたのしみかい(各クラス)	クリスマス
15日	保護者研修会	修了する方へ
1月 12日	保護者研修会	こどもとことば2
3月 9・14・18・22日	おたのしみかい(各クラス)	クラスのおわかれかい
28日	おわかれかい(修了式)	

その他 お誕生日会、避難訓練

(6) 診察状況								
内容		小児科	整形外科	精神科	眼科	耳鼻科	歯科	
	診察回数(回)	2	0	6	1	1	2	
	診察延人数(人)	37	0	56	34	26	63	
(7) 外来専門医等による指導								
内容		児童精神科	小児神経科	理学療法	作業療法	言語聴覚	心理	計
	指導回数(回)	10	2	44	3	70	43	172
	延人数(人)	54	4	111	6	220	88	483
(8) 保育実施人数								
内容	(単位:人)							
		個別活動	グループ活動	散 歩	個人面談・家庭訪問	コーナー遊び	交流保育	
	延人数	998	20,151	1,052	209	0	9	
(9) 訓練実施人数								
内容	(単位:人)							
		理学療法	作業療法	言語聴覚	グループ	姿勢保持具・自助具製作及び修理		
	延人数	394	970	483	22	0		
(10) 看護業務実施人数								
内容	(単位:人)							
		視 診	投 薬	処 置	病院付添	身体計測	検 尿	カリオスタット
	延人数	6,998	6	274	2	406	47	25
(11) 給食								
内容	①給食数(カッコ内は、アレルギー食を再掲)							
	(単位:食)							
		普通食	刻み食	ミキサー食	合 計			
延食数	6,062(406)	895(199)	231(0)	7,188(605) 食				
内容	②1日当り給食数・1日当り単価							
	1日当たり給食数	34.5	食	1日当たりの給食単価	336円			
(12) 来訪者状況(延べ人数)								
内容	(単位:人)							
		視察見学者	ボランティア	実習生	トライやる	その他	合 計	
	延人数	9	0	21	0	0	30	
(13) 障害児等療育支援事業								
内容	①在宅支援訪問療育等指導事業(県受託契約件数240件)							
	在宅障がい児を対象に、保育士等が家庭等に出向いて療育及び相談や助言等による支援を行いました。							
		訓 練	保 育	合 計				
延人数	53	47	200 人					

②施設一般指導事業(県受託契約件数96件)

保育所・幼稚園・小学校の職員を対象に、児童とのかかわり方等についての相談や助言を行いました。

	訓 練	保 育	その他	合 計
延人数	57	67	0	124 人

令和3年度の主な施設支援先

施 設 別	名 称
市町	川西市 保健センター 支援児保育研究部会 猪名川町 保健センター
小学校 中学校	川西市立 多田東小学校 川西小学校 川西南中学校
(市立) 保育所 こども園	川西市立 川西北保育所 小戸保育所 多田保育所 川西中央保育所 牧の台みどりこども園 加茂こども園
(民間) 保育所 こども園	つくしんぼ保育園 けやき坂保育園 川西ひよしこども園 えんぜるういつしゅ保育園 星児園七夕
幼稚園	川西市立 久代幼稚園 多田幼稚園 私立 藤が丘幼稚園 YMCA白金幼稚園
特別支援学校	川西市立 川西養護学校 兵庫県立 こやの里特別支援学校

(14)相談支援

①相談・支援利用者の状況

(単位:人)

項 目	障がい児
①福祉サービスの利用援助	4,406
②社会資源を活用するための支援	307
③社会生活力を高めるための支援	1,315
④ピアカウンセリング	0
⑤権利擁護のために必要な援助	3
⑥専門機関の紹介と連絡調整	7,439
⑦障害程度認定区分による調査	1
⑧サービス等利用計画の作成・管理	1,284
合 計	14,755

②相談方法

(単位:人)

電話相談	10,149
FAX・メール相談	34
来所相談	1,068
訪問相談(施設訪問も含む)	1,743
その他	477
合 計	13,471

③実相談者数

(単位:人)

男 性	2,438
女 性	976
不 明	3
合 計	3,417

④障がい度別相談状況

(単位:人)

障がい度	男性	女性	合計
療育手帳 A	838	533	1,371
療育手帳 B1	608	183	791
療育手帳 B2	3,306	1,238	4,544
非所持者	4,813	1,928	6,741
不明者	0	0	0
合 計	9,565	3,882	13,447

(15) 保育所等訪問支援

保育士・専門職が、保育所・幼稚園・小学校などを訪問し、先生方と調整しながら、対象児童が環境に適応できるよう支援しました。

①面談・訪問件数

(単位:人)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
面談	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
訪問	3	1	1	5	3	0	4	4	3	2	0	3	29

②訪問場所

小学校 けやき坂小学校・川西小学校
保育園 多田保育所・小戸保育所・中央保育所・川西南保育所・畦野こどもの里保育園・つくしんぼ保育園
幼稚園

F2	障がい児施設	決算科目	さくらんぼ
----	--------	------	-------

主な事業内容・成果
利用児が日常生活における基本動作を習得し、集団生活に適応することができるよう、子どもたちの発達状況に即した支援を実施しました。一昨年ペアレントトレーニングは5歳児の保護者を対象に実施していましたが、今年度は4歳児の保護者も対象とし対象者を拡大しました。また、発達検査や発達相談、言語訓練を実施するなど保護者支援にも力を入れました。

今後の課題
① 一年を通して保育士・児童指導員が雇用でき、勤務形態も安定した運営ができるようになることが望まれます。
② 収益を向上させるため、安定した出席率を保つ必要があります。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	31,510,967	34,516,781	3,005,814
障害福祉サービス等事業収入	28,851,848	34,502,781	5,650,933
その他	2,659,119	14,000	△ 2,645,119
(支 出)	31,510,967	34,516,781	3,005,814
人件費	28,690,265	30,093,071	1,402,806
事業費	1,951,327	1,252,033	△ 699,294
事務費	869,375	1,203,305	333,930
その他	0	1,968,372	1,968,372

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	0	0	0
当期末支払資金残高	0	0	0

主な増減理由
① 障害福祉サービス等事業収入は、出席率の増加や給付費の単価変更に伴う増
② その他支出は、収入増に伴う川西さくら園への繰出しによる増

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①
児童発達支援(20名)・放課後等デイサービス(10名) 合計20名			
① 利用児一人ひとりの発達段階を的確に把握し、個別支援計画に基づき支援を行い、利用児のスキルの向上をめざすとともに、保護者に対しても、日々の相談や発達相談、心理相談・研修会等を実施し、保護者同伴通園の利点を活かした保護者支援を行います。また、サービス自己評価、さくらんぼ独自のアンケート調査を実施しサービスの質の向上を図るとともに、出席率を向上させ収益増を目指します。			
【実績と成果】			
・ 利用児の発達段階に合わせたカリキュラムを作成し、体系的に実施することにより療育の効果が得られるよう配慮しました。個別支援計画作成に伴い見直したアセスメント方法で、より具体的にお子さんの目標が設定できるように保護者面談を充実させました。また、心理士による発達検査や心理相談、言語聴覚士による言語評価や言語訓練等を実施しました。 放課後等デイサービスでは、買い物学習を通してルールやマナーを学ぶ体験や利用児全体で協力した作品作りに取り組みました。また、陶芸にも挑戦しました。 前年度86%であった出席率が90%に増加しました。			
(2)	地域の福祉拠点としての取組み	取組項目	②
① 見学者等を積極的に受け入れ地域に開かれた施設をめざすとともに、発達相談や地域の研修会等への職員の派遣を行い施設機能を地域に還元します。			
【実績と成果】			
・ 見学者等を受け入れる中で、特に療育が必要な低年齢のお子さんや家族支援が必要なお子さんを積極的に受け入れました。			
・ 特別支援教育相談連携会議や5歳児発達相談への職員の派遣を行い事業所の機能を地域に還元しました。			
・ 利用児が地域で生活する上で困りごとのないよう、それぞれのこども園・幼稚園・保育所等と連携し支援に努めました。			

(3)	福祉施設機能の積極的活用	取組項目	③
① ひょうご発達障害者支援センター(クローバー宝塚ブランチ)の指導のもと対象者を拡大しペアレントトレーニングを実施します。また、職員や外来講師を招いての保護者研修会も実施します。 【実績と成果】 ・ 一昨年まで5歳児の保護者を対象にペアレントトレーニングを実施していましたが、今年度は4歳児の保護者も対象とし対象者を拡大しました。 ・ 新型コロナウイルス感染・拡大を考慮し保護者研修会は中止いたしました。そのため、保護者面談を通して保護者支援に努めました。			

(1)入退園・利用状況（定員：児童発達支援 20名、放課後等デイサービス 10名 合計20名）

児童発達支援

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初日在籍者数	69	76	78	80	84	90	93	94	94	92	92	94	1,036
月末在籍者数	76	78	80	84	90	93	94	94	92	92	94	81	1,048
登録者数	8	4	2	4	7	3	1	2	0	0	2	0	33
解除者数	1	2	0	0	1	0	0	2	2	0	0	13	21

放課後等デイサービス

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
初日在籍者数	27	34	32	32	31	31	30	30	30	30	30	30	367
月末在籍者数	34	32	32	31	31	30	30	30	30	30	30	20	360
登録者数	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
解除者数	4	2	0	1	0	1	0	0	0	0	0	10	18

(2)出席状況

児童発達支援(開所日数229日、1日平均出席者は15.3人)

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	21	18	22	20	17	20	21	20	19	19	18	18	233
延利用人数	291	256	312	301	276	340	352	321	311	266	251	289	3,566
1日平均利用人数	13.8	14.2	14.1	15.0	16.2	17.0	16.7	16.0	16.3	14.0	13.9	16.0	15.3

放課後等デイサービス(開所日数229日、1日平均出席者は2.8人)

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
開所日数	21	18	22	20	17	20	21	20	19	19	18	18	233
延利用人数	65	58	61	60	60	53	61	55	60	39	42	41	655
1日平均利用人数	3.0	3.2	2.7	3.0	3.5	2.6	2.9	2.7	3.1	2.0	2.3	2.2	2.8

児童発達支援

放課後等デイ

年度	児童発達支援	放課後等デイ
平成29年度	4,170	1,028
平成30年度	3,846	1,033
平成31年度	3,245	1,000
令和2年度	3,415	549
令和3年度	3,566	655

(3) 延利用者年齢別・性別状況

(単位:人)

未就学(児童発達支援)		学齢児童以上(放課後等デイサービス)				計
0～3歳	4～5歳	6～11歳	12～15歳	16～17歳		
男	1,306	1,197	405	1	0	2,909
女	673	390	219	27	3	1,312
計	1,979	1,587	624	28	3	4,221

年齢別利用者数

12～15歳
1%

16～17歳
0%

0～3歳
47%

4～5歳
37%

6～11歳
15%

(4) 事業所内相談

(単位:人)

児童発達支援

個別	グループ	計
件数	164	32
		196

放課後等デイサービス

個別	グループ	計
件数	44	0
		44

(5) 相談別状況

(単位:人)

児童発達支援

さくらんぼの利用について	子どもの対応について (こども園・幼稚園)	子どもの対応について (保育所・保育園)	その他	計
件数	33	4	2	425
				464

放課後等デイサービス

さくらんぼの利用について	子どもの対応について (学校)	子どもの対応について (学校以外)	その他	計
件数	0	0	0	81
				81

(6) 家庭・関係機関連携

(単位:人)

児童発達支援

家庭連携	関係機関 (こども園・保育園)	関係機関 (保育所・保育園)	その他	計
件数	0	2	4	1
				7

放課後等デイサービス

家庭連携	関係機関 (学校)	関係機関 (学校以外)	その他	計
件数	0	0	0	0
				0

(7)行事報告

内容

実 施 日	行 事 名	場所(園外)・内容
4月1日・2日 5日～7日	保護者説明会(児童発達支援)	講座室
4月1日・2日 6日～8日 12日	保護者説明会(放課後等デイサービス)	川西さくら園相談室
8月4日～6日	陶芸(放課後等デイサービス)	講座室
8月23日～27日	買い物学習(放課後等デイサービス)	ローソン
10月1日	ペアレントトレーニング(児童発達支援)	講座室
10月14日	歯科健診(児童発達支援)	保育室
10月15日	ペアレントトレーニング(児童発達支援)	講座室
10月18日・19日・22日	保護者説明会(児童発達支援・年中対象)	講座室
10月18日・19日・22日	保護者説明会(児童発達支援・年長対象)	保育室
10月20日・21日	サポートファイル記入会(児童発達支援)	講座室
10月25日～27日	サポートファイル記入会(児童発達支援)	講座室
10月29日	ペアレントトレーニング(児童発達支援)	講座室
11月12日	ペアレントトレーニング(児童発達支援)	講座室
11月26日	ペアレントトレーニング(児童発達支援)	講座室
12月6日～8日	事業所評価記入(児童発達支援)	保育室
12月10日	ペアレントトレーニング(児童発達支援)	講座室
12月13日～17日	お楽しみ会(児童発達支援)	保育室
12月13日～17日	事業所評価記入(児童発達支援)	講座室
12月20日～24日	事業所評価記入(放課後等デイサービス)	ロビー
1月24日～28日	アンケート記入・進路調査(児童発達支援)	講座室
1月24日～28日	アンケート記入(放課後等デイサービス)	ロビー

G	満寿荘	決算科目	満寿荘
---	-----	------	-----

主な事業内容・成果
身寄りがなく、経済的困窮にある高齢者や身体・知的・精神障がいをもつ高齢者などがいきいきと自立した日常生活が送れるように支援しました。入所者の約4割が要介護・要支援の認定を受けておられ、特定施設として入所者の心身の状況や意向に沿ったサービス計画を作成し、訪問介護・通所介護等の外部サービスを適切に提供しました。また、感染症対策委員会を定期的に開催し、マニュアルの改定や環境整備、ワクチン接種を実施するなど引き続き新型コロナウイルス感染防止対策を徹底しました。

今後の課題
① 高齢化に伴い、介護の重度化や認知症・精神疾患の利用者への対応が増加しています。地域共生社会実現のため地域での相談を受け止め連携支援していく必要があります。 ② 災害時における福祉避難所の円滑な運営のため関係機関との連携及び訓練が必要です。 ③ 感染症拡大防止に向けた取り組みをさらに進めていきます。感染症や災害に対応したBCPを作成する必要があります。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	165,005,105	165,724,957	719,852
受託金収入	62,059,260	70,347,931	8,288,671
介護保険事業収入	23,542,423	22,977,666	△ 564,757
老人福祉事業収入	77,552,822	72,333,340	△ 5,219,482
その他	1,850,600	66,020	△ 1,784,580
(支 出)	165,005,105	165,724,957	719,852
人件費	91,804,561	94,330,842	2,526,281
事業費	28,255,818	28,583,092	327,274
事務費	44,457,106	42,621,971	△ 1,835,135
その他	487,620	189,052	△ 298,568

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	18,889,428	18,889,428	0
当期末支払資金残高	18,889,428	18,889,428	0

主な増減理由
① 収入は、介護保険利用者数及び措置人数の減による減 ② 人件費は、介護職員兼支援員1名の増による増 ③ 事務費は、介護保険利用者数の減による訪問介護委託料の減

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①
養護老人ホーム(50人定員)/特定施設入居者生活介護事業/訪問介護事業 ① 入居者の意思を尊重し、一人ひとりの個別支援計画に基づき、いきいきと豊かな生活が送れるよう支援します。また、必要に応じて介護保険サービスを利用しながら、安心して生活が送れるよう援助します。さらに成年後見制度を活用し、権利擁護にも努めます。 【実績と成果】 - 個別サービス計画をもとに、入居者の心身の状況、生活習慣や望む生活等を理解し、一人ひとりの自律、自立に配慮した個別支援を行いました。要介護・要支援の認定を受けた入居者に対して、個別サービス計画をもとに、訪問介護・通所介護などの外部サービスを適切に提供しました。必要に応じ成年後見制度等を活用し、入居者の権利擁護に努めました。 ② 施設や入居者への理解を促進しながら、新生活様式に沿って地域との交流を深めます。入居者のニーズに応じて、地域における社会資源を利用し、主体的な生活ができるよう支援します。 【実績と成果】 - 新型コロナウイルス感染防止の観点から、地元幼稚園との交流、自治会との共催による夏祭り、クラブ活動におけるボランティアグループの定期的な交流などが中止または自粛となりました。年1回のアンケートや月1回の行事説明会においては入居者からの意見・要望を聴き取り、感染防止対策を実施しながら、入居者主体の支援を行いました。			

③ 市等と連携し、被虐待高齢者のセーフティーネットとして、緊急ショートステイの受入れを行います。		
【実績と成果】		
・ 緊急ショートステイとして3名を受け入れ、うち2名が被虐待高齢者でした。セーフティーネットとして市や関係機関と連携し支援を行いました。		
(2)	福祉施設機能の積極的活用	取組項目 ③
① 施設が持つ資源の積極的活用に努め、新生活様式に沿った地域住民や関係団体との交流・連携を図っていきます。		
【実績と成果】		
・ 新型コロナウイルス感染防止の観点から、地域ボランティアの受け入れ、地域の教育機関と福祉体験学習や交流ができませんでした。しかしながら、テニスコートを地域活動に還元するなど、感染防止対策上可能な範囲での事業所資源の活用に努めました。		
(3)	福祉避難所としての役割	取組項目 ④
① 災害時発生時には、川西市の要請により福祉避難所を開設し、要配慮者が良好な生活環境を確保できるように円滑な運営に取り組みます。また、地域住民に福祉避難所の周知に努めます。		
【実績と成果】		
・ 令和3年度に福祉避難所としての開設要請はありませんでした。要請があったときは、市と協議し作成した福祉避難所開設マニュアルに沿って、円滑な運営に取り組みます。		
② 災害時に、福祉避難所が円滑に運営ができるよう川西市や関係機関と協議・連携し、福祉避難所運営訓練の実施・マニュアルの適宜見直しに取り組みます。		
【実績と成果】		
・ 新型コロナウイルス感染防止の観点から、関係機関との福祉避難所の運営訓練が開催されませんでした。		

(1)入退所状況 (定員：50人)

川西市及び他市町に入所依頼した結果、3人の入所がありましたが、長期入院や施設入所による退所者数が4人となり、3月末現在で男性12人、女性20人、計32人となりました。

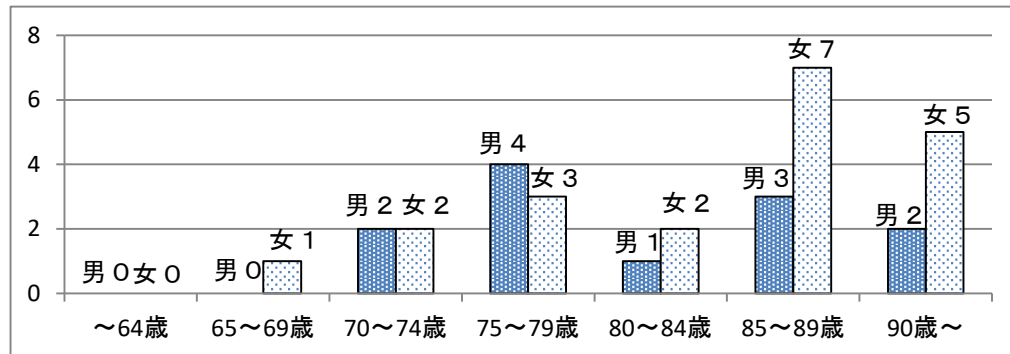
(単位：人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
入所者数	男	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
退所者数	男	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2
	女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
月末者数	男	12	12	12	14	13	13	12	12	12	12	12	12	—
	女	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	22	20	—
	計	33	33	33	35	34	34	33	33	33	33	34	32	—

(2) 年齢別入所者状況(3月31日現在)

(単位：人)

	65歳未満	65～69歳	70～74歳	75～79歳	80～84歳	85～89歳	90歳～	計
男	0	0	2	4	1	3	2	12
女	0	1	2	3	2	7	5	20
計	0	1	4	7	3	10	7	32

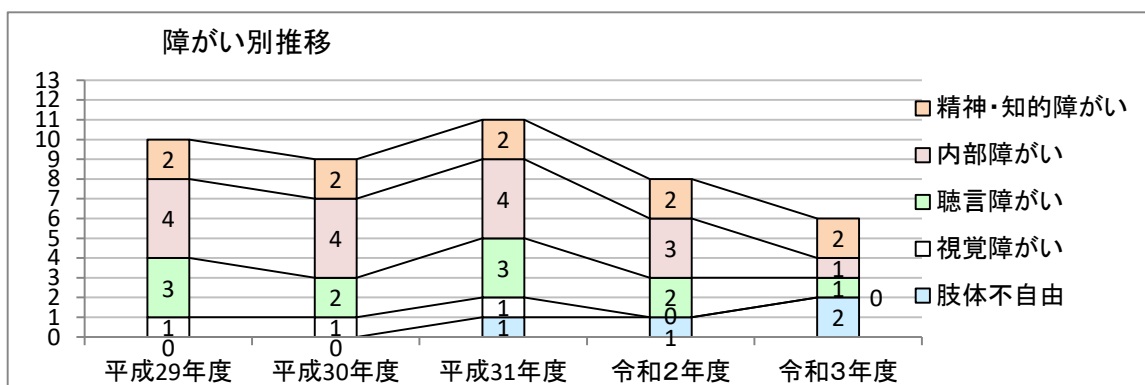


(3) 障がい別入所者状況(3月31日現在)

(単位：人)

	肢体不自由	視覚障がい	聴言障がい	内部障がい	精神・知的障がい	計
男	0	0	1	0	1	2
女	2	0	0	1	1	4
計	2	0	1	1	2	6

(単位：人)



(4) 理由別退所者状況

(単位：人)

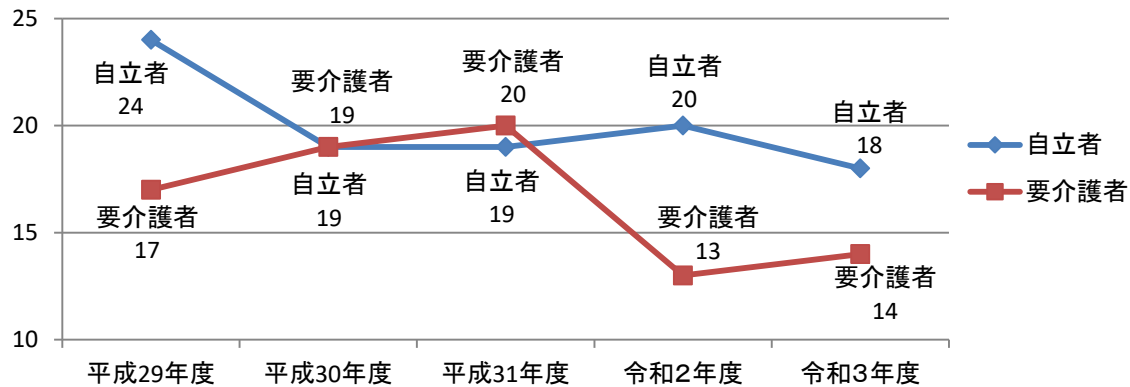
	親族引取	入院治療	特 養	老健施設	死 亡	在 宅	その他	計
男	0	0	0	0	1	0	1	2
女	0	1	0	0	1	0	0	2
計	0	1	0	0	2	0	1	4

(5)介護度別入所者状況(3月31日現在)

(単位：人)

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男	0	0	2	0	1	0	0	3
女	2	1	4	2	2	0	0	11
計	2	1	6	2	3	0	0	14

要介護者の推移



(6)給食状況

給食数は年間36,888食となり、月別では入院等によって変動しました。栄養量は基準とおりです。また、糖尿病食、減塩食、腎臓食など身体状況に応じた食事を提供しており、四季折々の行事食、ご当地メニュー、選択食など趣向を凝らした食事の入所者に喜んでいただきました。

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
給食数	3,084	3,294	3,217	3,222	3,179	3,181	3,176	3,003	2,972	2,715	2,742	3,103	3,074
一日当たり平均栄養量													
カロリー	1,715	1,710	1,734	1,730	1,748	1,757	1,740	1,735	1,759	1,770	1,752	1,787	1,745
蛋白質 g	57.2	56.8	58.5	59.2	60.2	59.9	57.9	59.6	59.6	59.6	60.2	63.3	59.3
脂肪 g	40.5	41.5	43.0	42.4	44.2	43.1	45.4	43.0	46.0	45.3	43.6	43.4	43.5
1人1日当たり材料費(円)	829	810	841	842	804	842	816	810	905	757	809	821	824

(7)保健・診療状況

外来診療は延べ484人が受診しました。主に内科、整形外科です。

4月は嘱託医による血圧測定、聴打診を、10月は嘱託医のクリニックへ付添いのもと健康診断を実施しました。また、服薬管理が必要な利用者が増えたことにより、延べ84,734人の薬の確認及び仕分けを行いました。
(単位:人)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
科 目 別 人 数	内 科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	外 科	0	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
	整形外科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	脳外科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	泌尿器科	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	2
	皮 膚 科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	眼 科	0	2	0	1	0	0	0	2	0	0	0	2	7
	腎臓内科	0	1	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	4
	その他	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	4
	嘱託内科	28	28	28	32	27	27	28	28	30	28	28	27	339
	嘱託心療内科	8	8	8	16	8	16	8	8	8	16	8	8	120
	合 計	36	44	37	50	35	44	37	38	41	48	37	37	484
病院入院者		1	0	1	2	3	1	2	2	3	5	3	3	26
医 務 室 業 務	投薬準備	6,738	4,939	9,017	9,270	6,587	7,592	2,646	6,880	8,223	6,607	8,328	7,907	84,734
	バイタル測定	175	155	153	146	149	158	140	127	112	123	123	151	1,712
	身体測定	0	0	33	31	33	33	33	32	31	30	31	0	287
	酸素濃度測定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	処置	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3
	検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	遠赤外線照射	16	8	16	14	7	1	0	21	7	15	11	17	133
	予防接種	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	健康診断	0	33	0	0	0	0	33	0	0	0	0	0	66
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	0	4
	合 計	6,929	5,135	9,219	9,461	6,776	7,784	2,852	7,060	8,375	6,775	8,495	8,079	86,940

(8)年金状況(3月31日現在)

(単位:人)	
年金受給者	24
無年金者	6

(9)葬祭等状況

内 容	(単位：人)												
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	葬 儀	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(10)来訪者状況

内 容	(単位：人)													
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
	入所者親族	0	1	1	0	8	3	3	2	3	8	0	0	29
	入所者知人	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ボランティア	3	4	0	4	3	4	3	4	4	3	2	3	37
	行事参加者	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	8	12	16	10	6	4	9	19	22	4	7	7	124
	合 計	11	17	17	14	17	11	15	25	29	15	9	10	190

※その他・・・福祉事務所、後見人

(11) ボランティアの状況

内 容	ボランティア名	活 動 内 容
	七 種 清	月1回来所し、理髪を実施
	吟 睦 会	月1回来所し、詩吟・カラオケを指導(感染防止のため休止)
	川西市いけばな協会	年2回行事前に来所し、花を生ける(感染防止のため休止)
	野田 虚真	月1回来所し、生花を指導(感染防止のため休止)
	川西市茶道協会	年1回来所し、お手前・作法の実施(感染防止のため休止)
	矢野 啓子	月1回来所し、習字を指導(感染防止のため休止)
	レインボー	年1回来所し、施設内の清掃を実施(感染防止のため休止)
	新井 晋	月1回来所し、俳句を指導(通信添削)
	少林寺川西中部支部	年1回来所し、入所者と歌やゲームなどの交流をしたり、施設内の清掃を実施(感染防止のため休止)
	伊藤 茂代	月1回来所し、茶道を指導(感染防止のため休止)
	若曾根 初恵	月3回来所し、施設内の清掃を実施(感染防止のため休止)
	日赤奉仕団	年1回来所し、健康体操を実施(感染防止のため休止)
	尾市 雅子	月1回来所し、コーラスを指導(感染防止のため休止)
	写真同好会	園内の写真展示(感染防止のため休止)
	小林 洋子	月1回来所し、レクリエーションを実施(感染防止のため休止)
	中野 新子	週2回来所し、シーツ交換や洗濯などの生活支援を実施(感染防止のため休止)

(12) 月別行事

内 容	4月	花見ドライブ、自治会総会
	5月	少林寺拳法交流会(感染防止のため休止)
	6月	満寿荘まつり(感染防止のため休止)、川西市茶道協会(感染防止のため休止)、川西市いけばな協会(感染防止のため休止)、買物ツアー(感染防止のため休止)
	7月	七夕祭(地域の幼稚園児との交流は中止)、グルメツアー(感染防止のため休止)
	8月	盆踊り(地域の自治会と共催)(感染防止のため休止)
	9月	偲び献花、日赤奉仕団(感染防止のため休止)、敬老行事(感染防止のため休止)
	10月	地域の幼稚園児との交流(感染防止のため休止)、バーベキュー大会(感染防止のため休止)
	11月	買い物ツアー(感染防止のため休止)
	12月	クリスマス喫茶
	1月	新年ドライブ(多田神社)(感染防止のため休止)、新年会(感染防止のため休止)
	2月	節分祭
	3月	ひな祭り茶会(感染防止のため休止)
	・その他の行事 誕生会・消防避難訓練・注文買物・トライやるウィーク(感染防止のため休止)・選択食 ・行事説明会・ラジオ体操・介護予防運動・栄養健康教室・おやつイベント ・クラブ活動 生花(感染防止のため休止)・茶道(感染防止のため休止)・習字(感染防止のため休止)・コーラス(感染防止のため休止)・農園・俳句(通信添削)・吟睦会(感染防止のため休止)・レクリエーション(感染防止のため休止)・グラウンドゴルフ・カラオケ	

H1	老人福祉センター	決算科目	一の鳥居老人福祉センター
----	----------	------	--------------

主な事業内容・成果
市内在住の60歳以上の高齢者を対象に健康の増進、教養の向上を図ることを目的に、老人福祉センターA型の事業を実施しました。個人利用者は、健康増進と憩いの場として、入浴や電位治療器、マッサージ器などをご利用いただき、趣味の会は教養活動の拠点としてご利用いただきました。新型コロナウイルスの感染拡大防止、設備の修理などにより入浴事業は、10月以降に65日実施しました。また、自主事業や趣味の会活動において中止または飛沫感染防止の観点から活動が制限がされました。延べご利用者数は約6,730人となりました。

今後の課題
① 新型コロナウイルス感染拡大防止により、自主事業等の中止や活動の制限が続きましたが、高齢者の健康や生きがいにつながる事業を継続していくことが必要です。 ② 利用者の高齢化が進んでおり、個人も趣味の会も利用人数は減少傾向にあります。 ③ 建物や空調設備などが著しく老朽化しており、川西市との協議と計画的な改修が必要です。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	18,564,614	14,928,925	△ 3,635,689
受託金収入	18,563,484	14,928,085	△ 3,635,399
その他	1,130	840	△ 290
(支 出)	18,564,614	14,928,925	△ 3,635,689
人件費	9,608,216	6,908,147	△ 2,700,069
事業費	2,617,127	3,018,774	401,647
事務費	6,339,271	4,971,044	△ 1,368,227
その他	0	30,960	30,960

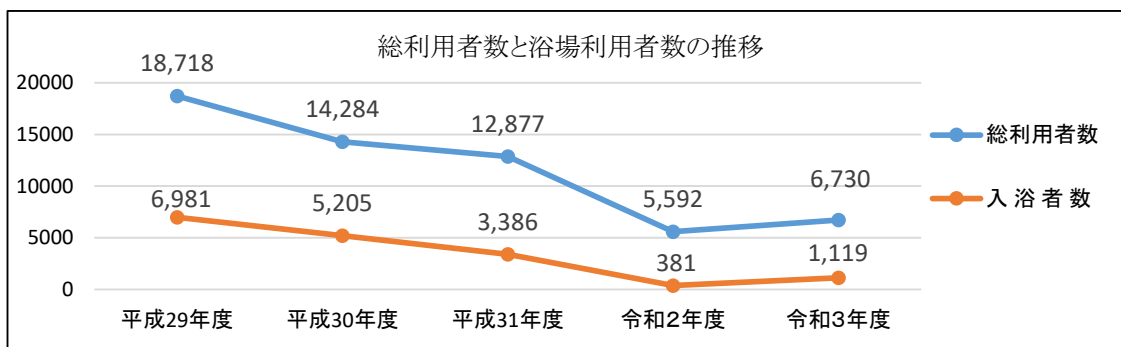
当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	3,348,267	3,348,267	0
当期末支払資金残高	3,348,267	3,348,267	0

主な増減理由
① 受託金収入は、人件費および事務費の削減による減 ② 人件費は、所属長の兼務による減 事業費は、水道光熱費の増加による増 事務費は、修繕費支出の減少による減 ③ その他支出は、ファイナンスリース計上による増

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3－4										
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①										
① 地域の高齢者の健康の増進や生きがいづくり、教養の向上の場を提供し、福祉の増進を図ります。利用者アンケートや日頃の相談などから、利用者や地域のニーズの把握に努め、出かけるきっかけづくりとなる講座等を開催することにより、閉じこもりや社会的孤立を防ぐとともに健康で明るい生活が送れるよう支援します。													
【実績と成果】													
・ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、休館や入浴事業の中止があり、高齢者の健康づくりや生きがい、孤独の解消、教養の向上を目的とした事業に取り組めない時期がありました。また、趣味の会は、飛沫感染防止などから貸館を制限した期間がありました。講座で行ったフレイル予防体操やいすに座ってできる歌謡体操は健康寿命を延ばしていく効果から次年度へつなげていくこととなりました。													
(1)利用者状況													
(単位：人)													
個人利用者数		南部地区			中部地区			北部地区			全地区		
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
	60歳代	0	1	1	33	12	45	117	375	492	150	388	538
	70歳代	279	27	306	52	26	78	550	592	1,142	881	645	1,526
	80歳代	87	16	103	23	27	50	132	276	408	242	319	561
	90歳代	3	0	3	0	0	0	0	0	0	3	0	3
	計	369	44	413	108	65	173	799	1,243	2,042	1,276	1,352	2,628
	各種教室			74			趣味の会			4,006			
	各種行事			0			定期講座			0			
	貸し館			22									
総利用人数							6,730						

個人利用者数(2,628 人)の内、浴場利用者数													
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施日数(日)	0	0	0	0	0	0	5	18	19	15	0	8	65
利用者数(人)	0	0	0	0	0	0	39	267	309	390	0	114	1,119



(2) 趣味の会利用状況

	会員数(人)	活動回数(回)	参加人数(人)
囲碁1	30	45	520
囲碁2	22	45	499
囲碁3	31	37	322
囲碁研究会	15	34	284
将棋	28	40	313
絵手紙(ミモザ)	12	10	93
和太鼓(はごろも)	18	22	159
自彊術	41	23	449
謡曲	3	1	3
ゲートボール2	6	0	0
カラオケ(北摂会)	11	5	38
カラオケ(友愛会)	11	12	65
カラオケ(りんどう)	11	13	61
カラオケ(カトレア)	6	10	40
カラオケ(楽遊)	10	6	32
茶道	8	0	0
大正琴	7	6	35
表装	6	19	60
川西シルバー童唱会	16	9	97
男声合唱(コロ・コンパニー)	14	13	133
漢詩吟詠会	7	15	62
パソコン(ミッキーマウス)	8	20	75
合唱(爺々ダックス)	6	0	0
書道(のぎく)	7	14	69
楽しむフラダンス	11	22	176
健康体操(一の会)	37	9	156
グラウンドゴルフ(ことぶき会)	27	20	265
計	409	450	4,006

(3) 定期講座受講状況

今年度は定期講座の開催はありませんでした。

(4)その他行事等の開催状況

(単位：人)

開催月	開催内容	参加人数
6月	成年後見カフェ	4
7月	成年後見カフェ	2
7月	健康寿命を延ばすフレイル予防体操	14
8月	成年後見カフェ	2
10月	成年後見カフェ	2
11月	成年後見カフェ	3
11月	手作り講座「たまごの殻で干支づくり」	12
12月	成年後見カフェ	3
12月	手作り講座「たまごの殻で干支づくり」	8
1月	成年後見カフェ	3
1月	歌謡体操で介護予防	19
2月	成年後見カフェ	3
2月	歌謡体操で介護予防	21
計		96

- ② 日常生活での困りごとの相談ができる福祉拠点としての役割を果たせるよう、関係機関との調整を行いながら地域住民の拠り所として開かれた施設運営に努めます。

【実績と成果】

- ・開かれた施設運営に努めましたが、コロナ禍で制限されることも多く、福祉拠点として関係機関との調整機会はありませんでした。

- ③ 施設スペースを活用して、趣味の会活動の成果の発表や地域住民との交流の場を提供します。

【実績と成果】

- ・コロナウィルス感染拡大予防のため、「和・輪・笑まつり」は開催できませんでした。
コロナ禍で感染予防対策(マスク着用・定期的換気・手洗・手指消毒・器具等消毒)を実行しつつ、施設スペースをご利用いただき、趣味・生きがい・交流の場となりました。

H2	老人福祉センター	決算科目	緑台老人福祉センター
----	----------	------	------------

主な事業内容・成果
市内在住の60歳以上の高齢者を対象に健康の増進や教養の向上を目的に事業を行いました。利用者数は、前年度より600人ほど増加していますが、新型コロナによる制限などに伴い約1万人でした。平常の年の概ね4分の1となっています。事業実施日数は、前年度より30日多く234日、入浴事業実施日数は、昨年より8日少なく51日でした。成果としては、この状況の中、当センターの自主事業である健康講座の受講者が中心となり、新たな趣味の会「健康体操えがお」が誕生しました。

今後の課題
① 新型コロナウイルス感染拡大防止の対策を講じながら介護予防など、これまで行われていた事業を継続することが重要です。 ② 関係機関や団体等と連携・協働を図り支援するなど、安心して暮らせる地域をめざします。 ③ 施設設備などの老朽化に伴う修繕が頻繁に発生しているため、川西市と協議しながら計画的な改修等が必要です。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	19,471,103	21,467,583	1,996,480
受託金収入	19,466,183	21,460,213	1,994,030
その他	4,920	7,370	2,450
(支 出)	19,471,103	21,467,583	1,996,480
人件費	9,391,086	9,649,561	258,475
事業費	4,465,080	5,182,753	717,673
事務費	5,614,937	6,604,309	989,372
その他	0	30,960	30,960

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	4,092,023	4,092,023	0
当期末支払資金残高	4,092,023	4,092,023	0

主な増減理由
① 人件費は、臨時職員の出勤調整による増 ② 事業費は、新型コロナウイルスによる休館日が増えたことによる水道光熱費等の支出の増 ③ 事務費は、ボイラーなどの修繕費の支出の増 ④ その他支出は、ファイナンスリース計上による増

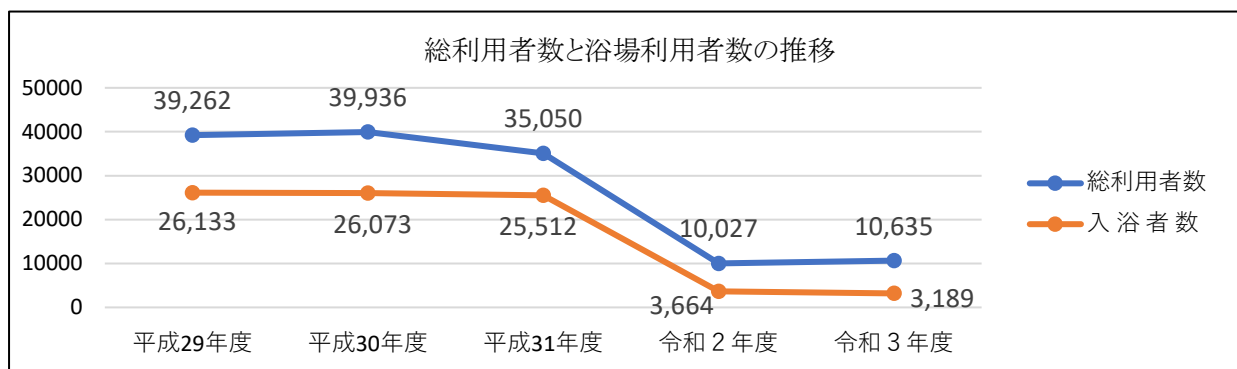
令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①
①	地域の高齢者の方々のニーズを把握し、心身機能の向上を図ることで、閉じこもりや社会的孤立を防ぎ、社会参加を図っていきます。生活相談、健康体操・健康講座の開催、趣味の会の活動支援、入浴サービスの実施、囲碁将棋、電位治療器、マッサージ器、機能回復コーナー等の提供を通じて高齢者の生きがい作りを支援します。 【実績と成果】 昨年と同様に新型コロナウイルス感染拡大防止対策により休館や入浴事業の中止、月1回の健康講座等が開催できない時期があり、利用者数はほぼ昨年と同じでした。そのような中、当センターの自主事業である健康講座の受講者が中心となり、新たな趣味の会が誕生したことは成果であり、今後の活動が期待されています。		
(1)利用者状況	(単位:人)		
個人利用者数	南部地区		
	男	女	計
	60歳代	0	1
	70歳代	94	134
	80歳代	187	4
	90歳代	1	0
	計	282	139
	中部地区		
	男	女	計
	60歳代	214	142
	70歳代	1,582	1,105
	80歳代	1,983	1,330
	90歳代	353	3
	計	4,132	2,580
	北部地区		
	男	女	計
	60歳代	10	83
	70歳代	308	219
	80歳代	104	76
	90歳代	3	0
	計	425	378
	全地区		
	男	女	計
	60歳代	224	226
	70歳代	1,984	1,458
	80歳代	2,274	1,410
	90歳代	357	3
	計	4,839	3,097
貸し室		12	趣味の会
各種行事		0	定期講座
各種教室		157	
総利用人数			10,635

個人利用者数(7,936 人)の内、浴場利用者数

(単位：人)

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0	0	0	0	0	0	177	1,310	1,289	0	0	413	3,189



(2) 趣味の会利用人数

	会員数(人)	活動回数(回)	参加人数(人)
俳句	14	22	207
生け花	10	5	21
GH盆踊り連	30	0	0
書道	10	20	133
卓球 福祉	22	23	240
卓球 りんどう	33	17	458
社交ダンス 福祉	18	23	299
フォークダンス	22	15	263
墨彩画	9	13	72
健康麻雀の会	73	1	45
ハッピー	23	17	190
社交ダンス アンジェリカ	14	21	246
懐メロと軽体操の会	11	10	118
ぴんとぽん	10	15	59
フレンズ	20	4	74
健康体操えがお	15	7	68
計	334	213	2,493

(3) 定期講座・教室等受講状況

(単位：人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
健康体操	14	0	0	12	0	0	14	16	17	15	15	17	120
護身技法健康体操	—	—	—	—	—	—	37	—	—	—	—	—	37
えがお健康体操	—	—	—	—	—	—	—	26	—	—	—	—	26
気功体操	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11	11
計	14	0	0	12	0	0	51	42	17	15	15	28	194

(4) その他行事等の開催状況

今年度は行事等の開催はありませんでした。

② 日常生活で困りごとの相談が気軽にできる入り口としての役割を、関係機関と連絡調整を行いながら地域住民を支える開かれた施設運営に取り組みます。

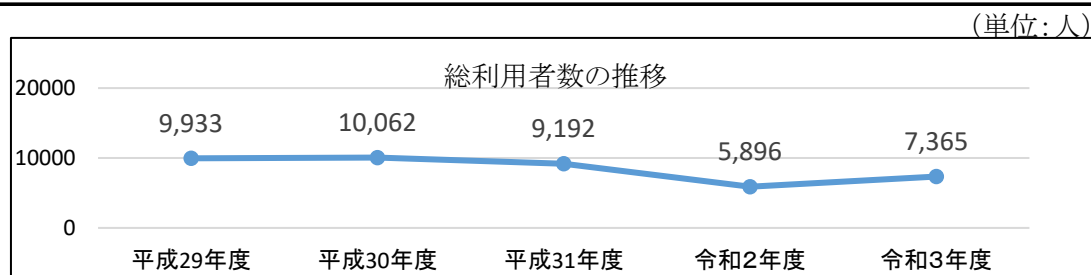
【実績と成果】

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、休館や活動制限をしたことから利用者も少ない状況でしたが、近隣住民から2件と利用者1件の計3件の相談などがあり関係機関等と調整いたしました。

③ 施設スペースを活用して、利用者の方々が培ってこられた経験や趣味を発表する機会を提供し、地域住民の交流や相互啓発に取り組みます。

【実績と成果】

- ・ 地域住民の交流や相互啓発に取り組む予定で計画していましたが、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、休館や活動制限をしたことから実績はありませんでした。



(2) 趣味の会利用人数

グループ名	会員数(人)	活動回数(回)	参加人数(人)
碁友会(囲碁)	7	43	153
囲碁同好会	7	46	209
将棋同好会	14	45	294
銀唱会(カラオケ)	11	14	114
ファインクラブカラオケ	8	12	79
七草大正琴(大正琴)	0	0	0
すみれ会(ハーモニカ)	9	11	66
なでしこ会(生花)	8	10	70
エコの会(エコクラフト)	8	16	110
ダーツ愛好会	13	22	242
MTC(卓球)	17	45	409
南りんどう同好会(卓球)	17	42	207
歌謡ダンス同好会	12	39	320
楽しむフラの会(フラダンス)	7	23	148
いきいき百歳体操	10	44	435
はつらつ会(体操)	11	22	196
骨盤体操「ひまわり」	19	21	248
シニアヨガ	17	23	238
Y.Y Club(卓球)	14	13	71
計	209	491	3,609

※ 七草大正琴(大正琴)は、令和3年4月で活動を終了されました。

※ なでしこ会(生花)は、令和4年3月で活動を終了されました。

(3) 定期講座等受講状況

(単位:人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ピラティス	—	—	—	—	—	—	20	20	11	22	23	24	120
護身技法健康体操	—	—	—	—	—	—	—	—	4	8	—	—	12
健康体操	11	—	—	10	—	—	11	13	11	11	13	13	93
計	11	0	0	10	0	0	31	33	26	41	36	37	225

(4) 世代間交流事業状況

新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、開催はありませんでした。

(5) その他行事等の開催状況

(単位:人)

開催月	開催内容	参加人数
4月	成年後見相談会	3
	趣味の会(ファインクラブカラオケ) DVD機器の使用法確認	3
6月	成年後見相談会	2

7月	趣味の会 打合せ	3
	成年後見相談会	2
	趣味の会(いきいき百歳体操) ビンゴゲーム	9
8月	成年後見相談会	3
9月	成年後見相談会	3
10月	成年後見相談会	2
11月	成年後見相談会	2
12月	成年後見相談会	3
1月	成年後見相談会	1
2月	成年後見相談会	2
3月	成年後見相談会	2
	趣味の会(MTC卓球) 総会	12
計		52

(2) 地域の福祉拠点としての取り組み

取組項目 ②

- ① 日常生活での困りごとの相談ができる身近な窓口として、福祉拠点の役割を果たします。そして関係機関との連絡調整を行いながら、地域住民の拠り所として開かれた施設の運営に取り組みます。

【実績と成果】

- ・ 関係機関等と調整する相談などはありませんでした。

(3) 福祉施設機能の積極的活用

取組項目 ③

- ① 施設スペースを活用して、利用者の方々が培ってこられた経験や趣味を発表する機会を提供し、地域住民の交流や相互啓発に取り組むとともに、ホームページ・広報などで、講座や活動グループの周知に努めます。

【実績と成果】

- ・ 新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため実施できませんでした。
- ・ 川西市から市が開設する かわナビ(福祉と医療の総合情報サイト(かわにしサポートナビ))へ活動グループを対象に登録の依頼があったため、各趣味の会の代表者に会の周知や会員の増に繋がる旨を説明し、多くのグループの登録が得られました。

I1	子育て支援事業	決算科目	久代児童センター
----	---------	------	----------

主な事業内容・成果
児童福祉法及び川西市条例に基づき、市内の児童を対象に健全な遊びを通して体力増進を図り、社会適応能力を高め、情操を豊かにするための支援を行いました。 今年度も新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、閉館や主催事業が中止となりましたが、総利用人数は、前年度と比較して約42%の増となりました。 プレイルーム利用の保護者の方には積極的にお声をかけ、子育ての様子や悩み事などをお聞きし、寄り添う支援ができました。 事業の案内や中止等の情報をLINE配信(計38回)し、利用者へ迅速に伝えることができました。

今後の課題
① 引き続き、保護者が子育てと向き合う中で、育児不安にならないためにも気軽に相談できる体制づくりが必要です。 ② オンラインでの事業や参加申し込みができる環境整備が必要です。 ③ 「子育て支援拠点連絡会」を通して、各子育て拠点間との情報共有しながら事業展開を行う必要があります。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	14,425,152	19,472,920	5,047,768
受託収入	14,395,470	15,286,632	891,162
その他	0	2,200	2,200
拠点区分間繰入金収入	29,682	4,184,088	4,154,406
(支 出)	14,425,152	19,472,920	5,047,768
人件費	11,037,314	16,220,267	5,182,953
事業費	1,250,198	1,575,358	325,160
事務費	2,137,640	1,509,103	△ 628,537
その他	0	168,192	168,192

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	1,694,241	1,694,241	0
当期末支払資金残高	1,694,241	1,694,241	0

主な増減理由
① 拠点区分間繰入金収入は、基幹支援センター拠点区分からの人件費補填等による増 ② 人件費は、人事異動に伴う給与差額による増 ③ 事業費は、水道光熱費の増 ④ 事務費は、修繕費支出の減 ⑤ その他支出は、ファイナンスリース計上等に伴う増

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

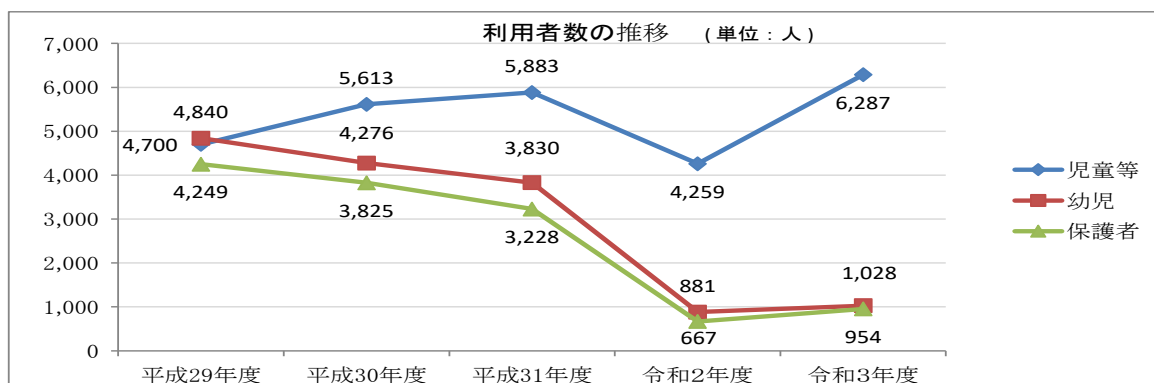
1	地域に根ざす施設運営、サービス提供	活動項目	3-4
(1)	施設利用者への地域における生活支援体制の構築	取組項目	①
① 夏まつりや各種のクラブなどの事業を通して、乳幼児から高校生、保護者や高齢者、地域住民やボランティアなどとの交流の場をつくり、施設利用者を地域で支える関係づくりに取り組みます。 また、老人福祉センター併設の特徴を活かし、高齢者と子ども、保護者との世代間の交流を深めます。 【実績と成果】 - 今年度もコロナ禍ではありましたが、小学生の放課後の利用がコロナ以前より増加しており、年間総利用人数は、8,269人となりました。 - 児童クラブは、 - 工作教室 (年2回 参加人数 28人 布クレパスで描くバッグ・フェルトのサンタクロース) - 小学生カプラ (年7回 参加人数 60人) - 冬・春休みカプラ遊び (年3回 参加人数 42人) を開催しました。 - 幼児クラブは、 - のびのびクラブ (年14回 参加人数 128人 かけっこ、ボール遊び、お遊戯、フープあそび など) - いっしょにあそぼう (年7回 参加人数 51人 親子ふれあい遊びやかけっこ、よみきかせ など) - 赤ちゃん交流会 (年4回 参加人数42人 親子ふれあい遊びや、グループトーク など) を開催しました。			

- ・その他の行事においては、10月のハロウィーンでの小物制作、12月には初めての川西児童館との合同事業でのクリスマスツリー制作、3月にひな人形をそれぞれ自宅で作成してもらい施設内で展示しました。
- ・昨年度同様、コロナ禍ということもあり、地域のボランティア団体・個人の協力が困難であったため、職員だけで最大限対応できる利用者数で開催しました。
- ・LINEの登録者数は、150人を超えました。ご利用者にとって発信する各種の情報が有効に機能しており、今後も素早く、細やかな情報を届けていけるよう努めます。

1. 利用者状況

(単位:人)

		男	女	計		男	女	計
児 童 等	1年生	64	51	115	幼 児	596	432	1,028
	2年生	107	50	157				
	3年生	119	148	267	保 護 者	94	860	954
	4年生	1,215	1,020	2,235				
	5年生	545	210	755				
	6年生	1,074	1,036	2,110				
	中学・高校	483	165	648				
小 計		3,607	2,680	6,287	合 計	4,297	3,972	8,269



(2) 地域の福祉拠点としての取組み

取組項目 ②

- ① プレイルームの利用や事業等を通して、子育ての悩みの相談を受け、必要に応じて関係機関等へ繋ぎ、保護者からのニーズに対応できるよう支援します。
また、学校等と連携し事業に取り組むと共に、地域行事に参加し地域に必要とされる施設をめざします。

【実績と成果】

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、子育てフェスティバルの中止のため地域行事の参加ができなかったことや各行事の参加協力依頼もできませんでした。
- ・久代小および加茂小学校と連携を図ることで学校の年間行事が把握できたため、それを踏まえて施設の行事予定を組むことができました。
- ・子ども若者ステーション主催の「子育て支援拠点連絡会」へ参加し、講師を招いた勉強会やグループ交流会を通して日頃の業務に対する思いや悩みなどを共有することができました。

(3) 福祉施設機能の積極的活用

取組項目 ③

- ① 夏まつりや行事を開催し、地域の児童が気軽に参加できるよう取り組むとともにトライやるウィークや高校生のインターンシップなどの受け入れを通して地域交流を図ります。

【実績と成果】

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、主催事業の中止、トライやるウィークやボランティア体験、インターンシップなどの受け入れも実施できませんでした。
- ・今年度から川西児童館と連携を図り、初めてクリスマス制作での合同事業を開催することができました。お互いの意見を取り入れながら、事業を進めることができ、利用者の方にはZoomを通して施設の紹介やクリスマスツリーの作品を公開し、両施設を知るきっかけができました。

I2	子育て支援事業	決算科目	ファミリーサポートセンター事業
----	---------	------	-----------------

主な事業内容・成果
「子育ての応援をしてほしい」(依頼会員)、「子育ての応援をしたい」(協力会員)、「子育ての応援をしてほしい、応援をしたい」(両方会員)という地域住民が会員として登録し、地域の中で育児の相互援助活動を行う会員制の組織です。地域の関係機関や団体等とのネットワークを深め、協力会員の拡充のため、民生委員定例会等で積極的にPRを行いました。 また、会員同士の交流が促進され、つながりが深まるよう、交流会や講習会を開催し、安心安全な子育て支援事業に努めるとともに、社協LINEや広報紙での啓発活動に取り組みました。

今後の課題
多様化する子育てに関するニーズや複合的課題に対し、コミュニティワーカーやボランティアコーディネーター、地域との連携に加え、行政をはじめ関係機関とのネットワーク機能を更に強化し、よりきめ細やかな調整、サポートに努める必要があります。 また、継続して協力会員の増加に向けた啓発PR活動を行うとともに、会員同士のつながりを強化するための交流事業や講習会を開催し、地域における相互援助活動がより活発になるよう取り組む必要があります。

資金収支計算書決算額 (単位:円)

科目	令和2年度	令和3年度	増減
(収 入)	6,776,765	7,484,355	707,590
受託金収入	6,656,765	7,484,355	827,590
その他	120,000		
(支 出)	6,776,765	7,484,355	707,590
人件費	5,347,355	6,159,289	811,934
事業費	318,277	607,972	289,695
事務費	971,386	658,338	△ 313,048
その他	139,747	58,756	△ 80,991

当期資金収支差額	0	0	0
前期末資金収支残高	0	0	0
当期末支払資金残高	0	0	0

主な増減理由
① 人件費は、職員の勤務日数に伴う増 ② 科目変更による事業費の増と事務費の減

令和3年度事業報告 ※第4次地域福祉推進計画の体系に位置づけられた活動項目ごとに記載しています。

1	各活動における人材発掘と育成	活動項目	2-1																																																																	
(1)	幅広い世代が活動できる場づくり	取組項目	③																																																																	
【実績と成果】																																																																				
・ 民生主任児童委員、ボランティア活動者の様々な協議の場に出向き事業説明を行い、人材の発掘に取り組みました。また、継続的に新たな協力会員や未受講者への安全講習を開催し、リスクマネジメントの徹底を図るとともに、協力会員同士のつながりを深めるため、サブリーダーを中心としたサポーター座談会を開催し、サブリーダー研修を行うなど、幅広く会員の資質向上に努めました。																																																																				
① 地域別会員登録者数(令和4年3月31日現在)																																																																				
<table><tr><td>地 区</td><td>依頼会員</td><td>協力会員</td><td>両方会員</td><td>合 計</td></tr><tr><td>久代小</td><td>28</td><td>6</td><td>10</td><td>44</td></tr><tr><td>加茂小</td><td>43</td><td>13</td><td>10</td><td>66</td></tr><tr><td>川西小</td><td>86</td><td>17</td><td>18</td><td>121</td></tr><tr><td>桜ヶ丘小</td><td>43</td><td>13</td><td>6</td><td>62</td></tr><tr><td>川西北小</td><td>52</td><td>9</td><td>11</td><td>72</td></tr><tr><td>明峰小</td><td>61</td><td>23</td><td>21</td><td>105</td></tr><tr><td>けやき坂小</td><td>31</td><td>17</td><td>15</td><td>63</td></tr><tr><td>多田小</td><td>32</td><td>20</td><td>13</td><td>65</td></tr><tr><td>多田東小</td><td>42</td><td>7</td><td>6</td><td>55</td></tr><tr><td>緑台小・陽明小</td><td>43</td><td>14</td><td>15</td><td>72</td></tr><tr><td>清和台小・清和台南小</td><td>28</td><td>25</td><td>9</td><td>62</td></tr><tr><td>東谷小</td><td>43</td><td>19</td><td>7</td><td>69</td></tr></table>				地 区	依頼会員	協力会員	両方会員	合 計	久代小	28	6	10	44	加茂小	43	13	10	66	川西小	86	17	18	121	桜ヶ丘小	43	13	6	62	川西北小	52	9	11	72	明峰小	61	23	21	105	けやき坂小	31	17	15	63	多田小	32	20	13	65	多田東小	42	7	6	55	緑台小・陽明小	43	14	15	72	清和台小・清和台南小	28	25	9	62	東谷小	43	19	7	69
地 区	依頼会員	協力会員	両方会員	合 計																																																																
久代小	28	6	10	44																																																																
加茂小	43	13	10	66																																																																
川西小	86	17	18	121																																																																
桜ヶ丘小	43	13	6	62																																																																
川西北小	52	9	11	72																																																																
明峰小	61	23	21	105																																																																
けやき坂小	31	17	15	63																																																																
多田小	32	20	13	65																																																																
多田東小	42	7	6	55																																																																
緑台小・陽明小	43	14	15	72																																																																
清和台小・清和台南小	28	25	9	62																																																																
東谷小	43	19	7	69																																																																

牧の台小	49	21	12	82
北陵小	16	6	5	27
猪名川町	84	29	31	144
宝塚市・伊丹市	13	5	3	21
合 計	694	244	192	1,130
入 会	71	15	6	92
退 会	60	4	4	68

② 会員確保に向けた取り組み

開 催 日	内 容	参加者(人)
7月1日	宝塚ファミリサポートセンター講習会でのPR	20
8月2日	子育て自主グループ、主任児童委員まちの子育てひろば交流会でのPR	12
8月2日	主任児童委員にてPRのための説明	22
10月13日	主任児童委員定例会にてPRのため説明と研修会	35

※ 園所長会でのPR、合同施設長会でのPRは新型コロナウイルスのため次年度へ

※ 登録ボランティア活動者、民生主任児童委員を中心に随時、会員確保に向けた事業説明を実施

③ 講習会の開催

開 催 日	内 容	参加者(人)
7月8日	ステップアップ研修1回目 「救命救急講習」	15
7月13日	見つけて防ごうサポート中の事故 安全講習2回目	4
10月7日	見つけて防ごうサポート中の事故 安全講習3回目	7
10月20日	見つけて防ごうサポート中の事故 安全講習4回目	4
10月26日	第1回講習会 「子どもが成長する瞬間」Part2	29
11月10日	第2回講習会「相談支援員の1日」	38
11月30日	ステップアップ研修2回目 「救命救急講習」	10
12月20日	第3回講習会「サポーター座談会」	26
3月3日	子育て支援講座	20
3月9日	見つけて防ごうサポート中の事故 安全講習6回目	4

※ 安全講習1回目、5回目は新型コロナウイルスの影響で中止

※ 第4回講習会は新型コロナウイルスの影響で中止

④ 交流会の開催

※ なし

2	福祉情報の受発信	活動項目	2-2
(1)	ホームページや広報紙、情報紙などの充実	取組項目	③

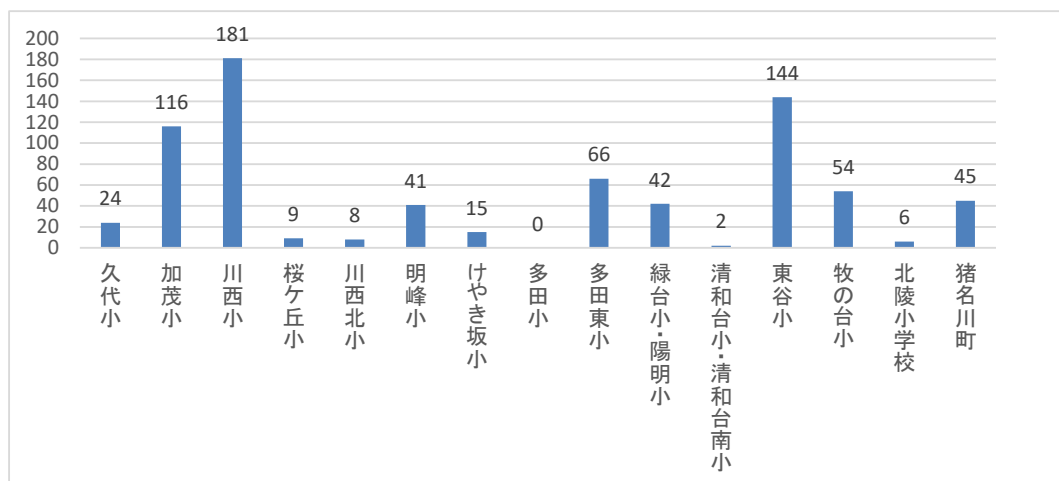
【実績と成果】

- ・ 社協LINEを活用し、ファミサポ通信(情報誌)や講習会開催の情報発信を行うことで、会員以外の地域住民に対しても、幅広くセンターの情報発信や啓発の推進に取り組みました。
- また、YouTubeチャンネルにてPR動画の作成、発信、缶バッジ等啓発グッズの作成など、幅広い世代へ周知を図るとともに、市の広報紙や社協かわにしに協力会員の活動を掲載するなど、包括的な情報発信に取り組みました。

① 広報紙(ファミリーサポート通信)の発行

号数	発行月	部数
第53号	8月(夏発行)	2,000
第54号	2月(春発行)	2,000

3	ほっとかない、あきらめない支援の強化	活動項目	3-2																																																																																													
(1)	社会的孤立などの課題の対応	取組項目	④																																																																																													
【実績と成果】																																																																																																
・ 複合的課題を抱えた子どもや保護者の相談に対し、川西市・猪名川町や川西さくら園、または相談支援を担う機関と連携しながら、必要に応じて事前打ち合わせにアドバイザーが参画するなど、きめ細やかな調整やサポートに努めました。																																																																																																
① サブリーダー会、各種研修会、講習会、イベントへの職員の参画																																																																																																
<table><tr><td>開催日</td><td>内 容</td><td>参加者(人)</td></tr><tr><td>毎月第3月曜</td><td>サブリーダー会(原則、8月を除く毎月開催。中止月含め9回開催)</td><td>94</td></tr><tr><td>10月15日</td><td>アドバイザー全国交流会・講習会ドバイザー会議</td><td>2</td></tr><tr><td>11月19日</td><td>ファミリーサポートセンター事業の広域連携にかかるワーキング会議</td><td>3</td></tr><tr><td>12月22日</td><td>リスクマネジメント講習会</td><td>2</td></tr><tr><td>2月9日</td><td>兵庫県アドバイザー等研修会</td><td>1</td></tr><tr><td>2月22日</td><td>4市1町アドバイザー研修</td><td>2</td></tr></table>				開催日	内 容	参加者(人)	毎月第3月曜	サブリーダー会(原則、8月を除く毎月開催。中止月含め9回開催)	94	10月15日	アドバイザー全国交流会・講習会ドバイザー会議	2	11月19日	ファミリーサポートセンター事業の広域連携にかかるワーキング会議	3	12月22日	リスクマネジメント講習会	2	2月9日	兵庫県アドバイザー等研修会	1	2月22日	4市1町アドバイザー研修	2																																																																								
開催日	内 容	参加者(人)																																																																																														
毎月第3月曜	サブリーダー会(原則、8月を除く毎月開催。中止月含め9回開催)	94																																																																																														
10月15日	アドバイザー全国交流会・講習会ドバイザー会議	2																																																																																														
11月19日	ファミリーサポートセンター事業の広域連携にかかるワーキング会議	3																																																																																														
12月22日	リスクマネジメント講習会	2																																																																																														
2月9日	兵庫県アドバイザー等研修会	1																																																																																														
2月22日	4市1町アドバイザー研修	2																																																																																														
※猪名川キッズフェスティバル、親子クッキング、川西市主催 かわにし子育てフェスティバルは新型コロナウイルスの影響により中止																																																																																																
4	専門機関・団体との連携、ネットワークの強化	活動項目	3-3																																																																																													
(1)	顔の見えるつながりづくりの推進	取組項目	①																																																																																													
【実績と成果】																																																																																																
・ 昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、各種講座、イベントも中止となりましたが、民生主任児童委員や民生委員定例会に説明に出向き、センターの現状や地域における相互援助活動の必要性を具体的事例を交えて説明するなど、関係団体との連携を深めました。 今後、どのような状況下でも、地域や会員とつながり合えるようネットワークの拡充に取り組みます。																																																																																																
① 地域別依頼受付数と活動件数																																																																																																
<table><tr><th rowspan="2">地域区分</th><th colspan="3">依頼受付数</th><th rowspan="2">活動件数</th></tr><tr><th>受付</th><th>キャンセル</th><th>不成立</th></tr><tr><td>久代小</td><td>34</td><td>9</td><td>1</td><td>24</td></tr><tr><td>加茂小</td><td>126</td><td>10</td><td>0</td><td>116</td></tr><tr><td>川西小</td><td>195</td><td>12</td><td>2</td><td>181</td></tr><tr><td>桜ヶ丘小</td><td>23</td><td>14</td><td>0</td><td>9</td></tr><tr><td>川西北小</td><td>12</td><td>3</td><td>1</td><td>8</td></tr><tr><td>明峰小</td><td>47</td><td>6</td><td>0</td><td>41</td></tr><tr><td>けやき坂小</td><td>23</td><td>5</td><td>3</td><td>15</td></tr><tr><td>多田小</td><td>26</td><td>23</td><td>3</td><td>0</td></tr><tr><td>多田東小</td><td>80</td><td>11</td><td>3</td><td>66</td></tr><tr><td>緑台小・陽明小</td><td>62</td><td>19</td><td>1</td><td>42</td></tr><tr><td>清和台小・清和台南小</td><td>3</td><td>1</td><td>0</td><td>2</td></tr><tr><td>東谷小</td><td>216</td><td>51</td><td>21</td><td>144</td></tr><tr><td>牧の台小</td><td>68</td><td>13</td><td>1</td><td>54</td></tr><tr><td>北陵小</td><td>10</td><td>4</td><td>0</td><td>6</td></tr><tr><td>猪名川町</td><td>64</td><td>17</td><td>2</td><td>45</td></tr><tr><td>宝塚市・伊丹市</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td><td>0</td></tr><tr><td>合 計</td><td>989</td><td>198</td><td>38</td><td>753</td></tr></table>				地域区分	依頼受付数			活動件数	受付	キャンセル	不成立	久代小	34	9	1	24	加茂小	126	10	0	116	川西小	195	12	2	181	桜ヶ丘小	23	14	0	9	川西北小	12	3	1	8	明峰小	47	6	0	41	けやき坂小	23	5	3	15	多田小	26	23	3	0	多田東小	80	11	3	66	緑台小・陽明小	62	19	1	42	清和台小・清和台南小	3	1	0	2	東谷小	216	51	21	144	牧の台小	68	13	1	54	北陵小	10	4	0	6	猪名川町	64	17	2	45	宝塚市・伊丹市	0	0	0	0	合 計	989	198	38	753
地域区分	依頼受付数				活動件数																																																																																											
	受付	キャンセル	不成立																																																																																													
久代小	34	9	1	24																																																																																												
加茂小	126	10	0	116																																																																																												
川西小	195	12	2	181																																																																																												
桜ヶ丘小	23	14	0	9																																																																																												
川西北小	12	3	1	8																																																																																												
明峰小	47	6	0	41																																																																																												
けやき坂小	23	5	3	15																																																																																												
多田小	26	23	3	0																																																																																												
多田東小	80	11	3	66																																																																																												
緑台小・陽明小	62	19	1	42																																																																																												
清和台小・清和台南小	3	1	0	2																																																																																												
東谷小	216	51	21	144																																																																																												
牧の台小	68	13	1	54																																																																																												
北陵小	10	4	0	6																																																																																												
猪名川町	64	17	2	45																																																																																												
宝塚市・伊丹市	0	0	0	0																																																																																												
合 計	989	198	38	753																																																																																												



※ キャンセルの主な理由

- ・家族で対応
- ・行事そのものの中止

(新型コロナウイルス感染症拡大による休校・学級閉鎖含む)

※ 不成立の主な理由

- ・協力会員の都合が合わない、体調が悪い

② 依頼内容別援助活動件数

活 動 内 容	件 数
保育施設の保育開始前や保育終了後の子どもの預かり	234
保育施設までの送迎	93
放課後児童クラブ終了後の子どもの預かり	41
放課後児童クラブの送迎	0
学校の放課後の子どもの預かり	4
学校の放課後の送迎	0
冠婚葬祭や他の子どもの学校行事の際の子どもの預かり	2
買い物等の外出の際の子どもの預かり	3
障がい児の送迎(療育施設、習い事等)	66
障害児の預かり	0
小学校の登校前の子どもの預かり	1
放課後児童クラブの開始前の子どもの預かり	20
習い事等への子どもの送迎	214
保育所・学校等が休み時の子どもの預かり	0
依頼会員宅での預かり	36
保護者が兄弟・姉妹の習い事等の送迎を行う際の子どもの預かり	24
保護者の病気、その他急用の場合の子どもの預かり	3
保護者等の求職活動中の子どもの預かり	0
保護者等の自宅就労、短時間、臨時的就労の場合の子どもの預かり	0
保護者の趣味、リフレッシュの際の子どもの預かり	5
慣らし保育	5
その他 (母の健康診断時の兄弟の預かり)	2